

貝類

選定方法とカテゴリー

福岡県 RDB2001 では、陸・淡水・汽水域に生息する貝類を選定対象とし、海域の種についてはウミマイマイなどごく少数を取り上げた。近年、日本ベントス学会（2012）が干潟域のベントスのレッドデータブックを刊行し、環境省も 2012 年の第 4 次レッドリストの見直しにおいて干潟・内湾域の貝類を加えた。こうした動向を受けて、福岡県でも海域の貝類を選定対象としたが、干潟・内湾域に限定せず、全ての種を選定対象とした。

種を選定にあたって、福岡県内に分布する貝類の 1 次リスト（約 7000 件の記録を入力したデータベース）を作成し、さらに福岡県 RDB2001 に掲載された種、環境省レッドリストに掲載された種で福岡県内に分布する種、それ以外に福岡県内で減少傾向にあると考えられる種を選定し、2 次リストを作成した。2 次リストの種を中心に、現地調査・文献調査・博物館等の標本調査を行い、最終的な選定・評価を行った。

福岡県 RDB2001 に掲載された種、環境省レッドリストに掲載された種で福岡県内に分布する種のうち、福岡県 RDB2014 から除外したのは 15 種で、それらはその理由とともに後述した。

カテゴリーの内容は環境省に準じたが、情報不足（DD）には移入の可能性のある種など、レッドリストの対象外となる可能性のある種も含まれている。主に 1990 年代以前と 2000 年代以降について、生息地数・確認頻度・生息密度の比較、生息地の規模（面積）、生息地周辺の開発状況などに基づく定性的な評価によって、カテゴリーを決定した。

分類体系は、Beesley *et al.* (1998)、奥谷 (2000)、日本ベントス学会 (2012) などを参照した。

分布情報

分布情報については、情報源を明示したものと、明示しなかったものがある。文献を引用したものについては、(高橋・岡本, 1969) などと表記し、年代順に掲載した。引用文献の前に表記された複数の産地は、全てその文献に含まれる。(2010 年) などの形式で表記したものは、現地調査、標本情報、アセスメント資料からの引用、私信によるもので、未発表・非公開データを含んでいる。また、(2010 年) などと表記されているものは、生息またはごく新鮮な貝殻が確認されたことを意味しており、古い殻などの確認で生息が保証されない記録では、(2010 年：殻) と表記した。文献情報と現地調査などの情報を併記する際は、文献情報の後に「;」で現地調査などの情報を示した。環境影響評価などのアセスメント資料からの情報は、信頼性が高いと判断されたもののみを用いた。地名表記の詳細については、後述した。また種・生息地保全の観点から、一部の種では詳細な産地記載をひかえた。可能な範囲で詳細な産地記載を行ったのは、将来的な保全・研究に寄与するためであり、本項の情報によって乱獲などが起こらないよう、強く注意を促すものである。分布記録の記載において、分科会委員と福岡貝類同好会メンバーによるものは基本的に調査者無記名とし、外部協力者の記録には姓名を記載したが、一部は記名を省略したのものがあることをお詫びしておく。

[分布情報の地名表記]

市町村合併や住居表示の変更によって、地名表記が過去と現在で異なるものがある。引用文献を示したものについては、基本的に文献に示された表記で記載した。その他の記録では、現在の住居表示に基づいて記載したが、分かりやすい表記方法を優先した。地名は文献記録以外では基本的に東から西、北から南に記載した。分布情報に示された地名（下記に下線で示した）の属す行政区、その詳細や現在表記は以下のとおりである。注釈が必要と思われるもののみ示した。

玄界灘・響灘: 宗像市鐘崎以西を玄界灘、以东を響灘とする海上保安庁の区分に従った。高橋・岡本(1969)の

区分も同様である。**博多湾**:西部の今津湾を含む。

築上郡:宇留津, 椎田町宇留津(築上町宇留津), **豊前市**:松江, **行橋市**:蓑島, **北九州市**:曾根干潟(小倉南区 曾根干潟一帯, 流入河川河口域を含む), 曾根干潟沖(土田ほか, 1991 のドレッジ地点 St. 4 で, 文中では「小野田沖」と表現されているが, 経緯度も地図上の位置も曾根干潟の西沖にもあたるため, 本項では曾根干潟沖として記載した), 門司(門司区), 青浜(門司区大字白野江 青浜), 馬島(小倉北区馬島), 若松燈台付近(若松区, 洞海湾の湾口部北東岸, 海岸の埋立が進んでおり, 現在地との対応未確認), 脇田(若松区安屋 脇田), 岩屋(若松区有毛 岩屋), 平尾台(平尾台の範囲は, 北九州市小倉南区, 行橋市, 田川郡香春町, 京都郡苅田町・みやこ町にわたっているが, 本項では北九州市小倉南区に含まれる範囲を指す), **遠賀郡**:汐入川(河口部は岡垣町), 波津(岡垣町原 波津海岸), **宗像市**:鐘崎, 神湊, 大島, 沖ノ島, **福津市**:津屋崎(福津市津屋崎, 旧・宗像郡津屋崎町津屋崎周辺の海岸), 福岡市:福岡町・福岡海岸(福津市西福岡および花見が浜, 旧・宗像郡福岡町の海岸), **福岡市東区**:志賀島, 海の中道(本項では玄界灘側を指す), 西戸崎, 和自, 御島, 名島, 多々良(多々良川河口周辺), 箱崎, **福岡市中央区**:西公園, 鶴来島, 湊町(旧・北湊町周辺), 地行(地行浜, 「知行, 知行浜」の表記もある), 樋井川(左岸は早良区), 鳥飼(城南区にまたがる), **福岡市早良区**:百道(百道, 百道浜), 西新町(西新), **福岡市西区**:残島(能古島), 室見川(右岸は早良区), 小戸, 生松原(生の松原), 今津・今津干潟・瑞梅寺川河口(瑞梅寺川河口・干潟域とその外側の今津地区が含まれる。瑞梅寺川河口から今津橋までの干潟域の近年の記録は今津干潟で統一した。近年の記録で今津としたものは, 今津橋の外側の浜崎町～宝島周辺である), 大原(今津 大原), 宮浦, 西浦・西ノ浦(西浦), 玄界島, **糸島市**:桜井(志摩桜井), 野北(志摩野北), 芥屋(志摩芥屋), 姫島(志摩姫島), 船越(志摩船越), 寺山(志摩久家 寺山), 加布里湾(泉川河口の湾で, 船越湾と表記されている地図が多い。広義の唐津湾に含まれる), 深江(二丈深江), 福吉・福吉港(二丈福井 福吉, 福吉漁港の漁業混獲物は福吉港と記載した), 水無(瑞梅寺 水無), 旧・糸島郡の文献記録では町名を省略した, **柳川市**:沖端・沖ノ端(沖端川河口域および沖端漁港周辺, 漁業混獲物を含む), 中島(大和町中島, 矢部川河口付近), **大牟田市**:黒崎(大牟田市岬 黒崎。ウミマイマイなどが採集された黒崎海岸の地先は埋立られ, 大牟田市昭和開となっている)。 三池沖(波部・田中, 1959 やその他の調査地点で, 三池港の沖に位置するものを三池沖と記載した)。

“**Mososeki**”について:A. Adams が記載したいくつかの種のタイプ産地“Mososeki”は, 山口県下関としている文献もあるが, アダムスの航海記 (Adams, 1870)では下関は“Shimonoseki”と明記されており, その海峡の対岸に“Mosi or Mososaki”の地名を挙げている。また, Pilsbry (1902)も“Mososeki”は九州・豊前地区の北部の村で“Mosi” “Moji”と地図にあるとしている。これらのことから, “Mososeki” “Mososaki”は北九州市の門司であることが明らかである。本項では, 門司をタイプ産地とするマメマイマイ, イソカゼガイが掲載された。

調査協力者・データ提供者 (50 音順)

足利由紀子, 新井章吾, 石川 裕, 魚住賢司, 氏野 優, 大井和之, 大西正人, 岡本正豊, 梶原忠裕, 狩野泰則, 亀田勇一, 河口定生, 菊池泰二, 木下眞實, 九州環境管理協会, 九州大学総合研究博物館, 黒住耐二, 小林 哲, 佐伯愛美, 酒井奈美, 阪本 登, 佐藤勝義, 佐野彰一, 杉野弘武, 高田大輔, 田中正信, 泊 秀治, 中島 淳, 西宮市貝類館, 芳賀拓真, 原戸眞視, 平尾台自然観察センター, 福岡県水産海洋技術センター, 藤井暁彦, 藤永 豪, 藤本博文, 逸見泰久, 丸山俊幸, 道山晶子, 百崎義隆, 森 敬介, 矢野重文, 和田太一。

除外した種

スカシエビス *Sukashitrochus carinatus* (A. Adams, 1862) 環境省・絶滅危惧 II 類:県内では, 宗像市神湊, 福津市津屋崎, 福岡市志賀島で記録がある。本種は近年も日本各地(石川県, 神奈川県, 和歌山県, 高知県, 大分県, 佐賀県など)の外洋の砂浜や岩礁域の打ち上げで多くの記録があり, また潮下帯にも広く分布していると考えられるため, 絶滅危惧種とは考えにくい。

イシマキガイ *Clithon retropictus* (Martens, 1879) 福岡県 2001 年・絶滅危惧 II 類:県内の河川に広く分布しており, 個体数も多い。博多湾内にも生息地が存在する。

カワグチツボ *Iravadia (Fluviocingula) elegantula* (A. Adams, 1861) 環境省・準絶滅危惧: 県内では北九州市曾根干潟, 福岡市和白・御島・今津干潟, 有明海の筑後川・沖端川・塩塚川・矢部川各河口に分布し, 個体数は多く, 有明海では優占種になっている。埋立・水質汚濁などの影響を受けてきた場所にも生息しており, 県内では減少傾向は認められない。しかし, 全国的には分布は局所的であり, 福岡県の生息地保全は重要である。

エドガワミズゴマツボ *Stenothyra edogawensis* (Yokoyama, 1927) 環境省・準絶滅危惧: 県内では山国川河口, 福岡市奈多・和白・御島・瑞梅寺川河口, 筑後川河口などに分布する。和白・御島などの都市部でも豊富に生息し優占種となっており, 県内では減少傾向は認められない。しかし, 全国的には分布は局所的であり, 福岡県の生息地保全は重要である。

カワザンショウ *Assiminea japonica* Martens, 1877 福岡県 2001 年・準絶滅危惧: 県内の河口域・汽水域に広く分布しており, 個体数も多い。

オオウスイロヘソカドガイ *Paludinellassiminea tanegashimae* (Pilsbry, 1924) 福岡県 2001 年・準絶滅危惧: 県内では玄界灘沿岸・博多湾湾口部などに分布し, 確認地点は多く, 個体数も少なくない。人工護岸でも, 堆積物帯や隠蔽場所が形成されれば生息する。絶滅のおそれは低いと考えられる。

フドロ *Strombus robustus* G. B. Sowerby II, 1874 環境省・準絶滅危惧: 県内では玄界灘・博多湾から, ごく僅かな記録がある(高橋・岡本, 1969; 魚住, 1998)のみで, 偶存分布もしくは, もともと生息量の少ない分布パターンを示していると考えられるため, 対象外とした。

ムシロガイ *Niotha livescens* (Philippi, 1849) 環境省・準絶滅危惧: 県内では周防灘・響灘・玄界灘・博多湾に分布し, 生息地は多く, 個体数も多い。博多湾奥部の人工海浜にも多産する。本種は九州では, 各地の内湾の干潟から潮下帯に普通にみられ, 特に水深数 m の潮下帯域では多産することが多い。また, 外洋域の砂底にも生息する。少なくとも九州地方では, 絶滅のおそれのある種とは考えにくい。

ヒガタヨコイトカケギリ *Cingulina cf. cingulata* (Dunker, 1860) 環境省・情報不足: 県内では周防灘, 博多湾に分布し, 和白周辺の博多湾東部海域では多産する。本種は日本本土の内湾域にかなり普通にみられるため, 今回は対象外とした。

インドヒラマキ *Indoplanorbis exustus* (Deshayes, 1832) 福岡県 2001 年・絶滅危惧 I 類: 比較的新しい時代の国外からの移入種であり, レッドリストの対象外である。

ダイミョウガイ *Pharaonella perna* (Spengler, 1798) 環境省・準絶滅危惧: 県内では宗像市神湊で記録されている(高橋・岡本, 1969)。本種は熱帯性種であるが, 玄界灘・響灘沿岸の外洋域浅海で稀に生息がみられる。分布の北限域で, もともと生息量の少ない分布パターンを示していると考えられるため, 対象外とした。

ナミノコガイ *Donax (Latona) cuneatus* Linnaeus, 1758 環境省・準絶滅危惧: 県内の玄界灘・響灘沿岸の砂浜に広く生息し, ほとんどの場所で多産する。津屋崎・福岡海岸では, 1980 年代以前よりも明らかに増加している。県内では減少傾向がなく, 絶滅のおそれがあるとはいえない。しかし, 全国的には分布は限定的で, 砂浜環境の悪化により個体群が衰退している地域もあり, 福岡県の生息地保全は重要である。

アシベマスオ *Soletellina petalina* (Deshayes, 1855) 環境省・情報不足: 県内では玄界灘沿岸で生息が確認されている。明らかに近年になって, 国内に分布を拡大した種と考えられ, 国外の広い分布から考慮しても, 現状ではレッドリストの対象種になり得ないと考えられる。

ウネナシトマヤガイ *Trapezium (Neotrapezium) liratum* (Reeve, 1843) 環境省・準絶滅危惧: 県内では, 周防灘・洞海湾・博多湾・有明海などに分布し, 多産する。絶滅のおそれがあるとはいえない。

クチバガイ *Coecella chinensis* Deshayes, 1855 環境省・準絶滅危惧: 県内では, 周防灘・響灘・玄界灘・博多湾の各地に個体群がある。埋立・護岸などで消滅した産地もあるが, 現在も生息地が多く, 絶滅のおそれがあるとはいえない。

口絵写真データ: 和名, 撮影(採集)地(採集者), 撮影(採集)年, 撮影者

1. ゴマオカタニシ, 平尾台, 2006, 山下博由; 2. ヤマキサゴ, 古処山, 2012, 酒井奈美; 3. ミヤザキムシオイ, 福岡市(藤本博文採集), 1999, 矢野重文; 4. アズキガイ, 糸島市志摩小金丸, 2013, 松隈明彦; 5. マルタニシ, 筑紫郡那珂川町, 2013, 石橋猛; 6. クロヘナタリ, 塩塚川, 2012, 石橋; 7. イボウミニナ, 加布里湾, 2013, 山下; 8. ヒメ

マルマメタニシ, 糸島市二丈福井, 1999, 松隈; 9. アズキカワザンショウ, 大牟田市堂面川, 2012, 石橋; 10. アダムスタマガイ, 福岡市今津(西宮市貝類館所蔵 NCKG-06658), 1951, 山下; 11. ゴマフダマ, 沖端川沖, 2013, 石橋; 12. サキグロタマツメタ, 柳川市大和干拓沖, 2002, 石橋; 13. オオクリイロカワザンショウ, 遠賀郡遠賀町西川, 2012, 酒井; 14. マルテンスマツムシ, 塩塚川沖, 2002, 石橋; 15. ウネムシロ, 福岡市今津干潟(森敬介採集), 2005, 山下; 16a. ハネナシヨウラク, 博多湾西部, 2013, 山下; 16b. ハネナシヨウラク, 糸島市寺山, 松隈; 17. ウネナシイトカケ, 矢部川沖, 2001, 石橋; 18. バイ, 有明海福岡県沖, 2009, 石橋; 19. ウミマイマイ, みやま市高田町昭和開地先, 2012, 石橋; 20. ヌカルミクチキレ, 今津干潟(森採集), 2005, 山下; 21. ヒメゴウナ, 福津市福間海岸(田中正信採集), 2013, 山下; 22. センベリアワモチ, 塩塚川, 2012, 石橋; 23. ヤベガワモチ, 塩塚川, 2006, 石橋; 24. オキヒラシイノミ, 福津市, 2003, 一般財団法人九州環境管理協会; 25. ヤマボタル, 糸島市(松隈採集), 2004, 矢野; 26. サナギガイ, 糸島市志摩小金丸, 1999, 松隈; 27. ホソキセルモドキ, 糸島市二丈吉井, 2004, 松隈; 28. ナガオカモノアラガイ, 筑紫郡那珂川町, 2013, 石橋; 29. シメクチマイマイ, 京都郡みやこ町, 2007, 山下; 30. ナカヤママイマイ, 平尾台, 2007, 山下; 31. カタマメマイマイ, 糸島市志摩小金丸, 2006, 高田大輔; 32. ケガイ, 福岡市能古島(岡本正豊採集), 1948, 山下; 33. ハイガイ, 大和干拓沖, 2013, 石橋; 34. ビョウブガイ, 博多湾(佐藤勝義採集), 1978, 松隈; 35. スミノエガキ, 筑後川沖, 2008, 山下; 36. ヤミノニシキ, 柳川市沖端(佐藤採集), 1975, 山下; 37. オバエボシ, 柳川市, 2013, 石橋; 38. ニセマツカサガイ, 柳川市, 2013, 石橋; 39. トンガリササノハ, 柳川市, 2013, 石橋; 40. イチョウシラトリ, 今津干潟(森採集), 2005, 山下; 41. フレイガイ, 豊前市, 2013, 山下; 42. シラオガイ, 福間海岸(田中採集), 2010, 山下; 43. ハマグリ, 加布里湾, 2013, 山下; 44. チョウセンハマグリ, 宗像市神湊, 2011, 山下; 45. シナヤカスエモノガイ, 福岡市今津(梶原忠裕採集), 2013, 山下; 46. オビクイ, 福津市恋の浦(田中採集), 2013, 山下。

引用文献

- Adams, A., 1864. On some new genera and species of Mollusca from the Seas of China and Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, series 3, 13 (76): 307-310.
- Adams, A., 1870. *Travels of naturalist in Japan and Manchuria*. Hurst and Blackett Publishers, London.
- 相島 昇, 1995. アゲマキの発生に及ぼす水温・塩分の影響. 福岡県水産海洋技術センター研究報告, 4: 53-55.
- 東 正雄, 1982. 日本産ピロウドマイマイ属 2 新種. *Venus*, 41: 102-108.
- Beesley, P. L., Ross, G. J. B. and Wells, A., (eds), 1998. *Mollusca: The southern Synthesis*. Fauna of Australia. Vol. 5, Part A, Part B. CSIRO Publishing, Melbourne.
- Bouchet, P., Kantor, Y. I., Sysoev, A. and Puillandre, N., 2011. A new operational classification of Conoidea (Gastropoda). *Journal of Molluscan Studies*, 77: 273-308.
- 江川和文, 2010. 佐賀総会で得た軟体動物 2 種の知見 —ムラサキダコとハネナシヨウラクー—. 九州の貝, 73-74: 15-19.
- 福田 宏, 2000. 巻貝類 I — 総論. 佐藤正典 (編), 有明海の生きものたち. 海游舎, 東京. pp. 100-137.
- 福田 宏, 2003. 岡山大学農学部水系保全学研究室所蔵貝類標本(1). 岡山大学農学部学術報告, 92: 75-102.
- Fukuda, H. and Ekawa, K., 1997. Description and anatomy of a new species of the Elachisinidae (Caenogastropoda: Rissoidae) from Japan. *The Yuriyagai*, 5: 69-88.
- 福岡県環境部自然環境課, 2001. 福岡県の希少野生生物 —福岡県レッドデータブック 2001—. 福岡県総務部県民情報広報課, 福岡.
- 福岡市環境局, 2012. 平成 23 年度 博多湾の環境保全に関して講じた措置およびモニタリング調査結果. 福岡市, 福岡.
- 波部忠重, 1943. 日本産カワザンショウガヒ科の追補訂正. *Venus*, 13: 96-106.
- Habe, S. and Habe, T., 1983. A new species of the genus *Angustassiminea* from the northern Kyushu, Japan (Gastropoda: Assimineidae). *Venus*, 41: 237-239.
- 波部忠重・田中弥太郎, 1959. 有明海の貝類相—I. 有明海研究報告, 5: 9-18.
- 浜野龍夫, 1991. シャコの生物学 19—日本産シャコの分類と検索— 17 ヒメシャコ科. *海洋と生物*, 12: 46-50.
- 逸見泰久・三好美由紀・川内識史, 2013. 有明海北東部漁場におけるタイラギ *Atrina* spp. の大量死. *日本ベントス学会誌*, 67:

64-72.

- Hori, S. and Tsuchida, E., 1995. A revision of systematic position of genus *Leucotina* (Gastropoda: Heterostropha). *Venus*, 54: 279-293.
- Huber, M., 2010. *Compendium of bivalves*. Conch Books, Hackenheim.
- 今井秀行, 2008. 石垣島で採集された日本初記録のドブガイモドキ(二枚貝綱:イシガイ科). 沖縄生物学会誌, 46: 65-70.
- 石井久夫, 2005. 周防灘産のチリメンユキガイについて. 山口貝類研究談話会 2005 年度大会資料集:6.
- 伊藤良吉, 1967. ホラアナゴマオカチグサの分布について. 秋吉台科学博物館報告, 4: 83-87.
- 伊藤輝昭・松本昌大, 2013. 有明海における有用カキ 3 種の分布と採苗に関する研究. 福岡県水産海洋技術センター研究報告, 23: 47-51.
- 金澤孝弘, 2006. 有明海におけるウネハナムシログイの出現. 福岡県水産海洋技術センター研究報告, 16: 163-165.
- 河本卓介, 1934. 貝類雑俎(5). *Venus*, 4: 307-311.
- 菊池泰二, 1985. 有明海のチゴマテガイ. ちりぼたん, 16: 75-76.
- 北野 忠・今井秀行, 2012. 福岡県で採集された九州初記録のドブガイモドキ. 日本生物地理学会会報, 67: 193-196.
- 小林 哲, 2012. 玄界灘の砂浜海岸におけるナミノコガイの成長と分布様式. 日本ベントス学会誌, 66: 93-101.
- 小林 哲, 2013. 福岡県古賀市の砂浜海岸で採集されたシマトラフヒメシヤコ. *Cancer*, 22: 5-7.
- 古賀秀昭, 1991. 有明海北西海域の底質及び底生生物. 佐賀県有明水産振興センター研究報告, 13: 57-59.
- 小菅丈治・輿石裕一・大坂幸男, 1998. 有明海湾奥部におけるウネハナムシログイの生息. 南紀生物, 40: 68-70.
- 近藤高貴, 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会, 東京.
- 熊本県地域振興部文化企画課, 2008. 熊本県文化企画課松橋収蔵庫資料目録 Vol. 5 生物 2 立志徹郎貝類標本目録 I. 熊本県地域振興部文化企画課, 熊本.
- 黒田徳米, 1928. 日本貝類群に新たに加へられた二科. *Venus*, 1: 10-15.
- 九州・琉球湿地ネットワーク(編), 1999. 1999 九州・南西諸島湿地レポート. 九州・琉球湿地ネットワーク, 福岡.
- Lützen, J. and Takahashi, T., 2003. *Arthritica japonica*, sp. nov. (Bivalvia: Galeommatoida: Leptonidae) a commensal with the pinnotherid crab *Xenopthalmus pinnotheroides* White, 1846. *The Yuriyagai*, 9: 11-19.
- 湊 宏, 1976. 熊本県五家荘産ケシウギセル(新種・新称). *Venus*, 35: 159-162.
- 湊 宏・矢野重文・魚住賢司, 1996. 福岡市で採集されたツシマケマイマイ. 九州の貝, 46: 7-9.
- 森 秀雄, 1936. オバエボン, トンガリササノハ福岡市に産す. 福岡博物学雑誌, 2: 34.
- 向井 宏, 1976. ガラモ葉上の貝類について. *Venus*, 35: 119-133.
- 室原誠司, 2000. 大分県及び福岡県周防灘沿岸から産出のワカウラツボ. 九州の貝, 55: 39-42.
- 長本 篤・上妻智行・中川 清・江崎恭志・片山幸恵, 2003. 豊前海におけるミルクイ養殖. 福岡県水産海洋技術センター研究報告, 13: 145-148.
- 内藤 剛・中本 崇, 2006. 筑後川感潮域におけるシジミ漁場評価. 福岡県水産海洋技術センター研究報告, 16: 111-114.
- 日本ベントス学会(編), 2012. 干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野.
- 岡部浩洋, 1938. 福岡県産マメタニシに就て. *Venus*, 8: 97-102.
- 岡本正豊, 1956. 福岡県産貝類目録稿本. 著者自刊(手書き), 福岡.
- 岡本正豊, 1974. 既に 4 半世紀, 玄界灘のイタヤガイ大漁. 九州の貝, 4: 14-19.
- 岡本正豊, 1977. 福岡県産貝類目録訂補資料(未定稿). 著者自刊, 千葉.
- 岡本正豊, 1977b. 故高橋五郎先生を偲び, そのゆかりの貝について. ちりぼたん, 9: 166-169.
- 岡本正豊, 1980. 昭和 20 年代に福岡市内で採集されたオトメマイマイの一種について. 九州の貝, 16: 13-16.
- 岡本正豊, 1983. 昔ここにありきー福岡県の貝採集地回顧. 九州の貝, 19-20: 47-56.
- 沖縄県文化環境部自然保護課, 2005. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編 レッドデータおきなわ. 沖縄県文化環境部自然保護課, 那覇.
- 奥谷喬司(編), 2000. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 大牟田市環境部環境保全課(編), 2006. 大牟田市生活排水対策推進計画 ～「自然豊かで, きれいな川」をめざして～. 大牟田市, 大牟田.

- 大島 廣, 1931. 珍奇なる共棲二枚貝ヒナゾクキン(*Entovalva semperi* Ohshima)について. *Venus*, 2: 161-177.
- 大谷洋子・大原健司・高田良二, 2005. 西宮市貝類館収蔵標本目録 1. 西宮市貝類館, 西宮.
- Pilsbry, H. A., 1901. Notice of new Japanese land snails. *Nautilus*, 14: 127-129.
- Pilsbry, H. A., 1902. On the localities of A. Adams' Japanese Helicidae. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 54: 233-240.
- 佐藤勝義, 1973. 福岡市近郊採集地案内. 九州の貝, 1: 35-39.
- 佐藤勝義, 1975. 有明海のアワジチヒロとヤミノニシキ. ちりぼたん, 8: 169-171.
- 佐藤勝義, 1976. 福岡県産貝類目録未掲載種及び新産地確認種について(除陸貝)(その2). 九州の貝, 5-6: 75.
- 佐藤勝義, 1978. 福岡県産貝類目録・同訂補資料の未掲載種及び新産地について(その3). 九州の貝, 11: 30.
- 佐藤勝義, 1978b. アオサギガイに刻まれた“謎の三角模様”. ちりぼたん, 10: 76.
- 佐藤勝義, 1978c. 福岡の貝採集のまとめ. 著者自刊, 福岡.
- 佐藤勝義, 1987. 糸島半島北西部の漁屑の貝(浦島太郎が忘れた玉手箱). 九州の貝, 29: 33-35.
- 佐藤勝義・岡本正豊, 1978. ヒナミルクイの 2 型とワカミルガイについて. ちりぼたん, 10: 27-31.
- 庄司幸八, 1938. 珍しき共棲二枚貝マゴコロ貝(遺稿). *Venus*, 8: 119-128.
- 園田吉弘, 2011. 有明海海域における水質・底質と底生生物の分布特性: 物理・化学及び生態学的視点からの研究. 熊本大学学術リポジトリ.
- 高橋五郎・岡本正豊, 1969. 福岡県産貝類目録. 著者自刊, 福岡.
- 瀧 巖, 1937. 貝類雑記(8). *Venus*, 7: 80-92.
- 泊 秀治, 1998. 玄界灘の吹き溜まり. 九州の貝, 51: 21-26.
- 土田英治・堀 成夫・三時輝久, 1991. 山口県産貝類の研究-4 周防灘・伊予灘からドレッジで採集された貝類. 山口県立山口博物館研究報告, 17: 41-58.
- 津城啓子, 2011. 有明海佐賀県沿岸域におけるアゲマキの分布状況. 佐賀県有明水産振興センター研究報告, 25: 17-20.
- Ujino, S. and Matsukuma, A., 2013. Taxonomic revision of *Serratina capsoides* (Lamarck, 1818) (Bivalvia: Tellinidae), an endangered species in Japan. *Venus*, 71: 175-189.
- 魚住賢司, 1973. 春に想う. 九州の貝, 1: 42-43.
- 魚住賢司, 1974. 有明海のウミタケ採集記. ちりぼたん, 8: 5-11.
- 魚住賢司, 1998. 福岡町の貝類. 福岡町史編集委員会(編), 福岡町史 自然編 II. 福岡町, 福岡.
- 魚住賢司・佐藤勝義, 1974. 福岡県産貝類目録未掲載種及び新産地確認種について(海産). 九州の貝, 3: 29-30.
- 山口貝類研究談話会, 2002. 野外観察会報告. 山口貝類研究談話会ニューズレター, 1: 6-7.
- 山本愛三・魚住賢司・林 敏雄, 1977. 筑前・沖ノ島の陸産貝類. 長崎県生物学会(編), 壱岐の生物-対馬との対比-(筑前・沖ノ島を含む). 長崎県生物学会, 長崎. pp. 601-610.
- 山下博由・福田 宏, 1996. サナギガイの殻形態と分布(腹足綱: 柄眼目: サナギガイ科). *The Yuriyagai*, 4: 169-177.
- 山下博由・黒住耐二・岡本正豊・佐藤慎一, 2013. 日本産サキグロタマツメタの記録 - 有明海・瀬戸内海に在来個体群は存在したか? -. 日本貝類学会平成 25 年度大会研究発表要旨集: 22.
- 吉崎和美・山下博由, 2005. 熊本県天草・羊角湾の貝類と主要な生物相について 第二報. 天草自然研究会, 熊本.
- 吉田賢二・首藤俊雄・藤崎 博・有吉敏和, 2009. 有明海湾奥部の底質およびメガロベントス-2007 年 400 点調査-. 佐賀県有明水産振興センター研究報告, 24: 19-38.

新旧対照表

	福岡県RDB2001のカテゴリー				再選定 種数※	追加 種数※	掲載 種数※	
	絶滅	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧				
今回の カテゴリー	絶滅	カタヤマガイ			1	1	2	
	絶滅危惧IA類	オキヒラシイノミ	ミヤザキムシオイ タケノコカワニナ オオクリイロカワザン ショウ シイノミミミガイ ヤマボタル サナギガイ カタマメマイマイ カタハガイ		9	14	23	
	絶滅危惧IB類		ヤマキサゴ ヤマクルマ シマヘナタリ クリイロコミミガイ ノミガイ アメイロギセル ヒロクチコギセル タカハシベッコウ ニセマツカサガイ マゴコロガイ	ナカヤママイマイ	11	37	48	
	絶滅危惧II類		クロヘナタリ ヒメマルマメタニシ ウミマイマイ ナラビオカミミガイ キヌカツギハマシイノ ミ クルマヒラマキ キセルモドキ	ヒロクチカノコ アツブタガイ アズキガイ オオタニシ アズキカワザンショウ カシノメガイ オカミミガイ スナガイ トンガリササノハ	16	54	70	
	準絶滅危惧		ヘナタリ ミズゴマツボ ヒナタムシヤドリカワ ザンショウ	ウスコミミガイ マクスジコミミガイ ハマシイノミガイ ナギサノシタタリ キュウシュウナミコギ セル	ヤマタニシ マルタニシ フトヘナタリ クリイロカワザン ショウ オキギセル	13	77	90
	情報不足		ヒラマキミズマイマイ ツシマケマイマイ ヒゼンオトメマイマイ	ツブカワザンショウ		4	41	45
					(合計)	54	224	278

	福岡県RDB2001のカテゴリー				合計 種数
	絶滅	絶滅危惧I類	絶滅危惧II類	準絶滅危惧	
今回除外した種※		インドヒラマキ	イシマキガイ	カワザンショウ オオウスイロヘソカ ドガイ	4

		今回追加した種			
今回の カテゴリー	絶滅	チリメンユキガイ			
	絶滅危惧IA類	マメタニシ ホラアナゴマオカチグサ ゴマフダマ ヤベガワモチ キバサナギガイ	ケショウギセル ビョウブガイ オバエボシ フジナミガイ アツカガミ	ガンヅキ オフクマスオ コオキナガイ アゲマキ	
絶滅危惧IB類	ホソコオロギ サナギモツボ イボウミナ オオシンデンカワザンショウ アダムスタマガイ ウネナシイトカケ オガイ マルテンスマツムシ ウネムシロ ホソウネモミジボラ イソチドリ スジケシガイ ミズコハクガイ	ホソキセルモドキ カワモトギセル オオコウラナメクジ レンズガイ ツシマナガキビ チクヤケマイマイ ハンレイヒバリ ササゲミミエガイ ハイガイ イタボガキ ヤミノニシキ イセシラガイ	ヒシガイ イチョウシラトリ フルイガイ ヒナミルクイ ヤチヨノハナガイ キサガイ ウラカガミ ウスハマグリ アリアケケボリ ヒナノズキン オウギウロコガイ オキナノエガオ		

		今回追加した種		
今回のカテゴリー	絶滅危惧II類	セムシマドアキガイ イボキサゴ ウミヒメカノコ サドヤマトガイ オオウエゴマガイ カワアイ スジウネリチョウジガイ ゴマツボ イリエツボ イソマイマイ ヨシダカワザンショウ フロガイダマシ オダマキ シロバリゴウナ ハネナシヨウラク ヒロオビヨフバイ バイ オリイレボラ	イワカワトクサ シチクガイ イボヒメトクサ ムラクモキジビキガイ カミスジカイコガイダマシ ヌカルミクチキレ マキモノガイ ヒメゴウナ センベリアワモチ クチマガリスナガイ チイサギセル アワジギセル チビギセル トサギセル ビルスブリギセル タカキビ ナガオカモノアラガイ ケガイ	クマサルボウ スミノエガキ マツカサガイ アワジチガイ テリザクラ ムラサキガイ マシジミ ハナグモリ アリソガイ ミルクイ シラオガイ チョウセンハマグリ ハマグリ ツルマルケボリ ニッポンヨーヨーシジミ ウミタケ ヒメマスオ クシケマスオ
	準絶滅危惧	ツボミガイ ミヤコドリ ヒナユキズメ ゴマオカタニシ ウミニナ ヌノメチョウジガイ ワカウラツボ サザナミツボ ホラアナミジンニナ アラウズマキ シラギク ナギツボ イヨカワザンショウ カハタレカワザンショウ ハナツツガイ ネコガイ オリイレシラタマ ツガイ クレハガイ セキモリ ヘソアキゴウナ ミクリガイ テングニシ マクラガイ チャイロフタナシシャジク クリイロマンジ	ホソタマゴガイ トックリタマゴガイ イトカケゴウナ ヌノメホソクチキレ ケシガイ ヒラマキモドキ モノアラガイ ヒラドマルナタネ ホソヒメギセル テラマチベッコウ ヒゼンキビ カサネシタラ ウメムラシタラ ヒメカサキビ シメクチマイマイ ダコスタマイマイ ヤカドツノガイ ヤマホトトギス コケガラス アカガイ シカメガキ ズベタイラギ リシケタイラギ ハボウキ イタヤガイ タガイ	サビシラトリ オオモモノハナ サギガイ モモノハナガイ ユウシオガイ サクラガイ ベニガイ フジノハナガイ キュウシュウナミノコ アシガイ ハザクラ オチバガイ キヌタアゲマキ ヤマトシジミ カモジガイ オオトリガイ ワカミルガイ ガンギハマグリ ニッポンマメアゲマキ オオノガイ クチベニガイ オビクイ シナヤカスエモノガイ コカタビラガイ バラフマテ
	情報不足	キサゴ カゴメミヤコドリ ゲンカイゴマガイ カヤノミカニモリ モロハタマキビ ヘソカドガイ サキグロタマツメタ オニサザエ ヨフバイ ウネハナムシロ ヒゼンツクシ トウキョウコウシツブ オオシイノミガイ シゲヤスイトカケギリ	アラボリホソマキギヌ エバラクチキレ ウネイトカケギリ エドイトカケギリ クラエノハマイトカケギリ コシダカヒメモノアラガイ ピロウドマイマイ属の一種 マメマイマイ アサヒキヌタレガイ ヒメエガイ ドブガイモドキ ヒラセザクラ ウズザクラ アオサギガイ	タガソデモドキ ナガヒナミルクイ ユキガイ チドリマスオ ヒメシオガマ近似種 シオヤガイ サザメガイ ケマンガイ スリガハマ イソカゼガイ カキゴロモ オキナガイ属の一種 チゴマテ

- ※ 再選定種数 … 福岡県RDB2001の選定種のうち、今回（福岡県RDB2014）でも再び選定した種の数。
追加種数 … 福岡県RDB2001の選定種以外で、今回（福岡県RDB2014）において新たに選定した種の数。
掲載種数 … 福岡県RDB2014に選定した種の数。（「再選定種数」と「追加種数」の合計）
今回除外した種 … 福岡県RDB2001の選定種のうち、再評価の結果、今回（福岡県RDB2014）は選定しなかった種。

新生腹足目イツマデガイ科	カタヤマガイ	絶滅
--------------	--------	----

Oncomelania hupensis nosophora (Robson, 1915) 2001：絶滅，環境省：絶滅危惧Ⅰ類

選定理由	かつては筑後川流域の水田などに生息し、日本住血吸虫の中間宿主として恐れられていた。本県では 1950 年より撲滅対策が開始され、薬品による駆除、水路・農地・河川敷の整備などにより、1983 年に久留米市宮ノ陣で 2 個体が確認されたのを最後に記録がない。関係自治体、筑後川流域宮入貝撲滅対策連絡協議会などによる 1990 年から 1999 年までの 10 年間に及ぶモニタリング調査においても生息は確認されていない。別名ミヤイリガイ。
分布情報	県外は千葉県、山梨県を除き絶滅。県内はかつて久留米市、小郡市、大刀洗町、朝倉市(旧甘木市)など。

ザルガイ目バカガイ科	チリメンユキガイ	絶滅
------------	----------	----

Meropesta sinojaponica Zuhang, 1983 2001：－，環境省：絶滅危惧Ⅰ類

選定理由	県内では周防灘の築上町宇留津、有明海で殻が記録されている。宇留津産について、石井(2005)は「洗い出された第四紀化石の可能性がある」とした。有明海の標本は殻皮の痕跡の残ったものであるが、生存が期待できる程には新鮮ではなく、産出も極めて稀であるために絶滅と判断した。
分布情報	周防灘、宇留津(高橋・岡本, 1969)、沖ノ端沖(ユキガイ:高橋・岡本, 1969)、築上郡椎田町宇留津(石井, 2005);大牟田市昭和開地先(1998年:殻)

新生腹足目ヤマタニシ科	ミヤザキムシオイ	絶滅危惧ⅠA類
-------------	----------	---------

Chamalycaeus miyazakii Takahashi & Habe, 1973 2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：絶滅危惧Ⅰ類

選定理由	分布が限定的で、個体数も極めて少ない。森林伐採により産地が減少している。螺層の巻きが部分的にほどけた特異な形態をした本県の特産種であり、コレクターの過度の採集による絶滅が危惧される。
危機要因	森林伐採、乱獲、産地局限
分布情報	宗像市、福津市、古賀市、宮若市、久山町、篠栗町、福岡市(口絵写真3)
種の概要	殻は小さく、平低。殻口は丸く、周縁は肥厚する。蓋は丸く、角質。螺管は体層と次体層の間に広い隙間がある。自然度の高い林の中の落ち葉下や石と土の間に生息する。
特記事項	本種は本県の特産種。

新生腹足目エゾマメタニシ科	マメタニシ	絶滅危惧ⅠA類
---------------	-------	---------

Parafossarulus manchouricus japonicus (Pilsbry, 1901) 2001：－，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	県内では 1930 年代に遠賀川水系と筑後川水系で生息が確認されているが、その後の記録がなく、近年も確認されていない。絶滅もしくは絶滅に近い状態にあると考えられる。遠賀川水系の個体群は顕著な螺脈 5 本を有し、筑後川水系の個体群は螺脈が弱いことが報告されている(岡部, 1938)。
危機要因	湖沼開発、河川開発、湿地開発、ため池改修、水路改修、水質汚濁、農薬使用、乾田化
分布情報	遠賀川水系(遠賀町広渡、鞍手町中山)、筑後川水系(大川市、久留米市大善寺町黒田・宮ノ陣恋之段、柳川市)(岡部, 1938:行政区は現在のものに修正)。
種の概要	殻長 10 mm 程度のタニシ形の巻貝。本州から九州まで分布し、ため池、水田や用水路、湿地などの泥底や水草、護岸、礫底などに付着して生息する。

新生腹足目トゲカワニナ科		タケノコカワニナ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Stenomelania rufescens</i> (Martens, 1860)	2001：絶滅危惧 I 類，環境省：絶滅危惧 II 類
選定理由	過去には福岡市，響灘・玄界灘沿岸から記録されていた。福岡市の樋井川・六本松では絶滅した。響灘・玄界灘沿岸では，再発見されていない。大牟田市隈川では，2000 年代初期には生息が確認されていたが，河川改修によって汽水域が淡水化され，近年は確認されていない。県内では絶滅が危惧される状況にある。		
危機要因	河川開発，水質汚濁，乱獲		
分布情報	福岡市樋井川城西橋付近，津屋崎（高橋・岡本，1969），糸島郡船越・大入，遠賀郡汐入川河口（岡本，1977），大牟田市隈川昭和開（福岡県環境部自然環境課，2001），大牟田市隈川三池干拓内橋（大牟田市環境部環境保全課，2006）；福岡市中央区六本松（1956 年，菊池泰二採集）		
種の概要	殻長 60 mm に達するが，小型の個体群もある。伊豆半島・響灘～九州南部，奄美大島に分布（日本ベントス学会，2012）。河口汽水域の流れの緩やかな泥底に生息する。別名レベックカワニナ。		

新生腹足目カワザンショウ科		オオクリイロカワザンショウ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Angustassiminea kyushuensis</i> S. & T. Habe, 1983	2001：絶滅危惧 I 類，環境省：絶滅危惧 I 類
選定理由	遠賀川の支流・西川をタイプ産地とする種で，現在も西川とその支流・吉原川の葦原や堤防で生息が確認されている。生息範囲は極めて狭いが，ある程度の個体数が維持されており，国土交通省の葦原再生地点での個体群の定着も確認されている。県内有明海沿岸の河口域にも分布するが，生息密度はごく低い。生息地が極めて局所的であるため，保護地域の策定などが望まれる。宗像市釣川河口からも記録があるが，著者らは標本を未確認。		
危機要因	河川開発，湿地開発，水質汚濁，産地局限，その他（葦原の野焼き）		
分布情報	遠賀川支流西川（タイプ産地：S. Habe & T. Habe, 1983），遠賀川支流西川，吉原川，有明海奥部（福岡県）（日本ベントス学会，2012）；宗像市釣川河口（1972 年：魚住賢司採集），筑後川河口，沖端川河口，矢部川河口		
種の概要	殻長 7.5 mm。遠賀川水系河口域，有明海奥部，朝鮮半島南岸～西岸に分布する。		

新生腹足目カワザンショウ科		ホラアナゴマオカチグサ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Cavernacmella kuzuensis</i> (Suzuki, 1937)	2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類
選定理由	県内では，平尾台に含まれる苅田町山口の青龍窟で，1963 年に 1 個体の生息が確認されている（伊藤，1967）。近年も殻が僅かに確認されているが，生息状況はよく分かっていない。県内では生息地が 1 か所しか確認されておらず，絶滅が危惧される。鍾乳洞の観光化による人工照明の設置や乾燥は，生息を脅かす要因となる。		
危機要因	湿地開発，石灰採掘，水質汚濁，産地局限		
分布情報	青龍窟（伊藤，1967）；青龍窟（2008 年，殻：亀田勇一，未発表）		
種の概要	殻長 2 mm，半透明，淡黄褐色，体層は大きく膨れ，臍孔は狭く深い。本州～南西諸島の石灰洞窟の湿った壁面に生息する。		

新生腹足目タマガイ科		ゴマフダマ	絶滅危惧 IA 類
		<i>Paratectonatica tigrina</i> (Röding, 1798)	2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類
選定理由	博多湾では 1950 年代には，複数の産地から殻が採集されており，生息していたと考えられるが，現在は生息していない。旧福岡町では 1970 年代半ば以降，生息が確認されていない。県内の有明海沿岸では，1980 年代には多産していたが，近年は生息確認例が少なくなっている。周防灘では葦島などに少なくなかったが，大きく減少している。全体的に，本県では絶滅が危惧される状態にある。		
危機要因	水質汚濁，海岸開発		
分布情報	生松原，地行，西公園，箱崎，西戸崎，志賀島，波津，葦島，沖端，沖端沖，黒崎，松江（岡本，1956），博多湾，周防灘，有明海（高橋・岡本，1969），福岡町（魚住，1998），北九州市曾根干潟（九州・琉球湿地ネットワーク，1999）；矢部川沖（2006 年），沖端川沖（2013 年：口絵写真 11）		
種の概要	瀬戸内海，有明海，八代海，中国大陸沿岸～インド～西太平洋区に分布。		

異鰓目ドロアワモチ科	ヤベガワモチ	絶滅危惧 IA 類
------------	--------	-----------

Onchidium sp.

2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	国内では、有明海・八代海にのみ分布し、生息地は局所的である。県内では沖端川、塩塚川、矢部川の各河口に生息するが、生息範囲は狭い。河口域の泥地に生息し、葦原近くのカニ穴や護岸の隙間などを隠蔽場所として利用するが、コンクリート護岸などによって葦原や隠蔽場所が失われると生息が困難になると考えられる。河川改修においては、特に注意を必要とする。
危機要因	河川開発、海岸開発、水質汚濁、産地局限
分布情報	有明海沖端川、塩塚川(口絵写真 23)、矢部川の各河口
種の概要	体長 60 mm、長楕円形のナメクジ状で、灰黒色の背面には多数の疣と複数の眼点があり、中央の眼点は大きい。腹面は灰色で、側部には小さい黒点が多数ある。有明海、八代海、朝鮮半島に分布。未記載種の可能性がある。

異鰓目オカミミガイ科	シノミミミガイ	絶滅危惧 IA 類
------------	---------	-----------

Cassidula plecotrematoides japonica Möllendorff, 1901

2001：絶滅危惧 I 類，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	博多湾では過去に多くの記録があり、1950 年前後には今津などで生息が確認されていた。福津市、糸島市の記録は打ち上げの殻と思われる。下記の記録は、恋の浦(1993 年)を除いて、1940～1980 年代のもので、近年の記録はなく、県内では絶滅が危惧される状況である。
危機要因	河川開発、海岸開発、湿地開発、水質汚濁
分布情報	福津市津屋崎塩浜・恋の浦・福岡海岸、福岡市(東区和白、中央区地行・樋井川、西区能古島・小戸・生の松原・今宿・今津)、糸島市二丈深江
種の概要	殻長 13 mm、椎の実形、厚質、茶褐色、内唇に 2 歯、軸唇に 1 歯があり、外唇は肥厚し内側に壁状の歯がある。三浦半島・山口県北部～九州に分布。南西諸島産はヒゲマキシノミミミガイ <i>Cassidula plecotrematoides plecotrematoides</i> (Möllendorff, 1895)として暫定的に区別されている。

異鰓目オカミミガイ科	オキヒラシノミ	絶滅危惧 IA 類
------------	---------	-----------

Pythia cecillei (Philippi, 1848)

2001：絶滅，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	県内では福岡市和白・今津瑞梅寺川河口で 1940～50 年代に生息が確認されているが、現在は生息しておらず、消滅年代は不明である。2001 年版では絶滅としたが、2003 年に福津市で少数の生息が確認されたため、カテゴリーを変更する。福津市では重ねて調査を行ったが、追加個体は発見されず、過去の生き残りか新規加入か判断できない。以上のほかに県内の記録はなく、絶滅に近い状態である。
危機要因	河川開発、海岸開発、湿地開発、水質汚濁
分布情報	今津、和白(高橋・岡本, 1969); 福津市渡(2003 年:口絵写真 24)
種の概要	殻長 23 mm、背腹に扁平な紡錘形、殻口には複数の歯がある。黒褐色で色帯があり、やや厚い殻皮を被る。山口県～鹿児島県にかけての日本海・東シナ海沿岸、中国大陸南部～ベトナムに分布。現在、佐賀県東松浦半島以西で生息が確認されている。内湾や河口域の高潮帯・潮上帯、海岸林の辺縁や葦原に生息する。

異鰓目ヤマボタル科	ヤマボタル	絶滅危惧 IA 類
-----------	-------	-----------

Cochlicopa lubrica (Müller, 1774)

2001：絶滅危惧 I 類，環境省：一

選定理由	現生種は関東以西では本県が唯一の産地である。県内の産地は局限されている上に、個体群の遺伝的多様性が極めて低い。このために、環境の変化によって一挙に絶滅する危険性がある。
危機要因	産地局限、森林伐採、農薬使用(マツクイムシ防除のための薬剤散布)
分布情報	糸島市(口絵写真 25)
種の概要	ヤマボタルは北方系種であり、北半球の亜寒帯から冷温帯に広く分布する。我国では現生種は関東以北に広く分布するが、更新世には広島県、山口県、鹿児島県、沖縄県にも分布した。分子生物学的研究によれば本県のヤマボタルは、朝鮮半島から九州に入り、琉球列島、伊豆諸島、東北地方に分布した集団の遺存個体群と考えられる。

異鰓目サナギガイ科	サナギガイ	絶滅危惧 IA 類
-----------	-------	-----------

Pupilla (Gibbulinopsis) cryptodon (Heude, 1880)

2001：絶滅危惧 I 類，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	現在，県内で確認されている分布地はただ 1 ヶ所で面積も狭く，個体数は極めて少ない。
危機要因	産地局限，海岸開発，道路工事
分布情報	糸島市志摩小金丸(口絵写真 26)。隣接する福岡市西区西浦の個体群(山下・福田，1996)は，海岸に沿った観光道路の工事のために生息地の海浜植物群落の状況が変化し消滅した。
種の概要	殻長 3.5 mm 程度。殻は微小な俵形で，殻口は丸い。内唇に 2 歯，軸唇に 1 歯，外唇内壁に 2 個の丸いクレスト(歯状の突起)を持つ。本州中部から九州北部へかけて分布するが，生息地は非常に少ない。日本海側では能登半島，山口県，糸島半島，対馬，五島で記録があるが，山口県と糸島半島以外では再発見されていない。チガヤやハマボウ，ハマヒルガオなどの海浜植物の根元や，落ち葉の下で生活する。

異鰓目サナギガイ科	キバサナギガイ	絶滅危惧 IA 類
-----------	---------	-----------

Vertigo hirasei Pilsbry, 1901

2001：－，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	本種は柳川をタイプ産地として，1901 年に記載されたが，柳川市からはその後再発見されていない。海浜性の陸貝で，海浜植物群落や海岸林に生息するとされるが，そのような環境が存在する糸島半島などからも発見されていない。
危機要因	森林伐採，河川開発，海岸開発，湿地開発，草地開発
分布情報	Yanagawa, prov. Chikugo, Kiusiu Id. (Pilsbry, 1901)
種の概要	貝殻は小さく，殻長 1.65 mm，蛹形，茶褐色。外唇内側に 2 つのブリカ，内唇上部に 1 歯，軸唇に 1 歯がある。北海道～沖縄まで分布するが，生息地は局限的で個体数が少ない。

異鰓目キセルガイ科	ケショウギセル	絶滅危惧 IA 類
-----------	---------	-----------

Neophaedusa albela (Minato, 1976)

2001：－，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	湊(1976)は熊本県からケショウギセルを新種記載した際に，高橋・岡本(1969)が福岡県釈迦岳から <i>Mundiphaedusa</i> sp.として記録した種は，ケショウギセルであろうとした。ここではその見解に従った。釈迦岳では，高橋五郎氏によって 1969 年に 1 個体が採集されたのみで(岡本，1977b)，その後も調査が行われたが，再発見されていない。非常に希少性が高く，絶滅が危惧される。
危機要因	森林伐採，産地局限
分布情報	八女市釈迦岳
種の概要	殻は小型で，殻長 11 mm 程度。殻は灰白色，棍棒状。主襞はやや長い。月状襞は長く，ごく短い上腔襞に繋がる。本種は好洞窟性のキセルガイで，石灰岩地帯の石灰洞窟内外に生息することが多いが，非石灰岩地にも分布する。熊本県，宮崎県に分布するが，生息地は 10 ヶ所に満たない。

異鰓目オナジマイマイ科	カタマメマイマイ	絶滅危惧 IA 類
-------------	----------	-----------

Lepidopisum conospira (Pfeiffer, 1877)

2001：絶滅危惧 I 類，環境省：絶滅危惧 II 類

選定理由	県内で生息が確認された場所は 1 ヶ所だけで生息地の面積は極めて狭く，個体数も少ない。生息地の環境は乾燥と飛砂にさらされて極めて苛酷である。
危機要因	海岸開発，草地開発，産地局限
分布情報	糸島市志摩小金丸(口絵写真 31)
種の概要	殻は小型，球形。臍孔は小さい。殻表は褐色で，小さな鱗片状彫刻で覆われる。本県における本種の生息地はコウボウムギやハマヒルガオ等が僅かに生えた海浜草地。全国的に見ても産地は不連続で，川原や荒地など乾燥した環境に生息する。
特記事項	本州，四国，朝鮮半島に散在的に分布。九州では糸島市のみで生息が確認されている。

フネガイ目フネガイ科		ビョウブガイ	絶滅危惧 IA 類
<i>Trisidos kiyonoi</i> (Kuroda, 1929)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	本種はかつて、博多湾、加布里湾などに多産した。博多湾では 1978 年まで新鮮な殻の記録がある(口絵写真 34)。加布里湾では 1980 年代後半に消滅したと考えられる。福津市福岡海岸では、1974 年を最後に消滅したとされる(魚住, 1998)。曾根干潟の記録は詳細不明。近年、響灘西部において、新鮮な殻が確認され、生息している可能性が示唆された。いずれにしても、本種の個体群は大きく失われ、絶滅のおそれが高い状況にあるといえる。		
危機要因	海岸開発, 水質汚濁, 産地局限		
分布情報	博多湾, 今津湾, 船越, 津屋崎(高橋・岡本, 1969), 糸島郡寺山(佐藤, 1973), 福岡町(魚住, 1998), 北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999); 糸島市福吉港(1984 年:佐藤勝義標本)		
種の概要	日本では周防灘, 響灘, 玄界灘, 天草沿岸の内湾域に分布するが, 2000 年代以降, 生息が確実に確認されているのは熊本県天草市羊角湾(吉崎・山下, 2005)のみである。		

イシガイ目イシガイ科		オバエボシ	絶滅危惧 IA 類
<i>Inversidens brandti</i> (Kobelt, 1879)		2001：一，環境省：絶滅危惧 II 類	
選定理由	県内の生息地は極めて限られ、生息密度も低い。いずれの産地も河川改修などによる環境悪化により絶滅の危機に瀕している。那珂川水系の産地は近年の改修により環境が悪化し、今後絶滅する可能性が高い。矢部川水系の産地は 2012 年の九州北部豪雨に伴う災害復旧工事によって、生息環境が大きく失われた。筑後川水系でも産地は限局的で、個体数は極めて少ない。以上、中島淳(未発表)を含む。		
危機要因	河川開発, 水路改修, 水質汚濁, 農薬使用, 乱獲, 産地局限		
分布情報	福岡市(森, 1936; 瀧, 1937); 那珂川水系, 筑後川水系, 矢部川水系(口絵写真 37)		
種の概要	殻長 40 mm 程度のやや小型のイシガイ類。殻は前後に短く、歪んだ台形で後端は嘴状にやや尖る。愛知県以西の本州と九州に分布。流れのある小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。幼生はオイカワ, カワヒガイ, タモロコ, モツゴなどに寄生する(近藤, 2008)。		

イシガイ目イシガイ科		カタハガイ	絶滅危惧 IA 類
<i>Pseudodon omiensis</i> (Heimburg, 1884)		2001：絶滅危惧 I 類, 環境省：絶滅危惧 II 類	
選定理由	県内の産地は限局的でいずれの産地も個体数が少なく、減少が著しい。河川や水路の改修工事などの環境変化により危機的状況にある。特に柳川市二ツ川では 1970 年代には多く生息し、現在でも死殻は見つかるが、生貝はここ 10 年ほど確認されていない(中島淳, 未発表)。過度の採集は絶滅の原因となるため、厳重に慎みたい。		
危機要因	河川開発, 水路改修, 水質汚濁, 農薬使用, 乱獲, 産地局限		
分布情報	山国川水系, 筑後川水系, 矢部川水系。大刀洗町春日での古い記録がある(高橋・岡本, 1969)。		
種の概要	殻長は 60 mm 程度。殻表は平滑、偽主歯はあるが後側歯は痕跡的(和名「カタハ:片歯」の由来)で、後背縁に放射状肋がある。愛知県以西の本州, 四国, 九州に分布。河川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。		

ザルガイ目シオサザナミ科		フジナミガイ	絶滅危惧 IA 類
<i>Soletellina boeddinghausi</i> (Lischke, 1870)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	県内では、福津市津屋崎・福岡海岸, 宗像市神湊, 行橋市蓑島, 大牟田市黒崎, 糸島市志摩芥屋から記録されているが、2000 年以降の記録はない。絶滅が強く危惧される状況にある。本種は 1980 年代以降、全国的に生息地が著しく減少している。		
危機要因	海岸開発, 水質汚濁, 乱獲		
分布情報	津屋崎, 神湊, 蓑島, 黒崎(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 周防灘, 有明海(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998), 糸島郡芥屋(泊, 1998)		
種の概要	殻長 100 mm, 前後にやや長い楕円形, 紫色で、黄褐色の殻皮を被る。岩手県・男鹿半島～九州, 朝鮮半島に分布。砂・砂泥質の干潟・砂浜の低潮帯付近に生息する。		

ザルガイ目 マルスダレガイ科		アツカガミ	絶滅危惧 IA 類
<i>Dosinia (Asa) biscocta</i> (Reeve, 1850)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	周防灘，有明海沿岸から殻が採集されるが，生息は確認されていない。曾根干潟では，合弁死殻が採集されている(山口貝類研究談話会，2002)。本種は国内では過去 30 年以内の生息記録がなく，国内では絶滅した可能性が高いが，なお調査が必要である。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限		
分布情報	蓑島，松江(岡本，1956)，周防灘，蓑島(高橋・岡本，1969)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999；山口貝類研究談話会，2002)，柳川市沖端川河口(福田，2003)		
種の概要	殻高 35 mm，カガミガイに似るが，殻は小型で厚く，後背縁はなで肩で長い。瀬戸内海，有明海，朝鮮半島，中国大陸に分布。内湾干潟の中潮帯以深の砂泥底に生息する。		

ザルガイ目 ウロコガイ科		ガンツキ	絶滅危惧 IA 類
<i>Arthritica japonica</i> Lützen & Takahashi, 2003		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	北九州市曾根干潟をタイプ産地として記載された種で，メナシピンノ <i>Xenophthalmus pinnotheroides</i> White, 1846 の体表に共生する。曾根干潟でも採集例はごく少ない。曾根干潟以外では，山口県山陽小野田市から記録されている(Lützen & Takahashi, 2003；日本ベントス学会，2012)のみで，分布は局限されている。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限，その他(ホストの減少)		
分布情報	北九州市曾根干潟(Lützen & Takahashi, 2003)		
種の概要	殻長 2 mm，薄質，半透明無色，亜卵形，殻頂はわずかに突出する。メナシピンノ(軟甲綱十脚目メナシピンノ科)の体表に足糸で着生する。		

ニオガイ目 オオノガイ科		オフクマスオ	絶滅危惧 IA 類
<i>Tugonella decurtata</i> (A. Adams, 1851)		2001：一，環境省：絶滅危惧 II 類	
選定理由	県内では福岡市西区今津，糸島市二丈福吉で記録があるのみ。今津では半片 1 個が 1946 年に岡本正豊氏によって採集され，西宮市貝類館に保存されている(大谷ほか，2005)。福吉では 3 個体の半片が採集されている(魚住・佐藤，1974)。これらの記録は偶然的なものとも解釈できるが，1940 年代から 70 年代にわたって記録されていること，山口県北部からも記録があることから，玄界灘周辺は北限の生息分布域で持続的に個体群が存在した時期があったものと判断した。近年の記録はなく，絶滅が危惧される。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	今津(岡本，1956；高橋・岡本，1969)，糸島郡福吉(魚住・佐藤，1974)		
種の概要	殻長 25 mm，薄質，白色，膨らみの強い亜方形で，後端は裁断状。紀伊半島・山口県北部以南～南西諸島，中国大陸南部，台湾，フィリピン，紅海，ペルシャ湾に分布。		

ネリガイ目 オキナガイ科		コオキナガイ	絶滅危惧 IA 類
<i>Laternula (Laternula) impura</i> (Pilsbry, 1901)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	県内では曾根干潟と今津干潟(瑞梅寺川河口)で，生息が確認されている。本種は生息分布が非常に局地的で，生息面積も狭い場合が多く，沖縄島の近年の例(沖縄県文化環境部自然保護課，2005)からも個体群の消滅が起こりやすいと考えられる。曾根干潟・今津干潟は全国的に見ても貴重な生息地で，その保全が望まれる。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限		
分布情報	北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；福岡市今津干潟(瑞梅寺川河口)		
種の概要	殻長 25 mm，殻は薄く微顆粒を備え，後縁は湾曲し尖る。房総半島～南西諸島，朝鮮半島，中国，台湾に分布。内湾奥の干潟中潮帯の泥底・砂泥底に生息する。		

マテガイ目ナタメガイ科	アゲマキ	絶滅危惧 IA 類
--------------------	-------------	------------------

Sinonovacula lamarcki Huber, 2010

2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	有明海に分布。本種の漁獲量は、有明海福岡県地先では100～300tあったが、1988年に佐賀県沿岸で大量斃死が発生し、1990～91年には本県でも大量斃死が発生し大きく減少した(相島, 1995)。1994年には国内での漁獲量がほとんど無くなり、稚貝の発生がほとんどみられなくなった。県内有明海沿岸では、現在も健全な個体群が存在せず、絶滅の危機に瀕している。食用・水産有用種であるため、生態の研究は多く、種苗生産も確立されており、佐賀県では種苗放流による個体群の一定の復活が確認されている(津城, 2011)。
危機要因	河川開発, 海岸開発, 水質汚濁, 乱獲, その他(覆砂)
分布情報	沖端, 黒崎, 矢部川河口付近(岡本, 1956), 有明海(高橋・岡本, 1969)
種の概要	殻長 90 mm, 長い棒形, 前後は広く開く。薄質, 白色。黄褐色の殻皮を被る。有明海, 八代海北部, 朝鮮半島, 中国大陸沿岸に分布。内湾の河口域や干潟の泥底に縦穴を掘って生息する。

アマオブネ目ヤマキサゴ科	ヤマキサゴ	絶滅危惧 IB 類
---------------------	--------------	------------------

Waldemaria japonica (A. Adams, 1861)

2001：絶滅危惧 I 類, 環境省：一

選定理由	県内での分布は局所的であり、個体数も少ない。自然度の高い森林の遷移進行や伐採, トレッキングによる踏みつけなどで数少ない生息地が狭まっている。キサゴ類に似た殻を持つ希少種であり、コレクターによる過度の採集も危惧される。
危機要因	産地局限, 森林伐採, 踏みつけ, 乱獲
分布情報	北九州市小倉南区平尾台, 添田町英彦山, 古処山(朝倉市, 嘉麻市)(口絵写真 2)
種の概要	殻幅 10mm 程度。低い円錐形で、算盤玉状。殻質やや厚く、堅固。殻口は半月形で、石灰質の蓋を持つ。臍孔は厚い滑層で覆われて開かない。本州(青森県)から九州(宮崎県)の山地に分布。落ち葉の下や岩壁の蘚苔類中で生息する。地上性であるが、雨後は木の幹を若干上る。

新生腹足目ヤマタニシ科	ヤマクルマ	絶滅危惧 IB 類
--------------------	--------------	------------------

Spirostoma japonicum (A. Adams, 1867)

2001：絶滅危惧 I 類, 環境省：一

選定理由	1946年～1948年にかけて若杉山および福岡市早良区で採集された記録があるが、それ以後は生息が確認されていない。他県では比較的普通にみられる種であるが、本県では産地が極めて限定的であり、個体数も少ない。
危機要因	森林伐採, 産地局限
分布情報	篠栗町若杉山, 福岡市早良区石釜
種の概要	殻は平低で、臍孔は広い。殻表は平滑で光沢がある。殻口に円錐状の蓋を有する。山地や里山の落ち葉の下に生息。本州中部以南, 四国, 九州に分布する。
特記事項	本県で産地, 個体数が少ない理由は不明。

新生腹足目オニツノガイ科	ホソコオロギ	絶滅危惧 IB 類
---------------------	---------------	------------------

Cerithium torresi E. A. Smith, 1884

2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	本県では未記録であったが、糸島市船越の潮下帯のアマモ場で生息が確認された。全国的に生息地の非常に少ない種で、絶滅が危惧される。
危機要因	海岸開発, 水質汚濁
分布情報	糸島市船越(2013年)
種の概要	殻長 25 mm。相模湾以南～九州, インドー西太平洋区に分布。やや内湾の低潮帯～水深数 m の泥底・砂泥底に生息する。

新生腹足目スナモチツボ科		サナギモツボ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Finella pupoides</i> A. Adams, 1860	2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	過去に県内各地から記録されているが、近年の記録はない。本種は全国的に大きく減少した種で、近年の生息確認例はごく少なく(日本ベントス学会, 2012)、本県でも減少傾向にあると考えられる。		
危機要因	水質汚濁, 海岸開発		
分布情報	玄界灘, 響灘, 周防灘(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998)		
種の概要	殻長 4 mm, 細長い蛹形, 螺層は膨らみ, 縫合は深い。本州～南西諸島, インドー西太平洋区に分布し, 内湾～湾口部の砂泥底に生息する。		

新生腹足目キバウミニナ科		シマヘナタリ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Cerithidea (Cerithidea) ornata</i> Sowerby II, 1855	2001：絶滅危惧Ⅰ類, 環境省：絶滅危惧Ⅰ類
選定理由	県内では, 周防灘・響灘・玄界灘・有明海沿岸の河口域に分布する。周防灘には比較的豊富に生息する。響灘・玄界灘では 4 ヲ所で確認されているが, 個体群規模は小さく絶滅が危惧される。有明海沿岸では著しく減少し, 現在は矢部川河口のみで確認されている。全体として, 生息地は局限されており, 絶滅が危惧される。		
危機要因	河川開発, 海岸開発, 湿地開発, 水質汚濁, 産地局限		
分布情報	沖ノ端, 黒崎 隈川河口(岡本, 1956), 有明海(高橋・岡本, 1969), 遠賀 汐入川, 宗像 釣川(魚住・佐藤, 1974), 矢部川(福田, 2000; 福岡県環境部自然環境課, 2001); 2000 年以降の記録: 築上町, 行橋市祓川, 北九州市曾根干潟, 遠賀川, 糸島市泉川, 有明海矢部川		
種の概要	国内では, 瀬戸内海西部・九州北部・有明海・八代海沿岸に分布し, 八代海北部の個体群が最も大きく安定している。有明海では, 全体的に危機的な生息状況にある。		

新生腹足目ウミニナ科		イボウミニナ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Batillaria zonalis</i> (Bruguère, 1792)	2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	県内では分布域が限定されており, 現在の生息地は少ない。博多湾では地行, 多々良にも生息していた(岡本, 1956)が, 現在は今津干潟でのみ生息が確認されている。本種は日本産ウミニナ類の中で最も減少傾向が強く, 日本本土の生息地では個体数も少ない場合が多い。		
危機要因	海岸開発, 水質汚濁		
分布情報	今津, 地行, 西公園, 多々良, 箱崎, 志賀島, 津屋崎, 大島(岡本, 1956), 玄界灘, 博多湾(高橋・岡本, 1969); 2000 年以降の記録: 北九州市曾根干潟, 福岡市今津干潟, 糸島市加布里湾(口絵写真 7)		
種の概要	殻長 40 mm, 塔形で, 縫合下に白色帯を備え, 外唇の上部は湾入する。本州および朝鮮半島以南, インド洋, 太平洋に分布。内湾・河口干潟の中潮帯～低潮帯の砂泥底・泥底に生息する。		

新生腹足目カワザンショウ科		オオシンデンカワザンショウ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Assiminea</i> sp.	2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	県内では曾根干潟の狭い範囲に生息しており(和田太一, 未発表), 環境の変化によって絶滅するおそれがある。県内周防灘沿岸の他の干潟域からは, これまでの調査では発見されていない。干潟の砂泥底に生息する本種に近似した微小なカワザンショウ類は, 日本各地で個体群の消滅が確認されており(日本ベントス学会, 2012), 環境変化に対する脆弱性が危惧される。		
危機要因	海岸開発, 水質汚濁		
分布情報	北九州市曾根干潟(日本ベントス学会, 2012)		
種の概要	殻長 1.5 mm ほどの微小なカワザンショウ類。大分県中津市, 杵築市に分布。内湾の干潟中潮帯の砂泥底・コアマモ場に生息する。		

新生腹足目タマガイ科		アダムスタマガイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Crytonatica adamsiana</i> (Dunker, 1860)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内では過去に博多湾(口絵写真 10)・津屋崎・糸島で記録されているが、近年は確認情報がなく、著しく減少していると考えられる。フロガイダマシが湾口部や外洋の潮下帯まで分布するのに対し、本種はより内湾に分布が限定され、垂直分布も狭く、本県ではフロガイダマシよりも危機的な生息状況にあると考えられる。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	今津，小戸，地行，西公園，多々良，津屋崎(岡本，1956)，玄界灘，博多湾(高橋・岡本，1969)，糸島郡寺山(佐藤，1973)		
種の概要	殻長 25 mm，球形，臍盤は小さく，臍孔は小さいが明瞭に開く，蓋は石灰質白色で平滑，淡褐色の幅広い色帯を持つ。房総半島・能登半島～九州に分布。		

新生腹足目イトカケガイ科		ウネナシトカケ	絶滅危惧 IB 類
<i>Acrilla acuminata</i> (G. B. Sowerby II, 1844)		2001：一，環境省：絶滅危惧 II 類	
選定理由	県内では有明海と福岡で記録されており，有明海では近年も確認されているが，個体数はごく少ない。有明海で行われている覆砂事業は，底質の変化をもたらす，本種やそのホストと考えられるイソギンチャク類の生息に負荷を及ぼす可能性がある。本種は外洋の深場にも分布し，種としては絶滅リスクがそれほど高くはないと考えられるが，県内では生息地が限定され個体数が少ないため絶滅危惧 IB 類とした。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限，その他(覆砂)，その他(ホスト(イソギンチャク類)の減少)		
分布情報	有明海(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，柳川市沖端川河口沖(福田，2003)；矢部川沖(2001 年：口絵写真 17)，柳川市大和干拓(2006 年：殻)		
種の概要	殻長 45 mm，塔形，薄質。縦肋は細糸状で，茶褐色の太い色帯を持つ。房総半島～中国，朝鮮半島，中国大陸，インドネシアに分布(日本ベントス学会，2012)。		

新生腹足目エゾバイ科		オガイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Cantharus (Cantharus) cecillei</i> (Philippi, 1844)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	かつては県内各地から記録され，特に博多湾の記録が多く，西公園では生息が確認されていた(岡本，1956)。2000 年以降に県内で採集された記録はなく，近年の博多湾での調査では殻も発見されていない。全国的に減少した種であるが，本県でも著しく減少したと考えられる。中国大陸沿岸においてインボセックスの頻発が報告されており，国内でもかつての有機スズ化合物の使用によるインボセックスが減少要因と考えられる。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，その他(インボセックス(imposex)：雌の生殖器の雄性化)		
分布情報	宮浦，大原，今津，生松原，小戸，残島，西公園，鶴来島，志賀島，門司，青浜(岡本，1956)，大牟田市三池沖(波部・田中，1959)，玄界灘，響灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，糸島郡福吉港(佐藤，1987)，糸島郡芥屋(泊，1998)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)		
種の概要	房総半島・富山湾～九州，朝鮮半島，中国大陸に分布。内湾～湾口部の低潮帯～水深 35 m に生息。		

新生腹足目フトコロガイ科		マルテンスマツムシ	絶滅危惧 IB 類
<i>Mitrella martensi</i> (Lischke, 1871)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	博多湾でも記録があるが，現在は確認されていない。近年は，周防灘と有明海で生息が確認されているが，周防灘産は殻が小型で細いタイプである。有明海に多産する殻が大型で太いタイプは，大陸沿岸からの移入である可能性が指摘されている(日本ベントス学会，2012)。周防灘では生息地が限定され，個体数は多くない。有明海では多産する。同属のムギガイ <i>Mitrella bicincta</i> (Gould, 1860) が生息しないような内湾干潟の岩礫地にみられるが，有明海のような岩礫が少ない環境では，海苔ひびやカキ殻などのある場所に生息する。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	地行，西公園，岩屋，黒崎，多々良(岡本，1956)，博多湾，有明海，黒埼(高橋・岡本，1969)，糸島郡芥屋(泊，1998)；2000 年以降の記録：豊前市，北九州市曾根干潟，有明海沿岸(口絵写真 14)		
種の概要	殻長 20 mm，紡錘形，厚質，外唇内側には歯列を備える。北海道南部～九州，朝鮮半島，中国大陸に分布。		

新生腹足目オリレヨフバイ科		ウネムシロ	絶滅危惧 IB 類
<i>Hima hiradoensis</i> (Pilsbry, 1904)		2001：－，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	県内では宗像市大島，福岡市西区今津，糸島市志摩芥屋・船越で記録されているのみで，もともと分布記録が少なく，近年では今津干潟周辺でのみ確認されている。生息環境の変化によって，絶滅するおそれがある。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，その他（インボセックス）		
分布情報	船越，今津，大島（岡本，1956），玄界灘，船越（高橋・岡本，1969），糸島郡芥屋（泊，1998）；2000 年以降の記録：福岡市今津干潟周辺（口絵写真 15）		
種の概要	殻長 13 mm，クロスジムシロより大型で，明瞭な螺肋と太い縦肋は交わってやや顆粒状になる。北海道～九州，朝鮮半島南部～中国大陸北部に分布。内湾～湾口部の中潮帯の砂泥底に生息する。		

新生腹足目モミジボラ科		ホソウネモミジボラ	絶滅危惧 IB 類
<i>Inquisitor latifasciata</i> (G. B. Sowerby II, 1870)		2001：－，環境省：－	
選定理由	本種の現生個体群は国内では有明海に分布がほぼ限られる。2005 年に大牟田市沖の水深 9.5m の砂泥底で生息が確認された。本種は有明海の潮下帯に比較的広く分布するが，個体数は少ない。有明海で行われている覆砂事業は，本種の生息環境に負荷を及ぼす可能性がある。本種のほか，かつてのクダマキガイ科は，近年複数の科に分割された（Bouchet <i>et al.</i> , 2011）。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限，その他（覆砂）		
分布情報	大牟田市三池沖（波部・田中，1959），有明海，黒崎（ <i>Inquisitor</i> sp.：高橋・岡本，1969）；大牟田市沖（2005 年：森敬介，未発表）		
種の概要	殻長 40 mm，細長い紡錘形，湾曲した縦肋の間に明瞭な螺肋を持ち，やや布目状になる。有明海，朝鮮半島，中国大陸沿岸に分布。		

異鰓目トウガタガイ科		イソチドリ	絶滅危惧 IB 類
<i>Amathina tricarinata</i> (Linnaeus, 1767)		2001：－，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	博多湾，玄界灘，響灘では近年の記録はない。大牟田市沖の潮下帯では，2000～2004 年にかけてタイラギ類への共生が確認されている（逸見ほか，2013；逸見泰久，未発表）。本種は 1980 年代以降，全国的に減少し，生息地が局地的になっている。県内でも有明海以外では，大きく減少したと考えられる。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限，その他（ホスト（二枚貝類）の減少）		
分布情報	玄界灘，今津，生松原，小戸，西戸崎，津屋崎，波津（岡本，1956），玄界灘，響灘（高橋・岡本，1969），柳川市沖端漁港（福田，2000），大牟田市沖（逸見ほか，2013）		
種の概要	殻長 15 mm，笠形，殻頂は小さく巻き，殻頂から前縁へ 3 本の太い肋が走る。白色，厚質，褐色の殻皮を被る。本州～九州，中国大陸沿岸に分布。タイラギ，イタボガキなどに着生し，体液を吸う。		

異鰓目オカミミガイ科		スジケシガイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Carychium noduliferum</i> Reinhardt, 1877		2001：－，環境省：－	
選定理由	県内では糸島市水無でしか確認されておらず，分布が局限されており，環境の変化によって絶滅する可能性がある。水無では，2005 年の調査でも生息が確認されている。		
危機要因	森林伐採，石灰採掘，産地局限		
分布情報	糸島市水無		
種の概要	殻長 2.5 mm，ケシガイよりやや大きく，殻表には斜めの成長線条が明瞭。本州・四国・九州に分布し，山地の落葉下に生息する。石灰岩地にみられることが多い。		

異鰓目オカミミガイ科	クリイロコミミガイ	絶滅危惧 IB 類
------------	-----------	-----------

Laemodonta siamensis (Morelet, 1875)

2001：絶滅危惧 I 類，環境省：絶滅危惧 II 類

選定理由	県内では周防灘・博多湾・加布里湾・有明海沿岸の河口域に生息する。博多湾では箱崎以西に分布していたが、現在は今津干潟にのみ生息する。各地での生息密度は低く、ナラビオカミミガイよりも生息地が少ない。宗像市鐘崎・釣川，福津市今川，福岡市志賀島でも記録があるが，標本の再検討が必要である。
危機要因	河川開発，海岸開発，湿地開発，水質汚濁
分布情報	今津，地行，西公園，箱崎(岡本，1956)，博多湾，西公園(高橋・岡本，1969)；樋井川河口(1950 年)，2000 年以降の記録：行橋市，北九州市曾根干潟，福岡市今津干潟，糸島市泉川，有明海矢部川河口
種の概要	殻長 8 mm，卵円形で殻頂は侵食されていることが多く，細い螺肋を持ち，内唇に 2 歯，軸唇に 1 歯があり，殻口は肥厚し内側に 1 歯がある。伊勢湾～南西諸島，東南アジアに分布。内湾奥や河口汽水域の高潮帯・中潮帯上部の転石下の隙間に生息する。

異鰓目ヒラマキガイ科	ミズコハクガイ	絶滅危惧 IB 類
------------	---------	-----------

Gyraulus soritai Habe, 1976

2001：一，環境省：絶滅危惧 II 類

選定理由	本州・四国・九州に広く分布するが，生息地は局所的で少ない。本県では記録がなかったが，2005 年に大牟田市で確認された(大牟田市環境部環境保全課，2006)。本種は湧水のあるような自然度の高い湿地に生息し，県内ではそのような場所が減少していると考えられるが，他のヒラマキガイ科の種と混同されて見落とされている可能性もある。
危機要因	湿地開発，湖沼開発，ため池改修，水路改修，水質汚濁
分布情報	大牟田市
種の概要	殻幅 4 mm 前後の円盤形。ヒラマキミズマイマイやレンズヒラマキに似るが，体層の底面は深く陥没する。主に湿地，池，水田などの止水的環境で水生植物や転石に付着して生息する。

異鰓目ノミガイ科	ノミガイ	絶滅危惧 IB 類
----------	------	-----------

Tornatelloides boeningi (Schmacher & Böttger, 1891)

2001：絶滅危惧 I 類，環境省：絶滅危惧 II 類

選定理由	県内での分布は極めて限定的・不連続で，個体数も少ない。生息地の規模が小さいために，樹木の伐採や海浜植物群落の変化で容易に絶滅してしまう危険性がある。
危機要因	産地局限，海岸開発，道路工事，踏みつけ
分布情報	糸島市志摩桜井・志摩小金丸・二丈深江
種の概要	殻長 4 mm 程度。殻は微小な円錐形，褐色。殻口は卵形で，内唇に 1 唇板がある。本州中部から沖縄へかけて分布する。海岸近くの社寺林の椿など樹木の洞，海岸林のマサキの枝葉，砂丘の岡側斜面の板の裏側などに付着して生活する。
特記事項	日本海沿岸では本県が唯一の分布地。

異鰓目キセルモドキ科	ホソキセルモドキ	絶滅危惧 IB 類
------------	----------	-----------

Mirus rugulosus (Möllendorff, 1900)

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	本種については，キセルモドキと連続する形態変異ではないかという見解があり(山本ほか，1977)，分類学的な再検討が必要とされるが，環境省に従って別種として扱った。本県で本種に同定され得るものの産地は，キセルモドキに比して極めて少ない。
危機要因	森林伐採，産地局限
分布情報	宗像市沖ノ島，福岡市城南区油山，同・西区小呂島，糸島市二丈吉井(口絵写真 27)
種の概要	殻長 21 mm，キセルモドキよりも小型で細い。四国・九州に分布し，四国の 3 県，九州の 5 県でレッドデータブックに掲載されている。別名イキキセルモドキ(高橋・岡本，1969)。

異鰓目キセルガイ科		アメイロギセル	絶滅危惧 IB 類
		<i>Mesophaedusa viridiflava</i> (Böttger, 1877)	2001：絶滅危惧 I 類，環境省：－
選定理由	本県では産地が限定的で、個体数も少ない。自然度の高い森林の伐採や遷移進行で生息地が減少し、絶滅が危惧される。		
危機要因	森林伐採，遷移進行		
分布情報	添田町英彦山・障子ヶ岳，宮若市宮田・西山・犬鳴山，古賀市薬王寺・谷山，篠栗町小浦，朝倉市古処山，八女市釈迦岳・矢部村		
種の概要	殻長 25 mm。殻表は濃い褐色で光沢がある。四国(愛媛県，高知県)および九州全域に分布。自然林内の落ち葉や瓦礫の下，朽木上，或いは高木の苔むした樹幹上。別名クロギセル，ナガシマギセル。		

異鰓目キセルガイ科		ヒロクチコギセル	絶滅危惧 IB 類
		<i>Reinia (Reinia) variegata</i> (A. Adams, 1868)	2001：絶滅危惧 I 類，環境省：絶滅危惧 I 類
選定理由	県内での分布は局所的である。福岡城址では 1949 年から記録があるが，1999 年の調査ではごく少数の生息が確認されたのみで，2000 年以降は再発見されていない。福岡城址での分布は，福岡城がかつて海岸線近くにあったことを示唆する貴重な情報である。		
危機要因	産地局限		
分布情報	宗像市沖ノ島，宗像市鐘崎，福岡市中央区福岡城址		
種の概要	殻は小型で，殻長 10 mm 程度。殻口は卵円形で，やや広い。上・下板は小さく，主襞，月状襞，上下腔襞を欠く。小笠原諸島，伊豆諸島，本州中部から四国，九州，朝鮮半島に分布。樹上性で，海岸や島のハマオモトの葉の間や木の洞，樹幹などに生息する。		

異鰓目キセルガイ科		カワモトギセル	絶滅危惧 IB 類
		<i>Tyrannophaedusa kawamotoi</i> Kuroda & Taki, 1944	2001：－，環境省：絶滅危惧 II 類
選定理由	県内では北九州市小倉南区菅生ノ滝で確認されているのみ(宮崎晋介採集:岡本, 1977)で，生息地が極めて限定的であり，環境の変化による絶滅が危惧される。		
危機要因	森林伐採，産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区菅生ノ滝		
種の概要	殻は中型で，殻長 20 mm 程度。殻色は白みを帯びた黄褐色。殻口は洋ナシ形。主襞は長く，体層の側面に及ぶ，月状襞は湾曲し，下腔襞の中央に達する。中国(山口県)，九州(大分県，熊本県，宮崎県)に分布し，山地の森林内の落ち葉や朽ち木の下に生息する。		

異鰓目オオコウラナメクジ科		オオコウラナメクジ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Nipponarion carinatus</i> Yamaguchi & Habe, 1955	2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	高橋・岡本(1969)でヤマコウラナメクジとされた旧・甘木市三奈木のもは，その後本種に訂正された。他には 1998 年に英彦山で 1 個体の生息が確認されたのみで，県内では産地が限定的で，個体数も極めて少ない。森林伐採で生息地，個体数とも減少することが危惧される。		
危機要因	森林伐採，産地局限		
分布情報	添田町英彦山中岳，朝倉市三奈木		
種の概要	体長 40 mm 位。体色は褐色で，淡褐色の小斑紋で覆われる。頭部は黒色。甲羅後方の背面には尾端まで稜角があり，種小名 <i>carinatus</i> はこの稜角に因む。タイプ産地は鳥取市久松山。国内では本州(東北以南)，四国，九州(福岡県，熊本県)に分布する。自然度の高い産地の森林のほか，松江城など市街地でも発見されている。		

異鰓目ベッコウマイマイ科		タカハシベッコウ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Nipponochlamys takahashii</i> Kuroda & Habe, 1969	2001：絶滅危惧 I 類，環境省：絶滅危惧 I 類
選定理由	県内では下記のように比較的多くの地点から記録があるが、近似種も存在するため、再検討が必要な記録も含まれている。いずれの産地でも少産で、森林伐採や開発により、生息地、個体数とも減少していると思われる。本県とその周辺だけの固有種。		
危機要因	森林伐採，産地局限		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台・市丸，岡垣町，香春町殿町，添田町英彦山，嘉麻市小野谷馬見山，宮若市脇田，東峰村，宗像市大島，福津市楯崎，篠栗町若杉山，新宮町相島，福岡市中央区平尾・早良区野河内，筑紫野市大根地山		
種の概要	殻は薄く，半透明，淡褐色。螺塔は平低で，臍孔は広い。殻表は平滑で光沢がある。自然度の高い森林の林床で生活する。解剖学的所見に問題があるといわれており，分類学的再検討が必要な種類である。		

異鰓目ベッコウマイマイ科		レンズガイ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Otiosiopsis japonica</i> (Möllendorff, 1885)	2001：一，環境省：絶滅危惧 II 類
選定理由	県北東部に偏った分布を示し，生息地は局所的である。1940 年代から記録があり，近年の調査によっても，個体数は少ないが，平尾台や京都郡，田川郡で生息が確認されている。自然度の高い森林の伐採により，生息地，個体数が減少してきていることが危惧される。		
危機要因	森林伐採		
分布情報	北九州市小倉南区市丸・志井・堀越・平尾台，みやこ町犀川横瀬，香春町香春		
種の概要	殻幅は 13 mm 程度と小型。半透明で薄く，淡黄褐色。螺塔は低い円錐形で，凸レンズ形，周縁に鋭い竜骨を備える。臍孔は狭い。山地の林床の落ち葉の下に生息。		

異鰓目ベッコウマイマイ科		ツシマナガキビ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Trochochlamys longissima</i> (Pilsbry & Hirase, 1909)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内では 1948 年に若杉山で，1974 年代に平尾台で確認されているのみである。県内では分布域が極めて限定されており，近年の確認情報もないため，絶滅が危惧される。		
危機要因	森林伐採		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台，篠栗町若杉山		
種の概要	殻長 4 mm 程度で螺塔の高い円錐形の殻を持つ。本種は対馬市上県町佐須奈の標本に基づいて記載されたが，その後，福岡県，熊本県，男女群島で分布が確認された。自然度の高い林の林床に生息する。		

異鰓目ナンバンマイマイ科		ナカヤママイマイ	絶滅危惧 IB 類
		<i>Satsuma nakayamai</i> Kuroda & Minato, 1975	2001：絶滅危惧 II 類，環境省：絶滅危惧 I 類
選定理由	本県の特産種で，香春岳・平尾台周辺にのみ分布する。現在も比較的多くの個体群が確認されているが，生息地は石灰岩採掘，開発や野焼きなどによる環境変化に常にさらされている。石灰岩地周辺の林縁や草地といった 2 次的な植生に多く生息するが，種の分布域自体が狭いため，生息地保全の取り組みが必要とされる。特に鉱山敷地内の生息地保全は，事業者の協力が必要とされる。		
危機要因	森林伐採，草地開発，石灰採掘，土地造成，産地局限，その他(野焼き)		
分布情報	香春町香春岳(タイプ産地)，北九州市小倉南区平尾台(口絵写真 30)・市丸・高津尾		
種の概要	殻はやや小型で，円錐形。臍孔は広く，深い。殻表は淡黄褐色，成長線を除き平滑で光沢がある。体層周縁は丸い。外形はシメクチマイマイに似るが，光沢がより強く，殻底は平板で臍孔はより広い。		
特記事項	本県の固有種。		

異鰓目オナジマイマイ科		チクヤケマイマイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Aegista (Plectotropis) aemula</i> (Gude, 1900)		2001：一，環境省：一	
選定理由	本県では 1960 年代、1970 年代に宗像市沖ノ島、平尾台周辺で分布が確認されたが、その後、情報がなかった。2000 年代の調査では、平尾台では産地が限定的で、個体数も著しく少なかった。近年、アセスメント資料で春日原ゴルフ場周辺からも記録されているが、著者らは標本を未確認。本県では、分布域が局限されている。		
危機要因	森林伐採、石灰採掘、土地造成		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台・加用・志井・堀越、宗像市沖ノ島		
種の概要	殻は褐色、やや平低で、周縁は角張り、臍孔は広い。殻表には細かい螺条とそれに直交する鱗状片がある。国内では中国地方(鳥取県、岡山県、島根県、広島県、山口県)、九州(福岡県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県)に分布する。		

イガイ目イガイ科		ハンレイヒバリ	絶滅危惧 IB 類
<i>Modiolus (Modiolusia) hanleyi</i> (Dunker, 1882)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	県内各地から記録されているが、近年記録があるのは福津市と海の中道のみである。福岡海岸では、時に多数の打ち上げがみられる(田中正信、未発表)。佐賀県唐津市浜玉海岸でも生息が確認されており、玄界灘沿岸は本種の貴重な現存産地であるといえる。全国的に生息地はごく少ない。		
危機要因	海岸開発、水質汚濁、産地局限		
分布情報	小戸、志賀島、津屋崎、神湊、鐘崎、波津(岡本, 1956)、玄界灘、響灘、周防灘、有明海、津屋崎、蓑島(高橋・岡本, 1969)、福岡市海の中道(2012 年)、福岡市福間海岸(2012 年)、福岡市海の中道(2012 年)		
種の概要	殻長 45 mm、長卵形で、膨らみが強く、薄質、茶褐色。東京湾～九州、中国大陸沿岸に分布。内湾や開放的な湾の、低潮帯以深の砂底・砂泥底に生息する。別名カラスノマクラ。柳川方言の「からすのまくら」はコケガラスと思われるが、淡水のイシガイ類なども含め「黒くて長い貝」に広く使われたようである。		

フネガイ目フネガイ科		ササゲミエガイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Estellacar galactodes</i> (Benson in Cantor, 1842)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	県内では、北九州市曾根干潟と有明海塩塚川・矢部川河口域で生息が確認されている。本種は軟泥底に依存的に生息するため、底質の砂質化は生存の脅威となると考えられる。生息地・生息環境が局限されており、環境の変化によって絶滅するおそれがある。		
危機要因	海岸開発、水質汚濁、産地局限、その他(覆砂)		
分布情報	沖端、中島、黒崎(岡本, 1956)、有明海(高橋・岡本, 1969); 2000 年以降の記録: 北九州市曾根干潟、有明海(塩塚川河口、矢部川河口)		
種の概要	殻長 20 mm、前後にやや長い台形、やや厚質、膨らみは強く、殻表は細肋が交わり布目状で、ピロード状の殻皮を被る。瀬戸内海、有明海、八代海、朝鮮半島、中国大陸に分布。		

フネガイ目フネガイ科		ハイガイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Tegillarca granosa</i> (Linnaeus, 1758)		2001：一，環境省：絶滅危惧 II 類	
選定理由	古い殻は県内各地でみられるが、生息が確認されているのは、有明海沿岸のみである。現在、有明海佐賀県沿岸には比較的多く生息するが、本県沿岸での産出は稀である。北九州市曾根干潟など周防灘の干潟域にも遺骸が多くみられ、近世まで生存していたと考えられるが、消滅時期は分かっていない。		
危機要因	河川開発、海岸開発、水質汚濁、乱獲、産地局限、その他(覆砂)		
分布情報	黒崎(岡本, 1956)、有明海(高橋・岡本, 1969); 柳川市大和干拓沖(2013 年: 口絵写真 33)、筑後川河口		
種の概要	殻長 60 mm、箱形、厚質、膨らみが強く、結節を備えた 20 本内外の放射肋があり、茶色い殻皮を被る。殻を焼いて「貝灰」を製造していたことが、和名の語源であるが、かつては柳川市沖端にも貝灰原料の本種の殻の山が存在した。有明海沿岸では「ししがい」「ちんみ」と呼ばれ、食用にされる。		

カキ目イタボガキ科	イタボガキ	絶滅危惧 IB 類
------------------	--------------	------------------

Ostrea denselamellosa Lischke, 1869

2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	かつては、県内各地で記録されている。博多湾からも多くの記録があり、小戸と西公園では生息が確認されていた(岡本, 1956)。現在、博多湾では非常に古い殻のみられるのみで、絶滅したと考えられる。柳川市沖端漁港では、1999年にタコ壺に付着した複数の新鮮な殻が採集された。他に近年の記録はなく、著しく減少していると考えられる。
危機要因	海岸開発, 水質汚濁
分布情報	深江, 宮浦, 今津, 今宿, 生松原, 小戸, 残島, 地行, 西公園, 箱崎, 志賀島, 神湊, 鐘崎, 岩屋, 青浜(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 博多湾, 周防灘, 有明海(高橋・岡本, 1969), 糸島郡寺山(佐藤, 1973); 柳川市沖端漁港(1999年)
種の概要	陸奥湾～九州, 朝鮮半島, 中国大陸, インドネシアに分布。内湾の低潮帯～水深 35 m の砂礫底に生息。

イタヤガイ目イタヤガイ科	ヤミノニシキ	絶滅危惧 IB 類
---------------------	---------------	------------------

Volachlamys hirasei (Bavay, 1904)

2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	県内では有明海沿岸に分布し、1975年前後には非常に多くみられたが、1980年代には少産になっていた。1960年代以前の採集記録も少なく、1970年代には大発生があったとみなされる。近年は大牟田市沖で生息が確認されているが、個体数は少ない。有明海の海洋環境は悪化傾向にあるため、絶滅が危惧される。
危機要因	海岸開発, 水質汚濁, 産地局限, その他(浚渫), その他(覆砂)
分布情報	有明海(高橋・岡本, 1969), 有明海沿岸, 柳川地区(佐藤, 1975); 大牟田市三池沖(2006年)
種の概要	殻高 55 mm, 放射肋が無いかごく弱い型をヤミノニシキ(口絵写真 36)と呼び、放射肋が明瞭な型をアワジチヒロと呼ぶが、同種である。瀬戸内海, 有明海, 朝鮮半島, 中国大陸沿岸に分布。内湾の低潮帯～水深 60 m の泥底・砂泥底に生息する。

イシガイ目イシガイ科	ニセマツカサガイ	絶滅危惧 IB 類
-------------------	-----------------	------------------

Inversiunio yanagawensis (Kondo, 1982)

2001：絶滅危惧 I 類, 環境省：絶滅危惧 II 類

選定理由	学名の <i>yanagawensis</i> が示すように、柳川市二ツ川で採集された個体をもとに 1982 年に記載された。県内の産地は局所的でいずれの産地も個体数が少ない。河川・水路の改修工事・水質汚濁などの環境変化により危機的状況にある。また、本種などのイシガイ科貝類はタナゴ類の繁殖飼育用に乱獲・商取引されることがあるが、過度の採集も絶滅の要因となるため、嚴重に慎みたい。
危機要因	河川開発, 水路改修, 水質汚濁, 農薬使用, 乱獲, 産地局限
分布情報	遠賀川水系, 筑後川水系, 矢部川水系(口絵写真 38)。タイプ産地は柳川市二ツ川(矢部川水系)
種の概要	殻長 50 mm 程度の卵円形。殻後縁は丸くわずかな湾曲がみられる。本州(滋賀県以西), 四国, 九州に分布。小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。幼生はオイカワ, カワムツ, ヨシノボリの鰓に主に寄生する。
特記事項	タイプ産地は柳川市。

ツキガイ目ツキガイ科	イセシラガイ	絶滅危惧 IB 類
-------------------	---------------	------------------

Anodontia bialata (Pilsbry, 1895)

2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	県内各地から記録があるが、殻による記録がほとんどで、過去の生息状況はよく分かっていない。加布里湾では、生貝の打ち上げが報告されている(魚住・佐藤, 1974)。福岡では「絶滅」と報告された(魚住, 1998)。著しく減少したと考えられるが、内湾浅海域のアマモ場や泥底に生息地が残っている可能性がある。
危機要因	海岸開発, 水質汚濁
分布情報	桜井, 大原, 今津, 今宿, 生松原, 小戸, 地行, 志賀島, 神湊, 鐘崎, 岩屋(岡本, 1956), 博多湾(高橋・岡本, 1969), 加布里湾(魚住・佐藤, 1974), 福岡町(魚住, 1998), 北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999); 柳川市沖端(1981年:佐藤勝義標本), 糸島市寺山(1982年:佐藤勝義標本), 行橋市長井(2013年:殻), 福岡市今津(2013年:古い殻)
種の概要	北海道南部～九州, 朝鮮半島, 中国大陸, アンダマン海, インドに分布。

ザルガイ目ザルガイ科	ヒシガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Fragum bannoi</i> (Otsuka, 1937)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	玄界灘・響灘の数カ所から記録がある。福岡では「絶滅」と報告された(魚住, 1998)。近年も福岡や三苦で稀に殻が採集される(田中正信, 大西正人, 未発表)が、生息しているか不明である。志摩船越では古い殻しかみられない。本種も他のオオヒシガイ属諸種同様に外套膜に褐虫藻を共生させている可能性が高く、水質汚濁による海水の透明度低下やコアマモ場の消失などが、消滅要因になっていると考えられる。	
危機要因	海岸開発, 水質汚濁, 産地局限	
分布情報	津屋崎, 岩屋(岡本, 1956; 高橋・岡本, 1969), 船越(岡本, 1977), 福岡町(魚住, 1998); 福津市福岡(2013年: 殻), 福岡市東区三苦(2007年: 殻), 糸島市志摩船越(2013年: 古い殻)	
種の概要	殻長 10 mm, 方形, 厚質, 黄白色, 疣状突起を持つ放射肋が 20 本前後ある。房総半島～九州, 奄美大島, 台湾, 中国大陸～東南アジアに分布。外洋水の影響のある湾の低潮帯～水深 10 m の砂底・粗砂底に生息する。	

ザルガイ目ニッコウガイ科	イチョウシラトリ	絶滅危惧Ⅰ類
<i>Serratina diaphana</i> (Deshayes, 1855)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅰ類
選定理由	県内では近年は、曾根干潟と今津干潟(口絵写真 40)で生息が確認されている。有明海では、沖端川河口沖で 2001 年に合弁死殻 2 個体が採集されている(福田, 2003)。周防灘・博多湾・有明海の全てで、生息地が減少し、個体群・個体数が少なくなっていると考えられる。	
危機要因	海岸開発, 水質汚濁, 産地局限, その他(覆砂)	
分布情報	今津, 小戸, 地行, 湊町, 箱崎, 志賀島, 神湊, 葦島, 中島, 松江(岡本, 1956), 玄界灘, 博多湾, 周防灘, 有明海(高橋・岡本, 1969), 大牟田市黒崎, 柳川市沖端川河口, 北九州市曾根干潟(Yamashita <i>et al.</i> , 1997), 沖端川河口沖(福田, 2003), 曾根干潟, 福岡市今津干潟(Ujino & Matsukuma, 2013)	
種の概要	本州～九州, 朝鮮半島, 中国大陸に分布。内湾・河口干潟の中潮帯泥底に生息する。ヌノメイチョウシラトリ <i>S. capsoides</i> (Lamarck, 1818)とは別種であることが明らかになっている(Ujino & Matsukuma, 2013)。	

ザルガイ目アサジガイ科	フルイガイ	絶滅危惧Ⅰ類
<i>Semele cordiformis</i> (Holten, 1802)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅰ類
選定理由	博多湾西部には 1980 年代前半まで多産したが、著しく減少し、生息が稀になっている。周防灘沿岸では、豊前市の干潟で個体群が確認された。全国的に生息地が非常に少なくなっており、本県の生息地は貴重である。	
危機要因	海岸開発, 水質汚濁	
分布情報	今津, 地行, 残島, 西公園, 名島(岡本, 1956), 響灘, 博多湾, 周防灘(高橋・岡本, 1969), 加布里湾(魚住・佐藤, 1974), 北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999); 豊前市(2013年: 口絵写真 41), 行橋市葦島漁港(2013年), 博多湾西部(2012年)	
種の概要	殻長 40 mm, 類円形, やや薄質, 殻表は布目状で、薄紅色の放射彩がある。房総半島～九州, 中国大陸～東南アジア, インド洋, 紅海に分布。内湾～湾口部の干潟の岩礫地の砂泥底・砂泥礫底に生息する。	

ザルガイ目パカガイ科	ヒナミルクイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Macrotoma depressa</i> (Spengler, 1802)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	県内では糸島市寺山と福津市福岡海岸でしか確認されていない。福岡では「絶滅？」とされ(魚住, 1998), 近年も確認されていない。寺山でも近年は確認されていない。本種は全国的に近年の生息情報に乏しく、本県でも個体群の消滅が危惧される。	
危機要因	海岸開発, 水質汚濁	
分布情報	糸島郡寺山(佐藤, 1978; 佐藤・岡本, 1978), 福岡町(魚住, 1998)	
種の概要	殻長 45 mm, 前後に長い長卵形, やや薄質, 白色, 薄い黄褐色の殻皮を備える。房総・男鹿半島～九州, インドー西太平洋域に分布。やや内湾の低潮帯以深の砂泥底に生息する。別名ヒナミルガイ。	

ザルガイ目バカガイ科		ヤチヨノハナガイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Raeta pellicula</i> (Deshayes, 1854)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	県内では周防灘と福津市福間海岸から記録されているが、ごく寡産である。日本ベントス学会(2012)のカテゴリーに準じた。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	福間町(魚住，1998)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；豊前市(2013年)		
種の概要	殻長 40 mm，亜三角形，後端は突出し，薄質，白色，殻表には太い同心円肋がある。本州～九州，ピョートル大帝湾～中国大陸～東南アジアに分布。内湾～湾口部の干潟・砂浜の低潮帯以深の砂底に生息する。		

ザルガイ目キサガイ科		キサガイ	絶滅危惧 IB 類
<i>Cardilia semisulcata</i> (Lamarck, 1819)		2001：一，環境省：一	
選定理由	県内では，津屋崎・福間海岸と鐘崎で記録されている。生貝は 1968 年以降確認されておらず，魚住(1998)は「絶滅」としたが，近年も新鮮な殻が稀に採集されることから，僅かに生息していると考えられる。本種は全国的に生息地が局限され，いずれの産地でも個体数が少ない。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限		
分布情報	津屋崎(岡本，1956)，津屋崎，鐘崎(高橋・岡本，1969)，福間町(魚住，1998)；福津市福間海岸(2012年：田中正信採集)		
種の概要	殻高 20 mm，合弁を前から見るとハート形で，膨らみが強く，殻頂は著しく巻き込む。薄質，白色で薄い黄色の殻皮を持つ。房総・能登半島～九州，中国大陸沿岸，台湾，インドー西太平洋区に分布。		

ザルガイ目マルスダレガイ科		ウラカガミ	絶滅危惧 IB 類
<i>Dosinia</i> (<i>Dosinella</i>) <i>penicillata</i> (Reeve, 1850)		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	博多湾・有明海から殻が記録されているが，生息記録はない。大分県中津市沖の周防灘で，ごく新鮮な合弁が採集されており，県内の周防灘沿岸にも生息している可能性が高い。本種は日本では内湾潮下帯泥底に主に生息し，生息状況の把握が困難な種である。また，古い遺骸も合弁で靱帯が残っていることが多く，生息の判断も難しい。有明海や周防灘の潮下帯には生息している可能性があるが，さらに調査が必要である。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	湊町，箱崎，黒埼(岡本，1956)，博多湾，有明海(高橋・岡本，1969)；矢部川沖(2001年：殻)		
種の概要	殻長 50 mm，やや角張った類円形で，膨らみは弱く，薄質，密な輪肋がある。套線湾入は非常に深い。陸奥湾～九州，朝鮮半島，中国大陸に分布。内湾の低潮帯～水深 20 m の泥底に生息する。学名は，Huber (2010)の見解に従った。		

ザルガイ目マルスダレガイ科		ウスハマグリ	絶滅危惧 IB 類
<i>Pitar kurodai</i> Matsubara, 2007		2001：一，環境省：絶滅危惧 I 類	
選定理由	過去に県内各地で記録されているが，近年は福津市でしか生息が確認されていない。糸島市寺山では 1970 年代には多くみられたが，激滅した。博多湾でも近年は確認されていない。本種は全国的に見ても，湾口部や外洋に面した海域に生息地が残っているが，内湾域では減少傾向が強く，消滅した産地が多い。本県でも，内湾域で生息地・個体群が大きく減少したと考えられるため，重い評価とした。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	深江，大原，今津，今宿，生松原，小戸，残島，西戸崎，志賀島，津屋崎，神湊，波津(岡本，1956)，大牟田市三池沖(波部・田中，1959)，玄界灘，響灘，有明海(高橋・岡本，1969)，糸島郡寺山(佐藤，1973)，福間町(魚住，1998)；2000年以降の記録：福津市津屋崎・福間海岸		
種の概要	殻長 40 mm，膨らみの強い蛤形，白色，殻に砂を付着する。本州～九州，東南アジアに分布。		

ザルガイ目ウロコガイ科		アリアケケボリ	絶滅危惧IB類
<i>Borniopsis ariakensis</i> Habe, 1959		2001：一，環境省：絶滅危惧I類	
選定理由	県内では三池沖，柳川市沖から記録されている。三池沖の記録は殻である。柳川市沖の記録は環境省調査による。本種は有明海・八代海に分布し，トゲイカリナマコ <i>Protankyra bidentata</i> (Woodward & Barrett, 1858)の体表および巢穴に共生するが，近年の生息記録はごく少ない。有明海奥部では，沖積平野や海底の堆積物中から殻が多く確認されているが，生息記録はほとんどない。日本ベントス学会(2012)の評価に準じた。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限，その他(ホストの減少)		
分布情報	大牟田市三池沖(波部・田中，1969)，大牟田市沖(園田，2011)；柳川市沖(2005年)		
種の概要	殻長 12 mm，長楕円形，やや厚質，薄い褐色の殻皮を備え，明瞭な成長肋がある。		

ザルガイ目ウロコガイ科		ヒナゾキン	絶滅危惧IB類
<i>Devonia semperi</i> (Ohshima, 1930)		2001：一，環境省：絶滅危惧I類	
選定理由	本種の本記載において，当時の福岡市箱崎海岸に生息していたことが報告されている(大島，1931)が，その後同地は埋め立てられた。近年，博多湾東部の潮下帯に生息することが確認されている。本種はトゲイカリナマコの巢穴中に生息し，その体表に強く着生する。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限，その他(ホストの減少)		
分布情報	福岡市箱崎(大島，1931)；博多湾東部		
種の概要	殻長 7 mm，丸い亜三角形で，薄質，半透明白色，外套膜が殻を完全に覆う。瀬戸内海，九州，中国大陸沿岸に分布。タイプ産地は熊本県天草郡苓北町富岡巴湾。本記載での和名の綴りは「ヒナゾキン」。		

ザルガイ目ウロコガイ科		オウギウロコガイ	絶滅危惧IB類
<i>Galeommella utinomii</i> Habe, 1958		2001：一，環境省：絶滅危惧I類	
選定理由	県内では曾根干潟・津屋崎・糸島市福吉港で確認されている。福吉港では，潮下帯に設置されていた土管の漁礁から採集されている(佐藤，1978)。県内では確認例に乏しく，生息地は少ないと考えられる。日本ベントス学会のカテゴリーに準じた。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限		
分布情報	糸島郡福吉港(佐藤，1978)；北九州市曾根干潟(2008年)，福津市津屋崎港(2011年：殻)		
種の概要	殻は殻長 10 mm，薄質，白色半透明，顕著な放射肋がある。外套膜は白色で殻を覆い，橙赤色の触角と外套膜突起が多数ある。東京湾～九州に分布。内湾～やや外洋の中潮帯に深に生息する。		

ザルガイ目ウロコガイ科		マゴコロガイ	絶滅危惧IB類
<i>Peregrinamor ohshimai</i> Shoji, 1938		2001：絶滅危惧I類，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	本記載に記述のある博多湾箱崎の産地は埋め立てられて消滅した。その後，博多湾からの記録はない。他に県内では曾根干潟・遠賀川河口・大牟田市で記録されている。県内での本種の調査は充分といえず，なお生息地が発見される可能性があるが，カテゴリーは 2001 年に準じた。本種のタイプ産地は Hukuoka と記載されており(庄司，1938)，福岡県と福岡市のどちらを意図したか不明である。博多湾箱崎はアナジャコへの寄生率に関して言及された産地で，厳密にはタイプ産地ではない。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限，その他(ホストの減少)		
分布情報	福岡，博多湾箱崎(庄司，1938)，北九州市曾根干潟(福岡県環境部自然環境課，2001)；山口貝類研究談話会，2002)，大牟田市三池港海水浴場(福岡県環境部自然環境課，2001)；芦屋町遠賀川河口		
種の概要	殻長 13 mm，細い鎌形。東京湾～九州に分布。干潟に生息するアナジャコ類の胸部に共生する。		

ザルガイ目ウロコガイ科		オキナノエガオ	絶滅危惧ⅠB類
<i>Platomyia rugata</i> Habe, 1951		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅰ類	
選定理由	博多湾と有明海から，過去の記録があるのみで，近年は確認されていない。本種は希少な種で，全国的に産出例が極めて少ない。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限，その他(ホストの減少)		
分布情報	大牟田市三池沖(波部・田中，1969)，博多湾，福岡市地行(高橋・岡本，1969)		
種の概要	殻長 8 mm，薄質，白色半透明，膨らみが弱く扁平で，顕著な同心円肋がある。相模湾・七尾湾～九州に分布。		

古腹足目スカシガイ科		セムシマドアキガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Rimula cumingii</i> A. Adams, 1853		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	本県では，福津市津屋崎と北九州市若松区岩屋から殻が確認されているが，「少ない」とされている(岡本，1956)。近年の記録はない。全国的に寡産で，生息地は限定されている。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	津屋崎，岩屋(岡本，1956)，玄界灘，響灘(高橋・岡本，1969)		
種の概要	殻長 5 mm，笠形，明瞭な放射肋と螺肋があり，前部中央の放射肋間に小孔を持つ。本州～九州に分布，転石裏に生息する。		

古腹足目ニシキウズ科		イボキサゴ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Umbonium (Suchium) moniliferum</i> (Lamarck, 1822)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	かつては県内各地の内湾干潟や砂浜に多産したが，個体群の消滅や個体数減少が起きている。博多湾では生松原・小戸・室見川河口・地行・西公園・箱崎・和白などでみられた(岡本，1956)が，ほとんどの場所で消滅したと考えられる。現在は，周防灘沿岸，福津市，加布里湾，柳川市で生息が確認されているが，生息範囲は限定的である。福津市津屋崎では，かつて「ピナ」「チシャゴ」と呼ばれ，食用に販売されていた(魚住，1973)。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，		
分布情報	玄界灘，響灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，福岡市(魚住，1998)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；2000年以降の記録：吉富町，豊前市，行橋市，福津市津屋崎，糸島市加布里湾，柳川市橋本干拓地先		
種の概要	殻幅 20 mm，低円錐形，縫合下に疣列がある。日本(本州～九州)，朝鮮半島南部に分布。		

アマオブネ目アマオブネ科		ヒロクチカノコ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Neripteron</i> sp.		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内では現在，周防灘沿岸，糸島市，有明海に生息する。周防灘，有明海沿岸には生息地が多い。博多湾，津屋崎，宗像市神湊で過去の記録があるが，近年は確認されていない。河口域の安定した湿地環境に生息し，河川改修・汚染等によって生息地が失われやすい。		
危機要因	河川開発，海岸開発，水質汚濁		
分布情報	福岡市樋井川，多々良川，津屋崎町渡，大牟田市隈川(高橋・岡本，1969)，神湊(岡本，1977)，吉富町(福岡県環境部自然環境課，2001)；大牟田市隈川，柳川市沖ノ端川(1999年)，2000年以降の記録：行橋市，北九州市曾根干潟，糸島市泉川，有明海沿岸(筑後川，塩塚川，矢部川)		
種の概要	殻幅 20 mm，楕円半球形，殻口は大きく広がり，滑層は広く上下に張り出す。三河湾～九州，中国大陸沿岸に分布。内湾の河口汽水域中潮帯の葦原周辺に生息する。学名未確定種。		

アマオブネ目アマオブネ科		ウミヒメカノコ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Smaragdia</i> sp.	2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	県内では、玄界灘・博多湾から記録されている。博多湾周辺では、小戸・西公園・箱崎・志賀島で殻が採集されており、かつては生息していたと考えられる。県内での近年の確認情報はない。水質汚濁や埋立によるウミヒルモ・コアモなどの海草藻場の衰退により、減少していると考えられる。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，その他（海草藻場の減少）		
分布情報	小戸，西公園，箱崎，志賀島（レモンカノコ：岡本，1956），玄界灘，博多湾，津屋崎（高橋・岡本，1969）		
種の概要	殻長 4mm の小型のアマオブネ類で，内湾～湾口部の潮下帯のウミヒルモなどの海草帯に生息する。伊豆半島～南西諸島にかけて分布するが，生息地は限定的で少ない。		

新生腹足目ヤマタニシ科		サドヤマトガイ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Japonia sadoensis</i> Pilsbry & Hirase, 1903	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	1940～1980 年に県内各地の自然度の高い森林や社寺林で生息が記録されているが，分布は不連続である上に，近年の記録はほとんどない。分布地が限定的で個体数も少ないために，森林伐採により生息地が減少し，絶滅することが危惧される。		
危機要因	森林伐採		
分布情報	添田町英彦山，北九州市小倉南区呼野・平尾台，宮若市，福津市飯盛山，久山町，古賀市，朝倉市古処山		
種の概要	殻は円錐形，殻長 5 mm 程度と小型で，褐色。体層の中央部に 2 列の毛状の殻皮がある。殻口は円く，薄い円形の蓋を有する。臍孔はやや広く，深い。山地の森林の落ち葉の下に生息する。		

新生腹足目ヤマタニシ科		アツブタガイ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Cyclotus (Procyclus) campanulatus</i> Martens, 1865	2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一
選定理由	県内各地の山地の森林や社寺林で生息が記録されているが，分布は不連続で限定的である。福岡市中央区福岡城址など市街地，或いはその近郊の生息地は消滅した。		
危機要因	森林伐採，近交化進行		
分布情報	北九州市小倉南区志井・堀越，宗像市吉留，宇美町，篠栗町若杉山，春日原ゴルフ場周辺，福岡市早良区石釜，糸島市前原・志摩		
種の概要	殻は平低で，体層周縁は丸く，臍孔は極めて広い。殻表は茶褐色，平滑で光沢がある。殻口は円形で，中央に核を持つ石灰質の蓋を有する。山地や里山の落ち葉の下に生息。本州中部以南，四国，九州に分布する。		

新生腹足目アズキガイ科		アズキガイ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Pupinella (Pupinopsis) rufa</i> (Sowerby, 1864)	2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一
選定理由	県内での分布地は限定的で，また糸島市を除き確認は 20 年以上前と古い。糸島市では個体数が極めて多いが，分布範囲は限定的である。近年，糸島市の生息地では松が枯死したために海岸林が草地となり，マツクイムシ防除の農薬散布が行われた。環境の変化と農薬による個体数の激減が危惧されている。		
危機要因	農薬使用，植生変化		
分布情報	北九州市小倉南区呼野，香春町香春岳，添田町英彦山，豊前市犬ヶ岳，宗像市吉留，新宮町立花口，八女市矢部村，糸島市志摩小金丸（口絵写真 4）		
種の概要	殻長 12 mm 程度。殻は紡錘形で，殻質厚く，堅固，殻表は平滑で，茶褐色。殻口は丸く，口縁上部に溝がある。山地，或いは海岸の林床の落ち葉下に生息する。		

新生腹足目ゴマガイ科		オオウエゴマガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Diplommatina (Sinica) labiosa tenuiplica</i> Pilsbry, 1900		2001：一，環境省：一	
選定理由	県内では産地が限定的であり，個体数も少ない。森林伐採や林床の乾燥によって，個体群が消滅しやすい。平尾台・英彦山のものは，ツクシゴマガイ(未記載種)として報告された(高橋・岡本，1969)が，本種に同定する。平尾台，若杉山，久山町などでは近年も生息が確認されている。東日本に分布するイブキゴマガイ <i>D. (S.) labiosa labiosa</i> との関係は，よく解明されていない。		
危機要因	森林伐採，石灰採掘		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台・溝河原，添田町英彦山，宮若市宮田・西山，篠栗町若杉山・久山町，糸島市水無		
種の概要	殻は紡錘形。殻長 4 mm 程度とゴマガイ類としては大型。殻表は成長脈が著しく，黄褐色。殻口は丸く，角質の蓋を有する。自然度の高い森林の落ち葉の下に生息する。本州中部～九州に分布する。		

新生腹足目タニシ科		オオタニシ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Cipangopaludina japonica</i> (Martens, 1860)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	かつては県内各地でみられたが，農薬の使用や水質汚濁，用水路のコンクリート化などの環境悪化が原因で減少し，近年の報告は少ない。水田や用水路でよく見かける近縁のヒメタニシ <i>Sinotaia quadrata histrica</i> (Gould, 1859) は汚濁にも比較的強いものに対して，本種は汚濁に弱いといわれている。本県ではタニシ類の中で最も稀。		
危機要因	湖沼開発，河川開発，湿地開発，ため池改修，水路改修，水質汚濁，農薬使用，外来種侵入(スクミリンゴガイ <i>Pomacea canaliculata</i> (Lamarck, 1819))		
分布情報	御笠川水系，那珂川水系，糸島市志摩，太宰府市，筑後川水系，矢部川水系，みやま市山川町など		
種の概要	殻長 60 mm 前後。体層に弱い螺肋を巡らし，マルタニシよりも幾分角張る。幼貝は顕著に角張り算盤珠形。北海道から九州の流れの緩やかな河川，水路，池沼など水が干上がらない場所に生息する。		

新生腹足目キバウミニナ科		クロヘナタリ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Cerithidea (Cerithidea) largillierti</i> (Philippi, 1848)		2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：絶滅危惧Ⅰ類	
選定理由	本種は日本では，周防灘，有明海，八代海北部にのみ分布し，生息地は限定されている。下記の県内の生息地では比較的安定した個体群がみられるが，分布の局限された種であるため，生息地の保護が必要とされる。		
危機要因	河川開発，海岸開発，湿地開発，水質汚濁，産地局限		
分布情報	有明海(高橋・岡本，1969)；2000年以降の記録：行橋市，北九州市曾根干潟，有明海沿岸筑後川，沖端川，塩塚川(口絵写真6)，矢部川の各河口域		
種の概要	殻長 30 mm，やや太い塔形で，螺層は丸みを帯び体層はくびれる。縦肋は体層で弱くなり，外唇は肥厚しない。茶～灰黒色で色帯がある。周防灘，有明海，八代海，朝鮮半島，中国大陸，台湾，フィリピンに分布。内湾奥の干潟や河口汽水域の中潮帯の葦原の泥底に生息する。		

新生腹足目キバウミニナ科		カワアイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Cerithidea (Cerithideopsis) djadjariensis</i> (K. Martin, 1899)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内で現在確認されている生息地は少なく，過去より分布域・個体群が減少していると考えられる。博多湾では樋井川河口，多々良にも生息していた(岡本，1956)が，近年は確認されていない。河口域の泥干潟に生息するため，埋立・護岸工事などの影響を受けやすい。		
危機要因	河川開発，海岸開発，水質汚濁		
分布情報	玄界灘，響灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，加布里湾(佐藤，1976)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)，柳川市塩塚川河口(熊本県地域振興部文化企画課，2008)；2000年以降の記録：北九州市曾根干潟，福津市津屋崎(和田太一，未発表)，福岡市今津干潟，有明海筑後川河口		
種の概要	殻長 35 mm，塔形，茶褐色。東北地方～南西諸島，朝鮮半島，中国大陸，インド洋，太平洋に分布し，潮間帯泥底に生息する。		

新生腹足目リソツボ科	スジウネリチョウジガイ	絶滅危惧Ⅱ類
------------	-------------	--------

Rissoina (Rissolina) costulata (Dunker, 1860)

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	打ち上げで普通にみられる種であったが、減少傾向にあると考えられる。博多湾周辺では多くの地点で記録されていた(岡本, 1956)が、近年は古い殻しか確認されておらず、内湾域の個体群は衰退している可能性が高い。近年の県内調査では、ヌメチョウジガイは複数の生息地が確認されているが、本種は殻の記録しかなく、確認地点も少ない。
危機要因	海岸開発，水質汚濁
分布情報	小戸，能古島，西公園，箱崎，西戸崎，志賀島，津屋崎，神湊，鐘崎，波津，岩屋，蓑島(岡本, 1956)，玄界灘，響灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本, 1969)，福岡町(魚住, 1998)；福岡市今津(2013年：古い殻)，糸島市二丈福井(2013年：殻)
種の概要	殻長5 mm，やや太い塔形，厚質，白色，太い縦肋は斜行する。本州，朝鮮半島～南西諸島に分布。

新生腹足目リソツボ科	ゴマツボ	絶滅危惧Ⅱ類
------------	------	--------

Stosicia annulata (Dunker, 1860)

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	過去に比較的多くの地点で記録されているが、近年は福岡市と糸島市で殻が確認されたのみで、減少傾向にあると考えられる。
危機要因	水質汚濁，海岸開発
分布情報	残島，西公園，志賀島，神湊，鐘崎，波津，岩屋(岡本, 1956)，玄界灘，響灘，博多湾(高橋・岡本, 1969)；福岡市今津(2013年：殻)，糸島市二丈福井(2013年：殻)
種の概要	殻長4 mm，短円筒形，強い螺肋があり，その間は溝になる。殻口は肥厚する。房総・能登半島～九州，中国大陸に分布。開放的な湾や湾口部の低潮帯以深の岩礫地の転石裏に生息する。

新生腹足目ワカウラツボ科	イリエツボ	絶滅危惧Ⅱ類
--------------	-------	--------

Iravadia (Pseudonoba) yendoii (Yokoyama, 1927)

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	全国的に産出例が極めて少ない(日本ベントス学会, 2012)。本県では博多湾と周防灘から記録があり，博多湾では近年も生息が確認されている。2009年に生息が確認された地点は，博多湾東部の貧酸素の発生する海域で，シズクガイ <i>Theora fragilis</i> ，チヨノハナガイ <i>Raetellops pulchella</i> が同所的に生息している(福岡市環境局, 2012)。土田ほか(1991)の記録でもこれらの種とともに採集されている。こうしたことから，泥底を好みやや汚染に強い種と考えられるが，生息確認例は少なく，分布は局限されている。
危機要因	海岸開発，産地局限
分布情報	博多湾，福岡市湊町(高橋・岡本, 1969)，北九州市曾根干潟沖(土田ほか, 1991)，博多湾東部(福岡市環境局, 2012)；福岡市東区奈多(2008年)
種の概要	殻長4.5 mm，細い塔形，白色。東京湾・能登半島～九州，朝鮮半島に分布(日本ベントス学会, 2012)。

新生腹足目エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ	絶滅危惧Ⅱ類
---------------	-----------	--------

Gabbia kiusiuensis (S. Hirase, 1927)

2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	県内では郊外の水田などに普通に生息している地域もあるが，確認地点は少なく，生息地は限定的である。圃場整備による水田の乾田化などによる減少が危惧される。
危機要因	湖沼開発，河川開発，湿地開発，ため池改修，水路改修，水質汚濁，農薬使用，乾田化
分布情報	高田，渡瀬(現・みやま市高田町：高橋・岡本, 1969)，大刀洗町本郷(岡本, 1977)；北九州市小倉南区吉田・木下，遠賀川水系，香春町岩原，福津市今川河口(海岸打ち上げ)，那珂川町山田，小都市干潟，糸島市二丈福井(口絵写真8)
種の概要	殻長約6 mm。タニシ形の小型の巻貝。殻は薄質で半透明。兵庫県以西の本州，四国，九州全域に分布する。水田や周辺水路，流れの緩やかな河川，池沼など止水的な環境に生息する。

新生腹足目イソコハクガイ科		イソマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Sigaretoranus planus</i> (A. Adams, 1850)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内では、博多湾・玄界灘で記録されており、福津市福間では稀とされている(魚住，1998)。全国的に見ても、かつては打ち上げや浚渫砂から殻が採集されることが少なくなかったが、近年は確認例が減っており、本県でも近年の記録は乏しい。		
危機要因	水質汚濁，海岸開発		
分布情報	宮浦，小戸，志賀島，津屋崎(岡本，1956)，玄界灘(高橋・岡本，1969)，福間町(魚住，1998)		
種の概要	殻幅 10 mm，白色，薄質，低平な蝸牛形で，殻口は大きく広がり，臍孔はやや大きく開く。房総・能登半島～九州に分布。		

新生腹足目カワザンショウ科		ヨシダカワザンショウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Angustassiminea yoshidayukioi</i> (Kuroda, 1959)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内では生息地が少ない。河口域の高潮帯～潮上帯の葦原に生息するため，河川の護岸改修や道路建設などの影響を受けやすく，個体群の減少・消滅が危惧される。		
危機要因	河川開発，湿地開発，水質汚濁		
分布情報	北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)，柳川市昭南町沖端川河口西岸(福田，2003)；北九州市小倉南区竹馬川河口(2008年)，北九州市若松区江川(2006年)，遠賀川河口(2005年)，福岡市多々良川河口(和田太一，未発表)，福岡市今津干潟(2005年)，有明海筑後川河口		
種の概要	殻長 3.5 mm，卵円形で膨らみがあり，茶褐色～黒褐色で，光沢が強い。北海道南部～九州に分布。		

新生腹足目カワザンショウ科		アズキカワザンショウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Pseudomphala miyazakii</i> (Habe, 1943)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	本種は本県の筑後川河口がタイプ産地である。県内の有明海沿岸河口域に生息し，顕著な減少傾向はみられないが，河川改修などによって生息地の攪乱や縮小が認められる。分布の局限された種であり，大陸との生物地理的繋がりを示す貴重な種である。		
危機要因	河川開発，海岸開発，湿地開発，水質汚濁，産地局限		
分布情報	筑後川河口(タイプ産地:波部，1943)，沖端，矢部川河口，黒崎(高橋・岡本，1969)；2000年以降の記録:有明海沿岸筑後川・沖端川・塩塚川・矢部川・堂面川(口絵写真9)などの各河口域		
種の概要	殻長 7 mm，やや厚質，太い滴形で体層は膨みが強い。殻色は紅色やアズキ色で，縫合の下に螺条と淡色帯がある。有明海に分布。河口汽水域の潮間帯上部の葦原・泥底に生息する。		

新生腹足目タマガイ科		フロガイダマシ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Naticarius concinnus</i> (Dunker, 1860)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	過去に県内各地で記録されており，ごく普通な種であったが，近年は確認例が少なく，著しく減少したと考えられる。近県では佐賀県唐津市鎮西町松島沖から確認されており，外洋潮下帯にも分布しているため，本県でも同様な場所に生息地が残っている可能性がある。		
危機要因	水質汚濁，海岸開発		
分布情報	深江，大原，今津，生松原，小戸，残島，地行，西公園，西戸崎，志賀島，津屋崎，神湊，鐘崎，波津，(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾(高橋・岡本，1969)，福間町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)；糸島市寺山(1984年)，福津市福間海岸・恋の浦(2012年)		
種の概要	殻長 17 mm，球形，厚質，殻の上半分は褐色の不明瞭な雲状斑で占められ，中央に太く不連続な褐色帯がある。房総・男鹿半島～九州，朝鮮半島に分布。内湾～外洋の低潮帯以深の砂底に生息する。		

新生腹足目イトカケガイ科	オダマキ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Depressiscula aurita</i> (G. B. Sowerby II, 1844)		2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	有明海以外の県内各海域から記録があるが、博多湾と周防灘では近年の記録がない。津屋崎・福岡海岸にはかつて豊富に打ち上げがみられたが、近年は少なくなっている。海岸環境の悪化で、減少傾向にあると考えられる。	
危機要因	海岸開発，水質汚染，その他(海砂採取)	
分布情報	小戸，箱崎，名島，津屋崎，神湊，蓑島(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾，周防灘，神湊(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)；福津市福岡海岸(2012年)	
種の概要	殻長 20 mm，高円錐形，白色の太さの不均一な糸状縦肋があり，3本の太い茶褐色帯をめぐらす。房総・佐渡～九州，西太平洋に分布。内湾～外洋の低潮帯～水深 20 m の砂底・砂泥底に生息する。	

新生腹足目ハナゴウナ科	シロバリゴウナ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Eulima maria</i> (A. Adams, 1861)		2001：一，環境省：一
選定理由	高橋・岡本(1969)が「津屋崎には多産」としているように，1980年代までは津屋崎・福岡海岸では打ち上げで豊富にみられた。魚住(1998)は福岡で「現在はほとんどみられない」と報告した。近年も福岡海岸で打ち上げがみられるが，過去に比して著しく減少している。ヒメゴウナ・コカタビラガイなどとともに，この地域の砂浜海岸の生物相が大きく変化したことを示す代表的例といえる。	
危機要因	海岸開発，水質汚染	
分布情報	志賀島，津屋崎，神湊，鐘崎，波津(岡本，1956)，玄界灘，響灘，津屋崎(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)；福津市福岡海岸(2012年)	
種の概要	殻長 17 mm，塔形，薄質，白色半透明。房総半島，佐渡～東シナ海に分布。	

新生腹足目アッキガイ科	ハネナシヨウラク	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Ceratostoma rorifluum</i> (A. Adams & Reeve, 1848)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	かつて，響灘・玄界灘・博多湾の磯に多産したが，1980年代以降激減し，個体群の確認が困難になっていた。近年，博多湾西部で生息が確認されたほか，本県の県境に近い佐賀県唐津市浜玉町渚上でも生息が確認され(江川，2010)，博多湾～玄界灘の個体群は復活傾向にあることが示唆される。これはインボセックスの原因となる有機スズ化合物の使用が1990年代以降規制された効果であると考えられる。また，本種の個体群動態は，同所的に生息するイボニシやレイシとの生態的競合も考慮する必要がある。	
危機要因	海岸開発，水質汚染，産地局限，その他(インボセックス)	
分布情報	地行，西公園，鶴来島，志賀島，大島，岩屋(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾，鶴来島，西公園(高橋・岡本，1969)，糸島郡寺山(佐藤，1973)；糸島市二丈福井，博多湾西部(2013年：口絵写真 16a)	
種の概要	日本海沿岸～九州西岸，朝鮮半島，中国大陸北部に分布。	

新生腹足目オリレヨフバイ科	ヒロオビヨフバイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Zeuxis succinctus</i> (A. Adams, 1852)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅰ類
選定理由	博多湾，周防灘，有明海から記録があるが，近年は有明海沿岸でのみ生息が確認されている。外来種のカラムシロ <i>Zeuxis sinarus</i> (Philippi, 1851)は，本種と生息環境が重複するため，生息の脅威となると考えられる。カラムシロは，県内の有明海沿岸でも増加していたが，近年は減少傾向にある。	
危機要因	海岸開発，水質汚濁，外来種侵入(カラムシロ)，その他(インボセックス)	
分布情報	箱崎，蓑島，黒埼(岡本，1956)，博多湾，周防灘，有明海，福岡市箱崎(高橋・岡本，1969)，北九州市曾根干潟沖(土田ほか，1991)，柳川市沖端川河口(小菅ほか，1998)，柳川市沖端川河口沖(福田，2003)；2000年以降の記録：有明海沿岸	
種の概要	殻長 20 mm，縫合下と殻底に螺条を備えるが，体層中央部は平滑。瀬戸内海，有明海，朝鮮半島，中国大陸，インド～西太平洋区に分布。内湾の中・低潮帯～水深 10 m の泥底・砂泥底に生息する。	

新生腹足目バイ科	バイ	絶滅危惧Ⅱ類
----------	----	--------

Babylonia japonica (Reeve, 1843)

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	本種は船底塗料や漁具に用いられる有機スズ化合物に起因するインボセックスにより、各地で個体群が衰退した。福岡では1970年代半ばから、有明海では1980年代にほとんどみられなくなった。こうした傾向は2000年代まで続いていたが、近年は復活傾向にあり、行橋市・福津市・有明海で生息が確認され、有明海では漁獲も復活している(口絵写真18)。博多湾では過去には普通にみられたが、現在まだ生息が確認されていない。
危機要因	海岸開発、水質汚濁、乱獲、その他(インボセックス)
分布情報	玄界灘、響灘、博多湾、周防灘(高橋・岡本, 1969)、糸島郡芥屋(泊, 1998)、福岡町(魚住, 1998)、北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999);福津市福岡(2012年)、行橋市(2013年)、有明海峰ノ洲(2013年)
種の概要	北海道南部～九州、朝鮮半島に分布。内湾～外洋の低潮帯～水深50mの砂泥底に生息する。

新生腹足目コロモガイ科	オリレボラ	絶滅危惧Ⅱ類
-------------	-------	--------

Scalptia (Scalptia) scalariformis (Lamarck, 1822)

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	かつては博多湾でも多くの記録があるが、近年は確認されておらず、絶滅した可能性がある。周防灘沿岸でも近年の記録はない。柳川市沖などの有明海沿岸では、安定した個体群がみられる。有明海以外では、危機的な状況で、絶滅が危惧される。
危機要因	海岸開発、水質汚濁
分布情報	生松原、地行、西公園、湊町、箱崎、多々良、黒崎(岡本, 1956)、博多湾、周防灘、有明海(高橋・岡本, 1969)、北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999)、柳川市沖端川河口沖、矢部川河口沖(福田, 2003);柳川市沖(2010年)、矢部川沖(2006年)
種の概要	殻長25mm、殻は厚く、規則的な強い縦肋があり、螺肋は弱く、茶褐色で、細い白色帯を持つ。房総半島～九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸、インド-西太平洋区に分布。低潮帯～水深20mの砂泥底に生息。

新生腹足目タケノコガイ科	イワカワトクサ	絶滅危惧Ⅱ類
--------------	---------	--------

Duplicaria evoluta (Deshayes, 1859)

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	過去に県内各地で記録されているが、著しく減少したと考えられる。津屋崎・福岡海岸ではかつて打ち上げがみられ、ドレッジでも生貝が多く採集されたが、魚住(1998)は「絶滅(最近では殻もみられない)」と報告した。博多湾内にも生息していたと考えられ、近年も古い殻がみられるが、絶滅した可能性が高い。底質の変化・汚染や、それに伴う餌動物相の変化で、減少していると考えられる。外洋潮下帯にも分布するため、やや低い評価とした。
危機要因	水質汚濁、海岸開発、その他(餌動物の減少)
分布情報	生松原、小戸、地行、西公園、津屋崎、神湊、若松燈台付近(岡本, 1956)、玄界灘、響灘、博多湾、小戸(高橋・岡本, 1969)、福岡町(魚住, 1998)、糸島郡芥屋(泊, 1998);福岡市今津(2013年:殻)
種の概要	殻長50mm、塔形、茶褐色、多数の縦肋は顕著で隆起し、縫合下帯はくびれて明瞭。本州～九州、奄美大島、朝鮮半島、中国大陸に分布。開放的な湾や外洋の低潮帯～水深20mの砂底に生息する。

新生腹足目タケノコガイ科	シチクガイ	絶滅危惧Ⅱ類
--------------	-------	--------

Hastula rufopunctata (E. A. Smith, 1877)

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	本種は県内では、もともと生息地が少なかったと考えられるが、近年は確認情報がない。魚住(1998)は福岡において「絶滅」と報告した。水質・底質汚染や、砂浜環境の悪化で、減少傾向にあると考えられる。外洋潮下帯にも分布するため、やや低い評価とした。
危機要因	海岸開発、水質汚濁、その他(海砂採取、餌動物の減少)
分布情報	神湊、鐘崎、波津(岡本, 1956)、玄界灘、響灘、鐘崎(高橋・岡本, 1969)、福岡町(魚住, 1998)
種の概要	殻長35mm、細い塔形、黄色や紫黒色で、縫合下に褐色斑列をめぐらす。房総・男鹿半島および朝鮮半島以南、インド洋、太平洋に分布。開放的な湾や外洋の低潮帯～水深20mの砂底に生息する。

新生腹足目タケノコガイ科		イボヒメトクサ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Terebra bathyraphe</i> E. A. Smith, 1875	2001：一，環境省：一
選定理由	博多湾で少なからず確認されていたが、近年の記録はない。本州～九州の内湾で、普通にみられた種であるが、近年は確認情報が少なくなっている。潮下帯に生息し、生息状況の把握が難しいが、底質汚染や餌動物の減少で、特に内湾域では絶滅に瀕していると考えられる。		
危機要因	水質汚濁，海岸開発，その他(餌動物の減少)		
分布情報	生松原，小戸，地行，西公園，湊町，箱崎，名島，多々良(岡本，1956)，博多湾(高橋・岡本，1969)		
種の概要	殻長 28 mm，塔形，茶褐色，厚質，縫合下帯と縫合の上で結節が強く太い肋になる。茨城・男鹿半島～九州，インド～西太平洋区に分布。内湾～湾口部の潮下帯に生息する。		

異鰓目オオシノミガイ科		ムラクモキジビキガイ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Japanacteon nipponensis</i> (Yamakawa, 1911)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内では博多湾周辺，津屋崎・福岡海岸，響灘で記録されている。博多湾では，近年は確認されていない。魚住(1998)は福岡において「普通」としたが，近年の確認例は少ない。県内ではかなり減少傾向にあると考えられる。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	小戸，百道，地行，西公園，箱崎，名島，志賀島，津屋崎，多々良(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾，津屋崎(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)；福津市津屋崎(2011年)		
種の概要	殻長 13 mm，卵円形，薄質，体層は殻長の 80%を占める。螺層上部には群雲状の黒斑があり，中・下部には細い黒帯をめぐらす。陸奥湾～九州，朝鮮半島に分布。開放的な湾～やや外洋の，低潮帯以深の砂底に生息する。		

異鰓目スweifガイ科		カミスジカイコガイダマン	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Cylichnatys angustus</i> (Gould, 1859)	2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	県内では玄界灘，博多湾，周防灘で記録され，博多湾周辺で記録が多い。近年は県内から確認されていない。環境省カテゴリーに準じた。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	小戸，地行，西公園，箱崎，名島，西戸崎，志賀島，津屋崎，神湊，蓑島(岡本，1956)，玄界灘，博多湾，周防灘，神湊(高橋・岡本，1969)；糸島市志摩野北(1986年)		
種の概要	殻長 8 mm，卵形，薄質，半透明白色で，殻表全面に微細な螺溝をめぐらす。北海道南部～九州，朝鮮半島，中国大陸沿岸に分布。		

異鰓目フタマイマイ科		ウミマイマイ	絶滅危惧Ⅱ類
		<i>Lactiforis takii</i> (Kuroda, 1928)	2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	県内では，有明海の筑後川・沖端川・塩塚川・矢部川の各河口，黒崎(タイプ産地)で記録されており，現在もこれらの河口・沿岸域で生息が確認されている。タイプ産地の黒崎(現・大牟田市岬 黒崎)の地先は干拓によって埋立られたが，現在も大牟田市昭和開・みやま市高田町昭和開(口絵写真 19)の干拓地地先(黒崎漁港周辺)に生息地が存在する。埋立，河川改修，水質汚濁などの影響を受け続けながら，個体群が維持されているといえるが，種の分布は局限されており，均質な環境に依存しているため，潜在的な絶滅リスクが高い。		
危機要因	河川開発，海岸開発，水質汚濁，産地局限		
分布情報	三池郡開村黒崎(黒田，1928)，有明海 沖端，矢部川河口，黒崎(高橋・岡本，1969)，柳川市筑後川河口，塩塚川河口(佐藤，1974)		
種の概要	有明海，八代海，瀬戸内海(大分県中津市)，朝鮮半島南岸～西岸に分布。干潟の泥底に生息する。		

異鰓目トウガタガイ科	ヌカルミクチキレ	絶滅危惧Ⅱ類
------------	----------	--------

Sayella sp.

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	県内では、今津干潟で生息が確認されているのみ。周防灘海域には分布している可能性がある。産地が局限されており、干潟域の環境変化で絶滅する可能性がある。
危機要因	海岸開発，水質汚濁，産地局限
分布情報	福岡市今津干潟(2005年，森敬介採集：口絵写真20)
種の概要	殻長4mm，蛹形，薄質，茶褐色で光沢が強く，螺層はやや丸く，縫合のくびれは明らか，軸唇に弱い褶が1個ある。本州～九州の内湾干潟の泥底に生息する。

異鰓目トウガタガイ科	マキモノガイ	絶滅危惧Ⅱ類
------------	--------	--------

Leucotina diana (A. Adams in H. & A. Adams, 1855)

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅰ類

選定理由	玄界灘・響灘・有明海から記録されているが，近年の記録は少ない。
危機要因	海岸開発，水質汚濁
分布情報	大牟田市三池沖(波部・田中，1959)，玄界灘，響灘(コマキノガイ：高橋・岡本，1969)，響灘若松沖(Hori & Tsuchida, 1995)；柳川市沖端漁港，博多湾東部
種の概要	殻長35mm，太い塔形，白色，太い螺肋がある。本州～九州，朝鮮半島に分布。かつては， <i>L. diana</i> はコマキノガイ， <i>L. gigantea</i> (Dunker, 1877)はマキノガイの和名と呼ばれていたが，同種とされて，現在は <i>L. diana</i> にマキノガイの和名が使われている。本県では，玄界灘・響灘・博多湾でコマキノガイ型の，有明海で大型のマキノガイ型の産出が確認されている。

異鰓目トウガタガイ科	ヒメゴウナ	絶滅危惧Ⅱ類
------------	-------	--------

Monotygmia eximia (Lischke, 1872).

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	県内では津屋崎・福間海岸に多産したが，激減した。魚住(1998)は福間で「絶滅？」と報告した。福間において，近年も稀に新鮮な殻の産出がみられるため，生息していると考えられるが，大きく減少したことが明らかである。その他の地域では，近年の記録はない。
危機要因	海岸開発，水質汚濁
分布情報	大原，志賀島，津屋崎，神湊，波津(岡本，1956)，玄界灘，響灘，周防灘(高橋・岡本，1969)，福間町(魚住，1998)；福津市福間海岸(2013年：口絵写真21)
種の概要	殻長14mm，やや太い塔形，黒灰色・茶褐色，やや細い螺溝をめぐらす。房総・男鹿半島～九州に分布。開放的な湾や外洋の低潮帯で深の砂底に生息する。別名マキギヌ，キスガイ。

異鰓目ドロアワモチ科	センペイアワモチ	絶滅危惧Ⅱ類
------------	----------	--------

Platevindex sp.

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅰ類

選定理由	県内では，曾根干潟と有明海沿岸に分布するが，生息地・個体数は少ない。
危機要因	河川開発，海岸開発，水質汚濁，産地局限
分布情報	北九州市曾根干潟，有明海沖端川・塩塚川(口絵写真22)・矢部川の各河口
種の概要	体長50mm，卵円形・扁平で，背部は比較的硬く，茶褐色の地に黒い縦帯や斑紋がある。足部は狭く，体幅の3分の1程度。周防灘・有明海・九州西岸に分布。内湾奥や河口域の高潮帯の葦原や流木・転石の裏などに生息する。古い石垣などの護岸には個体群が形成されていることがあり，注意が必要とされる。コンクリート護岸などによって隠蔽場所が失われると生息が困難になる。雨後・夜間に活動することが多く，個体群規模の把握には夜間の観察が必要とされる。

異鰓目オカミミガイ科		カシノメガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Allochroa pfeifferi</i> (Pfeiffer, 1859)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：－	
選定理由	県内では記録が少なく、近年は確認されていない。本種は九州以北では、生息地の情報の少ない種である。中潮帯上部のカキ群集の間や岩の窪み、海蝕洞などの、隠蔽環境があるとともにヒメテングサなどの藻類の繁茂する場所に生息し、やや特殊な生息環境を要求するため生息地が限られていると考えられる。		
危機要因	河川開発，水質汚濁		
分布情報	玄界島(岡本, 1977)；宗像市神湊(1977年)，福津市恋ノ浦(1993年)		
種の概要	殻長 5.5 mm，紡錘形，青黒色・茶褐色で，白帯を備え，外唇は肥厚せず，内唇に 2 歯，軸唇に 1 歯がある。房総半島以南，インド－西太平洋区に分布。		

異鰓目オカミミガイ科		ナラビオカミミガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Auriculastra duplicata</i> (Pfeiffer, 1854)		2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内では周防灘・博多湾・加布里湾・有明海沿岸の河口域に生息し，下記には近年も生息が確認されている地点を挙げた。個体数は少ない場合が多い。河川改修などによって，生息地は危機にさらされている。		
危機要因	河川開発，海岸開発，湿地開発，水質汚濁		
分布情報	吉富町，行橋市，北九州市曾根干潟，福岡市雁ノ巣・和白・多々良川・今津干潟，糸島市泉川・千早新田，有明海筑後川河口・塩塚川河口・矢部川河口		
種の概要	殻長 9 mm，卵円形，やや厚質，緑黄褐色，内唇下部に 1 歯，軸唇に 2 歯があり，外唇は肥厚しない。三河湾～九州，朝鮮半島，中国大陸に分布。本種は流木や石などの下に多く，石と土の隙間やカニ穴などを利用する半地中生活者で，河川の粘土質の土手では地中の隙間に多数の個体が生息していることがある。		

異鰓目オカミミガイ科		オカミミガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Ellobium chinense</i> (Pfeiffer, 1855)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内では周防灘・博多湾・加布里湾・有明海沿岸の河口域に生息し，下記には近年も生息が確認されている地点を挙げた。岡垣町汐入川河口(1971年)，宗像市釣川河口(魚住・佐藤, 1973)でも記録があるが，現状不明である。河口汽水域の高潮帯に生息するため，河川改修などによって，近年も生息地が開発されることが多い。		
危機要因	河川開発，海岸開発，湿地開発，水質汚濁，その他(葦原の野焼き)		
分布情報	築上町，行橋市，北九州市曾根干潟，福岡市雁ノ巣・和白・多々良川河口・今津干潟，糸島市泉川，有明海筑後川・沖端川・塩塚川・矢部川の各河口		
種の概要	殻長 30 mm，長卵形，やや厚質，茶褐色の厚い殻皮を被り，老成個体では殻皮が剥れて白色の殻が露出する。三河湾～九州，朝鮮半島，中国大陸沿岸に分布。		

異鰓目オカミミガイ科		キヌカツギハマシイノミ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Melampus sincaporensis</i> Pfeiffer, 1855		2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内では周防灘・玄界灘・博多湾・有明海沿岸の河口域に生息する。生息地は限定的で，個体数も少ない場所が多い。博多湾の樋井川河口では絶滅した。内湾の海岸湿地や河口汽水域の高潮帯に生息するため，河川改修などによって，生息地が開発されることが多い。		
危機要因	河川開発，海岸開発，湿地開発，水質汚濁		
分布情報	樋井川河口，和白(岡本, 1956；高橋・岡本, 1969)，宗像市釣川河口(1971年)，吉富町，糸島市千早新田，柳川市沖端川河口(福岡県環境部自然環境課, 2001)；2000年以降の記録：行橋市，北九州市曾根干潟，福岡市雁ノ巣・和白・今津干潟，有明海塩塚川・矢部川河口		
種の概要	殻長 10 mm，卵円形，やや薄質，茶～黒褐色で色帯があり，やや薄い殻皮を被る。三河湾～九州，朝鮮半島，中国大陸，シンガポールに分布。		

異鰓目ヒラマキガイ科		クルマヒラマキ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Hippeutis cantori</i> (Benson, 1850)		2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	2001年版では情報が少なく絶滅危惧Ⅰ類とされていたが、県内に比較的広く分布する。福岡市では過去の生息地が消滅している。本種はミズゴマツボ同様に、海岸汽水域に近い淡水に生息することが多い。生息には水質や底質環境、水草や水際の植物などが良好に保たれていることが必要で、河川改修や圃場整備による減少が心配される。また、今後は他のヒラマキガイ類と同様に近縁の外来種の移入にも留意しておく必要がある。		
危機要因	湖沼開発，河川開発，湿地開発，ため池改修，水路改修，水質汚濁，農薬使用，外来種侵入		
分布情報	福岡市西新町西ヶ崎・鳥飼・福岡城，小郡町八坂(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)；遠賀川水系，筑後川水系，矢部川水系，北九州市，福津市，久留米市，大牟田市など		
種の概要	殻幅 10 mm 程度の平たいレンズ形の左巻の巻貝。近畿地方から沖縄県に分布する。別名レンズヒラマキ。		

異鰓目サナギガイ科		クチマガリスナガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Bensonella plicidens</i> (Benson, 1849)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内での分布は局所的であり，個体数も少ない。石灰岩の採掘により生息環境が破壊され，分布地・個体数が減少している。		
危機要因	産地局限，石灰採掘		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台		
種の概要	殻長 2.5 mm。殻は尖った円錐形で，やや大きな亜円形の殻口を持つ。殻口は周縁が肥厚し，口内には強い歯状突起や壁がある。新潟県，群馬県，栃木県，静岡県，岐阜県，福井県，京都府，三重県，岡山県，広島県，大分県，宮崎県に分布。石灰岩の表面に集まって付着していることが多い。		

異鰓目サナギガイ科		スナガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Gastrocopta (Sinalbinula) armigerella</i> (Reinhardt, 1877)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内の産地は極めて限定的であり，個体数も少ない。本種は海浜性の陸貝で，福岡市早良区西新町はかつて海岸沿いであったことを示す生息地であるが，市街化の進行で消滅した。		
危機要因	海岸開発，草地開発，産地局限		
分布情報	県内ではこれまでに福岡市早良区西新町修猷館高校と糸島市二丈串崎で分布が確認されている。早良区の分布確認は 1946 年と古い，糸島市では 2000 年代以降も生息が確認されている。		
種の概要	殻は俵形，殻長 2 mm，白色半透明，内唇に 2 歯，軸唇に 2 歯，外唇に 3 歯があり，外唇は反転する。北海道南部～琉球列島に分布し，海浜植物群落や海岸林に生息するが，沖積平野では海岸から離れた場所にも生息することがある。		

異鰓目キセルモドキ科		キセルモドキ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Mirus reinianus</i> (Kobelt, 1875)		2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：一	
選定理由	県内各地の山地や社寺林，放置された果樹園で生息が記録されたが，近年生息地，個体数とも減少している。記録の多くは 1980 年代以前のもので，再発見されていない場所も多い。		
危機要因	森林伐採，その他(放置された果樹園の再耕地化)		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台・溝河原，添田町英彦山，宮若市犬鳴山・西山・緑山畑，宗像市城山，久山町，篠栗町，新宮町立花山，古賀市薬王寺，福岡市早良区野河内，朝倉市古処山，八女市御前岳，糸島市二丈		
種の概要	殻長 3 cm 程度。殻は黄褐色，殻口は肥厚し，白色，やや反転する。北海道南部，本州，四国，九州に分布。自然度の高い山林，社寺林，放置された果樹園の広葉樹の樹幹や林床に生息。		

異鰓目キセルガイ科		チイサギセル	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Hemizaptyx tantilla</i> (Pilsbry, 1902)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	本種は一般に九州の島嶼の社寺林林床にみられる。本県では小呂島でのみ記録されており(高橋・岡本, 1969), 生息地が限定的であるため, 環境の変化で容易に絶滅するおそれがある。		
危機要因	森林伐採, 産地局限		
分布情報	福岡市西区小呂島		
種の概要	殻は小さく, 殻長 10 mm 程度。殻口はやや小さく, 卵形で, 周縁は肥厚し, 反転する。主襞は長く, 月状襞は短い上腔襞の中ほどから斜めに下がる。県外では長崎県(長崎市, 五島列島, 壱岐), 鹿児島県甬島に分布する。社寺や城址, 里山の堆積落葉下に生息する。		

異鰓目キセルガイ科		アワジギセル	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Pinguiphaedusa awajiensis</i> (Pilsbry, 1900)		2001：一，環境省：一	
選定理由	本種は四国には広く普通に分布するが, 九州での生息地は比較的少なく, 特に本県での分布は限定的で, 個体数も少ない。		
危機要因	森林伐採, 産地局限		
分布情報	豊前市求菩提山・犬ヶ岳, 添田町英彦山, 朝倉市古処山		
種の概要	殻長 15 mm, 殻は螺塔中央部が膨らんだ細長い紡錘形。殻表は平滑で, 黄褐色～赤褐色。主襞は長く, 月状襞はゆるく湾曲し, 短い上腔襞と繋がる。和歌山県, 兵庫県(淡路島), 四国, 九州(大分県, 熊本県, 宮崎県, 鹿児島県)に分布する。広葉樹林内の落ち葉や朽木の下に生息する。シコクギセル, アカチビギセル, イノクチギセルは異名。		

異鰓目キセルガイ科		チビギセル	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Pinguiphaedusa expansilabris</i> (Böttger, 1877)		2001：一，環境省：一	
選定理由	本種は九州では分布地が少ない。県内では英彦山でしか記録されておらず, 個体数も少ない。自然度の高い森林の伐採や遷移進行により, 生息地および個体数の減少が危惧される。		
危機要因	産地局限, 森林伐採, 遷移進行		
分布情報	添田町英彦山		
種の概要	殻長 16 mm 程度。殻は次体層が最も膨らんだ細長い紡錘形。主襞は長く, 短い上下腔襞は真っ直ぐな月状襞で結ばれる。本州, 四国(徳島県), 九州(大分県, 熊本県, 宮崎県)に分布。広葉樹林内の落ち葉や朽木の下に生息する。		

異鰓目キセルガイ科		トサギセル	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Pinguiphaedusa tosana</i> (Pilsbry, 1901)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内での分布は限定的であり, 個体数も少ない。生息地である自然度の高い森林の伐採により, 生息地が減少し, 個体数も減少している。		
危機要因	産地局限, 森林伐採		
分布情報	糸島市二丈浮岳, 朝倉市古処山, 八女市釈迦岳		
種の概要	殻長 13 mm。細長い紡錘形。殻口は小さな洋ナシ形で, 前方に少し突き出る。県外では四国, 九州(大分県, 熊本県, 宮崎県, 鹿児島県)に分布する。石灰岩地帯に多く, 広葉樹林内の落ち葉の下や岩壁の蘚苔類の下に生息する。		

異鰓目キセルガイ科	ピルスブリギセル	絶滅危惧Ⅱ類
-----------	----------	--------

Tyrannophaedusa pilsbryana (Ancey, 1904)

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	1940年代から2000年代まで、県内各地で本種の生息が確認されているが、生息地は比較的限定され、個体数も少ない。自然度の高い森林が伐採されることにより、本種の生息地が減少している。
危機要因	森林伐採
分布情報	豊前市犬ヶ岳、みやこ町、添田町英彦山、宮若市脇田、久山町、篠栗町小浦、朝倉市古処山・江川、八女市釈迦岳
種の概要	殻はやや小型で殻長 15 mm 程度。下軸板は顕著で唇縁まで達する。主襞は長く、背面から腹面間で達し、月状襞は湾曲し、下腔襞の中ほどに達する。九州(熊本県、長崎県、佐賀県、大分県、福岡県)に分布。

異鰓目ベッコウマイマイ科	タカキビ	絶滅危惧Ⅱ類
--------------	------	--------

Trochochlamys praealta (Pilsbry, 1902)

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	県内では、沖ノ島と宮若市でしか確認されておらず、1990年代以降の記録はない。県内では分布域が極めて限定されており、環境の変化などによる絶滅が危惧される。
危機要因	森林伐採
分布情報	宗像市沖ノ島、宮若市宮田
種の概要	殻長 4 mm 程度、茶褐色、高円錐形。本種は滋賀県霊仙山の標本に基づいて記載され、本州(福島県以西)、九州(福岡県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県)に分布する。

異鰓目オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ	絶滅危惧Ⅱ類
--------------	------------	--------

Oxyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	県内では産地が限定的で、個体数も少ない。近年の河川や湿地の開発・汚染により、生息地、個体数ともに減少している。福岡市宇美川、大刀洗町本郷は、高橋・岡本(1969)による記録で、現状は明らかでない。
危機要因	河川開発、湿地開発、水路改修、水質汚濁
分布情報	北九州市小倉南区竹馬川、遠賀川水系、飯塚市山口川、福岡市宇美川、那珂川町(口絵写真 28)、大刀洗町本郷、みやま市大根川、筑後地方河川
種の概要	殻長 12 mm 程度。体層は高く、膨らみはオカモノアラガイよりも弱い。北海道南西部から本州、四国、九州(福岡県、大分県、熊本県)に分布するが、九州では生息地が少ない。カンサイオカモノアラガイ <i>Succinea kwansae</i> Okazaki, 1921 は本種の同物異名。

イガイ目イガイ科	ケガイ	絶滅危惧Ⅱ類
----------	-----	--------

Trichomya hirsuta (Lamarck, 1819)

2001：一，環境省：一

選定理由	過去に県内の多くの地点から記録されている。博多湾では 1940 年代には、福岡市中央区西公園の磯や、同・地行の下水排出口にクログチ <i>Xenostrobus securis</i> (Lamarck, 1819) とともに多産したが、その後かなり早い時期に、博多湾周辺ではみられなくなった(岡本正豊、未発表：口絵写真 32)。佐藤(1978c)は、県内において「稀種」としており、当時既に普通にみられなかったと考えられる。近年、アセスメント資料で曾根干潟周辺から記録されているが、著者らは標本を未確認。それ以外の近年の報告例はなく、大きく減少したと考えられる。
危機要因	海岸開発、水質汚濁
分布情報	深江、桜井、西浦、宮浦、大原、今津、生松原、小戸、残島、地行、西公園、鶴来島、西戸崎、志賀島、神湊、鐘崎、波津、岩屋(岡本, 1956)、玄界灘、響灘、博多湾(高橋・岡本, 1969)
種の概要	日本産は小型で殻長 30 mm、密な殻毛に覆われる。福島・能登～九州、中国大陸沿岸、西太平洋に分布。

フネガイ目フネガイ科		クマサルボウ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Anadara (Scapharca) globosa</i> (Reeve, 1841)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	有明海では、かつて多く漁獲されていたが、1995年以降、激減している。1989年の調査(古賀, 1991)では比較的多くの地点で生息が確認されているが、2007年の調査(吉田ほか, 2009)では確認地点の減少が認められる。2007年の調査では筑後川河口沖に高密度生息域が確認されている(吉田ほか, 2009)。周防灘では近年、確認されていない。福津市・博多湾・加布里湾でも稀に産出がみられるが、近年は生息が確認されていない。		
危機要因	海岸開発, 水質汚濁, 産地局限		
分布情報	周防灘, 有明海(高橋・岡本, 1969), 柳川市沖端(佐藤, 1973), 加布里湾, 博多湾(岡本, 1977); 柳川市沖端川河口沖(2005年), 福津市福岡海岸(泊秀治標本)		
種の概要	瀬戸内海, 有明海, 九州北岸, 中国大陸南部, 東南アジアに分布。内湾の低潮帯～水深25mに生息。		

カキ目イタボガキ科		スミノエガキ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Crassostrea ariakensis</i> (Fujita, 1913)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内では、有明海沿岸の地先や沖合いの干潟に生息する。筑後川河口沖や塩塚川河口沖など、河口域の低潮帯に多い。マガキ <i>Crassostrea gigas</i> (Thunberg, 1793), シカメガキと混生しているが、スミノエガキが水平・水直分布ともに最も狭い。大型個体を含む安定的な個体群のある場所は限られている。地理分布も限られているため、Ⅱ類に評価した。「ひらがき」「せっか」などの名前で呼ばれ、筑後川河口域などでは本種の養殖が盛んであったが、昭和中期からノリ養殖に転換した。周防灘・曾根干潟からも記録があるが、著者らは標本を未確認。		
危機要因	海岸開発, 水質汚濁, 産地局限		
分布情報	沖端沖, 矢部川河口沖(岡本, 1956), 周防灘, 有明海(高橋・岡本, 1969), 北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999), 柳川市沖, 大牟田市地先(伊藤・松本, 2013); 筑後川沖(2008年:口絵写真35)		
種の概要	殻高300mmになる大型のカキで、有明海, 不知火海, 朝鮮半島, 中国大陸沿岸に分布する。		

イシガイ目イシガイ科		トンガリササノハ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Lanceolaria grayana</i> (Lea, 1834)		2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内の水系に広く分布するが、生息地はマツカサガイよりもさらに少なく限定的で、個体数も少ない。河川改修・水質汚濁などの環境変化により、個体群の消滅・縮小が起きている。本種は淡水魚類の繁殖飼育用に採取・商取引されることがあるが、過度の採集は絶滅を早める要因となるため、厳重に慎みたい。		
危機要因	河川開発, 水路改修, 水質汚濁, 農薬使用, 乱獲, 産地局限		
分布情報	遠賀川水系, 今川水系, 祓川水系, 山国川水系, 那珂川水系, 筑後川水系, 矢部川水系(口絵写真39)		
種の概要	殻長10～15cm程度の笹の葉形。国内では愛知県以西の本州, 四国, 九州に分布し、河川や用水路の緩やかな流れの砂礫～砂泥底に生息する。幼生はオイカワ, カワムツ, ヨシノボリの鰓に寄生する(近藤, 2008)。		

イシガイ目イシガイ科		マツカサガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Pronodularia japonensis</i> (Lea, 1859)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内の水系に広く分布しているが、生息地は限定的で、個体数も少ない場所が多い。河川・水路の改修工事・水質汚濁などの環境変化により減少している。多々良川水系や那珂川水系などでは近年生息地の改変などが続き絶滅した可能性も高い(中島淳, 未発表)。また、本種などのイシガイ科貝類はタナゴ類の繁殖飼育用に乱獲・商取引されることがあるが、過度の採集は絶滅を早める要因となり、厳重に慎みたい。		
危機要因	河川開発, 水路改修, 水質汚濁, 農薬使用, 乱獲, 産地局限		
分布情報	遠賀川, 今川, 祓川, 山国川, 多々良川, 那珂川, 筑後川, 矢部川などの各水系		
種の概要	殻長60mm程度。殻表は波状の彫刻が顕著。ニセマツカサガイに似るが、殻後縁には湾曲がない。東北から九州にかけての、小川や用水路の礫～砂泥底に生息する。幼生はオイカワ, カワムツ, ドジョウ, ヨシノボリの鰓や鱗に寄生する(近藤, 2008)。		

ザルガイ目ニッコウガイ科		アワジチガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Macoma (Psammacoma) candida</i> (Lamarck, 1818)		2001：一，環境省：一	
選定理由	県内での記録は少なく、殻もしくは分布記録のみで、生息情報はない。全国的にも生息地は多く確認されていない。内湾の潮下帯に生息するため、確認が難しいが、比較的詳しい調査が行われている博多湾や有明海でも記録がごく少ないため、県内ではもともと寡産であるか、既に絶滅に瀕していると考えられる。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	箱崎埋立地(岡本, 1956)，船越，博多湾，有明海(高橋・岡本, 1969)，博多湾(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999)；有明海矢部川河口沖(2005年：殻)		
種の概要	殻長 35 mm，前後に長い垂三角形で，後背縁は長く細まり，殻表には成長脈と細かい放射条線がある。本州～九州，朝鮮半島，中国，西太平洋に分布。内湾の潮下帯泥底・砂泥底に生息する。		

ザルガイ目ニッコウガイ科		テリザクラ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Moerella iridescens</i> (Benson, 1842)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内では，周防灘沿岸，今津干潟，有明海に分布し，場所によっては多産する。有明海産は大型になるが，他の産地では小型である。泥干潟に生息し，分布・生息域は限定的である。有明海で行われている覆砂事業は，本種のような泥底生息種に負荷を及ぼす可能性がある。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，その他(覆砂)		
分布情報	中島，沖端，沖端沖，黒崎(岡本, 1956)，玄界灘，周防灘，有明海(高橋・岡本, 1969)，福岡町(魚住, 1998)；2000年以降の記録：吉富町山国川河口，北九州市曾根干潟，福岡市今津干潟，有明海矢部川河口		
種の概要	殻長 20 mm，前後に長い垂三角形で，薄質，後端はやや尖り，薄紅色や白色で光沢が強い。本州～九州，朝鮮半島，中国大陸，西太平洋に分布。内湾奥の中潮帯以深の泥底に生息する。		

ザルガイ目シオサザナミ科		ムラサキガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Soletellina adamsii</i> Deshayes in Reeve, 1857		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内各地で記録されているが，玄界灘・響灘・博多湾ではほとんどの個体群が消滅したと考えられ，近年は糸島市で確認されているのみである。周防灘沿岸には生息地が健在で，行橋市では個体数が多い。干潟の埋立や水質汚濁で減少してきたと考えられる。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，乱獲		
分布情報	深江，大原，今津，地行，西公園，箱崎，津屋崎，神湊，鐘崎，波津，岩屋，蓑島，松江(岡本, 1956)，玄界灘，響灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本, 1969)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999)；2000年以降の記録：豊前市，行橋市長井，北九州市新門司港周辺，糸島市二丈浜窪		
種の概要	殻長 100 mm，長楕円形，薄質，紫色で，黄褐色の殻皮を被る。房総半島～九州，中国大陸南部～東南アジアに分布。内湾～外洋の干潟・砂浜の低潮帯以深の砂泥底に生息する。		

ザルガイ目シジミ科		マシジミ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Corbicula leana</i> Prime, 1864		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	本種は 1980 年代半ば以降，全国的に外来種のタイワンシジミ <i>Colbicula fluminea</i> (Müller, 1774) に駆逐されていることが指摘されている。本県でも外来種と思われる個体群が散見される。分布情報は多いが，外来種との見分けが難しく，アセスメントなどの調査では <i>Corbicula</i> 属として報告されることが増えているためか，2000 年代半ば以降の記録が少なくなっている。遺伝子汚染の可能性も含め，本種は危機的状況にあると考えられるため，環境省カテゴリーに準じた。しかし，在来個体群の減少の実態については，詳細・具体的な調査が必要である。		
危機要因	河川開発，水路改修，水質汚濁，農薬使用，外来種侵入，異種交雑(タイワンシジミ)		
分布情報	遠賀川水系，祓川水系，山国川水系，釣川水系，西郷川水系，御笠川水系，那珂川水系，室見川水系，筑後川水系，矢部川水系などの県内各河川や水路，ため池(春日市白水池など)		
種の概要	殻長 30 mm 程度。殻色は黄褐色から黒紫色で輪肋が粗く，光沢は鈍い。本州・四国・九州に分布。		

ザルガイ目ハナグモリ科		ハナグモリ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Glaucanome angulata</i> Reeve, 1844		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内では、周防灘と有明海沿岸に分布する。陸寄りの中潮帯上部の泥底・砂泥礫底に生息し、垂直分布幅はごく狭い。そのため、埋立・護岸工事などで生息地が消滅するリスクが高い。		
危機要因	河川開発，海岸開発，水質汚濁，産地局限		
分布情報	蓑島，沖端，黒崎(岡本，1956)，周防灘，有明海(高橋・岡本，1969)；2000年以降の記録：吉富町山国川河口，豊前市，北九州市曾根干潟，有明海筑後川・塩塚川・矢部川河口		
種の概要	殻長 20 mm，前後に長い楕円形，薄質，緑褐色の殻皮を被る。東京湾～九州，朝鮮半島，中国大陸，東南アジアに分布。別名アオアサリ。		

ザルガイ目バカガイ科		アリソガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Coelomaetra antiquata</i> (Spengler, 1802)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内では確認地点が少ない。福津市福間海岸では、現在も幼貝の打ち上げが比較的多く、冬季には生きた成貝の打ち上げもみられる。本種は全国的に健全な個体群が少なく、福間海岸は貴重な生息地とみなされる。曾根干潟の記録の詳細は不明である。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，その他(海砂採取)		
分布情報	津屋崎，波津(岡本，1956)，玄界灘，響灘(高橋・岡本，1969)，福間町(魚住，1998)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)		
種の概要	殻長 120 mm，亜三角形，薄質，薄紫～茶褐色，膨らみがやや強い。房総・男鹿半島～九州，朝鮮半島，中国大陸，東南アジアに分布。開放的な湾や外洋砂浜の低潮帯～潮下帯の砂底・砂泥底に生息する。		

ザルガイ目バカガイ科		ミルクイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Tresus keenae</i> (Kuroda & Habe, 1950)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内での記録は少なく，過去の産出状況の情報に乏しい。1940年代後半の博多湾では打ち上げは，ごく稀であった(岡本正豊，未発表)。一方，1970年代には数年間，福岡市伊崎漁港で大量の殻がみられた(百崎義隆，未発表)。この他，唐津湾西部や周防灘での産出状況は，よく分かっていない。情報が不足しているが，県内では近年の記録はなく，多く生息していないと考えられるため，環境省の評価に準じた。豊前海では養殖試験が行われたことがある(長本ほか，2003)。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，乱獲		
分布情報	小戸，西公園，津屋崎，蓑島(岡本，1956)，玄界灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，糸島郡寺山(佐藤・岡本，1978)；福岡市伊崎(1936年前後：岡本正豊)，伊崎漁港(1970年代：百崎義隆)		
種の概要	北海道南部～九州，朝鮮半島に分布。内湾・湾口部の低潮帯～水深 40 m の砂泥底に生息する。		

ザルガイ目マルスダレガイ科		シラオガイ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Circe undatina</i> (Lamarck, 1818)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	殻による記録が多いが，福岡市今津，糸島市寺山・姫島，福津市福間海岸では生息の記録がある。寺山では1980年代初期までは，合弁の打ち上げが多くみられたが，近年はほとんどみられない。福間では近年も合弁の打ち上げが稀にみられる。博多湾，周防灘では近年の生息情報はない。内湾域で減少傾向が強いが，湾口部や外洋に面した湾の潮下帯にも生息するため，県内全体では絶滅リスクはやや低いと判断した。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	深江，今津，生松原，小戸，残島，西公園，西戸崎，志賀島，津屋崎，蓑島，姫島(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，糸島郡寺山(佐藤，1973)，福間町(魚住，1998)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；福津市福間海岸(2010年：口絵写真 42)		
種の概要	房総・男鹿半島～九州，中国大陸南部，シンガポールに分布。		

ザルガイ目 マルスダレガイ科	チョウセンハマグリ	絶滅危惧Ⅱ類
-----------------------	------------------	---------------

Meretrix lamarckii Deshayes, 1853

2001：一，環境省：一

選定理由	<p>玄界灘・響灘沿岸に分布し、福津市～新宮町にかけては、現在比較的多くみられる。魚住(1998)は福岡において「本町海域では絶滅? 1993年以降みられない」としており、近年になって再定着・増加が起きた可能性がある。神湊では少産。糸島市志摩野北産の本種は「野北介(大和本草)」「野北濱栗(目八譜)」として江戸時代から著名であったが、近年は生息がほとんどみられない。周防灘の記録は詳細不明。</p>
危機要因	<p>海岸開発, 水質汚濁, 乱獲, その他(海砂採取)</p>
分布情報	<p>野北, 大原, 波津(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 周防灘(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998), 北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999); 2010年以降の記録: 宗像市神湊(口絵写真 44), 福津市福岡海岸, 新宮町, 福岡市海の中道</p>
種の概要	<p>本州～九州, 朝鮮半島, 中国大陸, 東南アジアに分布。外洋の低潮帯～水深 10 m の砂底に生息する。</p>

ザルガイ目 マルスダレガイ科	ハマグリ	絶滅危惧Ⅱ類
-----------------------	-------------	---------------

Meretrix lusoria (Röding, 1798)

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	<p>県内沿岸に広く分布していたが、博多湾やいくつかの小さな産地では消滅している。博多湾では、2012年に今津で少数の生息がみられたが、国内移入の可能性はある。周防灘沿岸では個体数は多くないが広く分布する。加布里湾では漁獲規制や生息地保護対策がとられて、現在は多産し、生息密度は日本最大と考えられる(口絵写真 43)。宗像市, 柳川市にも生息する。本種は、生息地の環境保全や漁獲規制が行われないと、個体群は危機的状況に陥りやすい。</p>
危機要因	<p>海岸開発, 水質汚濁, 乱獲</p>
分布情報	<p>玄界灘, 響灘, 博多湾, 周防灘, 有明海(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998); 2000年以降の記録: 行橋市長井, 北九州市曾根干潟, 宗像市釣川河口, 糸島市加布里湾・引津湾, 柳川市筑後川河口</p>
種の概要	<p>本州～九州, 朝鮮半島南部に分布。</p>

ザルガイ目 ウロコガイ科	ツルマルケボリ	絶滅危惧Ⅱ類
---------------------	----------------	---------------

Borniopsis tsurumaru Habe, 1959

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	<p>県内では三池沖から殻が記録されているのみ。本種はトゲイカリナマコの体表および巣穴に共生し、熊本市・天草松島・八代海北部で近年の記録があるが、有明海奥部では確認されていない。県内では本種の調査データは不足しているが、環境省の評価に準じた。</p>
危機要因	<p>海岸開発, 水質汚濁, 産地局限, その他(宿主(トゲイカリナマコ)の減少)</p>
分布情報	<p>大牟田市三池沖(波部・田中, 1969)</p>
種の概要	<p>殻長 10 mm, 楕円形, 殻頂は強く膨らみ, 褐色のやや厚い殻皮を被る。有明海, 八代海, 朝鮮半島に分布。</p>

ザルガイ目 ウロコガイ科	ニッポンヨーヨーシジミ	絶滅危惧Ⅱ類
---------------------	--------------------	---------------

Divariscintilla toyohiwakensis Yamashita, Haga & Lützen, 2011

2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	<p>本種は大分県中津市と熊本県上天草市でしか記録されていなかった(日本ベントス学会, 2012)が、2011年に福津市津屋崎沖の潮下帯砂底において生息が確認された。本種はシマトラフヒメシヤコ <i>Bigelowina phalangium</i> (Fabricius, 1793)の巣穴に共生するが、シマトラフヒメシヤコは新宮(浜野, 1991), 古賀市(小林, 2013)で記録されていることから、津屋崎～新宮付近の沿岸にはシマトラフヒメシヤコの個体群が存在し、ニッポンヨーヨーシジミも広く分布している可能性が示唆される。</p>
危機要因	<p>海岸開発, 水質汚濁, 産地局限, その他(宿主(シマトラフヒメシヤコ)の減少)</p>
分布情報	<p>福津市津屋崎(2011年)</p>
種の概要	<p>殻長 4 mm, 類円形, 薄質, 白色半透明, 薄い外套膜は殻を覆い, 前部に 2 対, 後部に 1 対と 1 本の外套触角がある。シマトラフヒメシヤコの巣穴の壁面に着生する。</p>

ニオガイ目ニオガイ科		ウミタケ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Barnea (Umitakea) japonica</i> (Yokoyama, 1920)		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内では有明海沿岸に分布する。有明海では「ねじ」「ねじ棒」「うみたけねじ」と呼ばれる漁具での伝統漁法のほか、近年は簡易潜水器でも漁獲されてきた。魚住(1974)は、大牟田市・柳川市沖での「ねじ」による漁獲を詳細に記録した。柳川市での聞き取りでは、県内の有明海沿岸では減少傾向が続いていたが、最近5年間はほとんど漁獲がなく、市場にも出回っていないという。佐賀県沿岸でも同様に減少している。海洋環境の悪化や継年的な過剰漁獲による絶滅が危惧される。覆砂事業は、本種のような泥底に生息する種に負荷をもたらす可能性がある。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，乱獲，その他(覆砂)		
分布情報	沖端沖，矢部川河口沖(岡本，1956)，有明海(高橋・岡本，1969)，大牟田市と柳川市の中間地点の沖合い(魚住，1974)		
種の概要	北海道南部以南～九州，ロシア日本海沿岸，朝鮮半島，中国大陸沿岸に分布。		

ニオガイ目オオノガイ科		ヒメマスオ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Cryptomya busoensis</i> Yokoyama, 1922		2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	本種は県内では記録がごく少ない。博多湾では1例しか採集記録がない。福岡では「少ない」とされ(魚住，1998)，近年は確認されていない。柳川市と行橋市でも，それぞれ半片1個体が得られているにすぎない。しかし，本種は潮下帯に主な生息地があるため，周防灘沿岸などでさらに調査が必要である。有明海の潮下帯調査は比較的進んでいるが，本種は近年ほとんど確認されていない。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁		
分布情報	博多湾(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，柳川市沖端川河口沖(福田，2003)；行橋市長井(2013年：殻)		
種の概要	殻長20mm，前後に長い卵形，後端は裁断状，膨らみは弱く，薄質，白色，黄褐色の薄い殻皮を被る。北海道～九州，朝鮮半島，中国大陸沿岸に分布。内湾～湾口部の低潮帯～水深50mの砂泥底に生息する。		

ニオガイ目オオノガイ科		クシケマスオ	絶滅危惧Ⅱ類
<i>Cryptomya elliptica</i> (A. Adams, 1851)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内では周防灘・博多湾・有明海から，わずかな記録がある。博多湾では再発見されておらず，絶滅した可能性がある。周防灘は，やや調査不足である。環境省カテゴリーに準じた。		
危機要因	海岸開発，水質汚濁，その他(ホストの減少)		
分布情報	蓑島，湊町(岡本，1956)，博多湾，周防灘，蓑島(高橋・岡本，1969)，柳川市沖端川河口沖(福田，2003)		
種の概要	殻長20mm，卵円形，薄質，膨らみは弱く，放射肋が密にあり，白色，淡褐色の殻皮を被る。伊勢湾～九州，南西諸島，インド洋，太平洋に分布。内湾干潟の中潮帯以深に生息し，アナジャコ類の巣穴を利用する。		

カサガイ目コガモガイ科		ツボミガイ	準絶滅危惧
<i>Patelloida comulus</i> (Dunker, 1861)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内では玄界灘・響灘・博多湾・周防灘から記録されており(高橋・岡本, 1969), 各地で普通にみられる種であったが, 減少傾向にあると考えられる。本種は, ウミナナ・イボウミナナの生貝の殻上に着生する。近年の県内調査では, ウミナナ類の豊富な場所でも, 本種がみられない場所が多い。		
分布情報	福津市福間町(魚住, 1998); 吉富町山国川河口(2004 年), 福岡市今津干潟(2005 年), 北九州市曾根干潟(2008 年), 築上町城井川河口(2013 年)		

アマオブネ目ユキスズメ科		ミヤコドリ	準絶滅危惧
<i>Cinnalepeta pulchella</i> (Lischke, 1871)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	近年は, 豊前市, 福岡市, 糸島市で生息が確認されている。泥に埋もれた転石下に生息しており, 確認情報が少ないが, 県内には他にも生息地がある可能性が高い。環境省カテゴリーに準じた。		
分布情報	桜井, 今津, 地行, 西公園, 箱崎, 鐘崎, 岩屋(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 博多湾(高橋・岡本, 1969); 豊前市(2013 年), 糸島市加布里湾(2013 年), 博多湾東部		

アマオブネ目ユキスズメ科		ヒナユキスズメ	準絶滅危惧
<i>Phenacolepas</i> sp.		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	本県では北九州市曾根干潟で, 1999 年前後から継続的に生息が確認されている。岸辺近くの泥底の埋もれ石の下に生息することが多く, 埋立・護岸工事などの影響を受けやすいと考えられる。三浦半島～九州の内湾に分布。未記載種。		
分布情報	北九州市曾根干潟		

アマオブネ目ゴマオカタニシ科		ゴマオカタニシ	準絶滅危惧
<i>Georissa japonica</i> Pilsbry, 1900		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内各地から報告されているが, 分布は不連続で限定的である。1990 年代以降の確認は平尾台, 香春町, 古賀市のみであり, 森林の伐採による生息地の減少が危惧される。		
分布情報	本種は兵庫県たつの市(旧香島村)の標本に基づいて記載され, 本州(関東以西), 四国, 九州に広く分布する。本県では宗像市沖ノ島, 北九州市平尾台(口絵写真 1), 香春町, 宮若市宮田, 福津市楯崎, 古賀市, 新宮町に分布。自然林の湿り気のある落ち葉や小石の下, 石灰岩盤上などに生息する。		

新生腹足目ヤマタニシ科		ヤマタニシ	準絶滅危惧
<i>Cyclophorus herklotsi</i> Martens, 1860		2001：準絶滅危惧, 環境省：一	
選定理由	県内各地の森林林床に生息するが, 分布は散在形で個体数は比較的少なく, 森林伐採により生息地が減少している。分類学的再検討が必要とされている種である。		
分布情報	北九州市小倉南区, 香春町・添田町・福智町, 田川市, みやこ町, 岡垣町, 宗像市, 福津市, 古賀市, 篠栗町・久山町, 福岡市東区・早良区・西区, 筑紫野市, 春日市, 那珂川町, 糸島市二丈・志摩火山・水無・姫島, 朝倉市古処山などに分布する。		

新生腹足目タニシ科		マルタニシ	準絶滅危惧
<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> (Martens, 1860)		2001：準絶滅危惧, 環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	県内各地の水田やその周辺の水路でみられるが, 自然環境が比較的良好な郊外から里山にかけて主に生息している。圃場整備や水質汚濁のほか, 外来種のスクミリンゴガイの繁殖により生息域が狭まっている可能性がある。		
分布情報	北九州市若松区・小倉南区, 遠賀川水系, 釣川水系, 飯塚市山口川, 福津市, 福岡市, 糸島市二丈・志摩, 那珂川町(口絵写真 5), 小郡市, 久留米市, 大刀洗町, 柳川市, みやま市, 大牟田市など		

新生腹足目キバウミニナ科	フトヘナタリ	準絶滅危惧
--------------	--------	-------

Cerithidea (Cerithidea) rhizophorarum A. Adams, 1855

2001：準絶滅危惧，環境省：準絶滅危惧

選定理由	現在のところ、県内各地で生息が確認されているが、生息域が河口域潮間帯上部の塩性湿地周辺に限られるため、河川開発・水質汚濁などの影響を受けやすく、個体群の消滅が危惧される。
分布情報	玄界灘，博多湾，周防灘，有明海（高橋・岡本，1969），遠賀 汐入川（佐藤，1976），二丈町深江，古賀市花鶴川（福岡県環境部自然環境課，2001）；2000年以降の記録：築上町，豊前市，行橋市，北九州市曾根干潟・江川，福津市津屋崎，福岡市和白・多々良川・今津，糸島市泉川・周船寺川，有明海沿岸

新生腹足目キバウミニナ科	ヘナタリ	準絶滅危惧
--------------	------	-------

Cerithidea (Cerithideopsis) cingulata (Gmelin, 1791)

2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：準絶滅危惧

選定理由	本県では現在、周防灘沿岸，津屋崎，今津干潟に分布し、周防灘では比較的豊富に生息する。博多湾では、今津，小戸，樋井川，多々良で生息が確認されていた（岡本，1956）が、今津以外では消滅したと考えられる。津屋崎（和田太一，未発表）と今津の個体群は孤立しており、保全の必要性が高い。
分布情報	玄界灘，博多湾，周防灘（高橋・岡本，1969）；2000年以降の記録：豊前市，行橋市，北九州市曾根干潟，福津市津屋崎，福岡市今津干潟

新生腹足目ウミニナ科	ウミニナ	準絶滅危惧
------------	------	-------

Batillaria multiformis (Lischke, 1869)

2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由	周防灘沿岸では豊富に生息している。博多湾では過去には、より広く普通に生息していたが、現在は生息地が少なくなっている。県内の有明海沿岸では記録がない。周防灘沿岸では絶滅のおそれは低いが、玄界灘・博多湾沿岸では生息地が限定的になっており、注意が必要である。
分布情報	玄界灘，響灘，博多湾，周防灘（高橋・岡本，1969）；2000年以降の記録：吉富町，築上町，豊前市，行橋市，北九州市曾根干潟・馬島，福津市津屋崎，福岡市和白・今津干潟，糸島市加布里湾

新生腹足目リソツボ科	ヌノメチョウジガイ	準絶滅危惧
------------	-----------	-------

Rissoina (Phosinella) pura (Gould, 1861)

2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由	打ち上げで普通にみられる種であったが、減少傾向にあると考えられる。近年は、豊前市，馬島，今津などの内湾～湾口部の清浄な海域の転石地で生息が確認されている。
分布情報	小戸，残島，西公園，西戸崎，波津，蓑島（岡本，1956），玄界灘，響灘，博多湾，周防灘（高橋・岡本，1969），福岡町（魚住，1998）；豊前市，北九州市馬島，福岡市今津（2013年），糸島市二丈福井（2013年：殻）

新生腹足目ワカウラツボ科	ワカウラツボ	準絶滅危惧
--------------	--------	-------

Iravadia (Fairbankia) sakaguchii (Kuroda & Habe, 1954)

2001：－，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	本県では、周防灘沿岸，今津干潟，有明海沿岸に生息する。周防灘沿岸には広く分布し、特に曾根干潟周辺では多くの地点で確認されている。博多湾の和白，多々良からは再発見されていない。
分布情報	博多湾，和白，多々良（高橋・岡本，1969），吉富町，椎田町，豊前市，行橋市（室原，2000），柳川市沖端川（福田，2000）；福岡市今津干潟（2005年），塩塚川（2006年），矢部川（2006年），北九州市曾根干潟（2008年）

新生腹足目ワカウラツボ科	サザナミツボ	準絶滅危惧
--------------	--------	-------

Nozeba ziczac (Fukuda & Ekawa, 1997)

2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由	県内では豊前市，福津市，福岡市で確認されている。豊前市では、干潟の転石下から生貝が確認された。本種は近年になって確認例が増えており、都市部の干潟でも発見されることがある。殻長 1.8 mm の微小な種で、本州～沖縄島，朝鮮半島に分布する。
分布情報	津屋崎町（Fukuda & Ekawa, 1997）；博多湾東部（2000年頃），豊前市（2013年）

新生腹足目ミズツボ科	ホラアナミジンナ	準絶滅危惧
-------------------	-----------------	--------------

Moria nipponica (Mori, 1937) 2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	紀伊半島から中国，四国，九州に分布し，地方群で形態が異なる。アキヨシホラアナミジンナ，ヒコサンミジンナなどは，現在は同種とみなされている。生息域は山地開発などで影響を受けやすく，殻長も2 mm弱と微小で目立たないことから，人知れず減少することが懸念される。
分布情報	山地溪流や細流，湧水中の落葉や礫に付着する。北九州市，添田町，岡垣町，福津市，古賀市，新宮町，福岡市，糸島市，太宰府市，朝倉市，東峰村，広川町，八女市

新生腹足目イソコハクガイ科	アラウズマキ	準絶滅危惧
----------------------	---------------	--------------

Circulus duplicatus (Lischke, 1872) 2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	過去に県内各地で記録されているが，近年の確認例は少なく，減少傾向にあると考えられる。博多湾奥部では，殻の産出も稀になっている。一方，魚住(1998)は打ち上げで普通にみられると記載している。外洋に面した砂浜や岩礫地でもみられることから，絶滅リスクをやや低く評価した。
分布情報	小戸，残島，地行，西公園，鶴来島，名島，神湊，鐘崎，波津(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)；糸島市二丈福井(2013年：殻)

新生腹足目イソコハクガイ科	シラギク	準絶滅危惧
----------------------	-------------	--------------

Pseudoliotia pulchella (Dunker, 1860) 2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	近年は周防灘，博多湾，加布里湾などで確認されているが，個体数は少ない。過去に比して，生息地はやや減少していると考えられる。
分布情報	小戸，残島，地行，西公園，箱崎，神湊，鐘崎，波津，葦島(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)；吉富町小祝(2004年)，北九州市曾根干潟(2012年)，福岡市今津(2013年)，糸島市加布里湾(2013年)，同・二丈福井(2013年：殻多数)

新生腹足目イソコハクガイ科	ナギツボ	準絶滅危惧
----------------------	-------------	--------------

Vitrinella sp. 2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	殻長1.5 mm，薄質半透明。伊豆半島～九州にかけての，内湾～湾口部の潮間帯転石下に生息する(日本ベントス学会，2012)。本県では曾根干潟で記録されているが，微小なため県内の生息分布はよく把握されていない。環境省カテゴリーに準じた。
分布情報	北九州市曾根干潟(山口貝類研究談話会，2002)

新生腹足目ミズゴマツボ科	ミズゴマツボ	準絶滅危惧
---------------------	---------------	--------------

Stenothyra japonica Kuroda, 1962 2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	県内には比較的広く分布している。主に海岸や汽水域近くの池沼，用水路や河川，またそのやや上流の淡水域の泥底に生息する。飯塚市，久留米市などの内陸部にも生息地があるのは，全国的にも珍しい。生息地は河川改修や護岸工事等の影響を受けやすい場所でもあり，環境変化による減少が危惧される。
分布情報	遠賀川水系，筑後川水系，矢部川水系など広く分布。北九州市(江川，新法寺川，小倉南区)，飯塚市，福津市，福岡市(今津湾潮遊池など)，久留米市，柳川市，みやま市，大牟田市

新生腹足目カワザンショウ科	クリイロカワザンショウ	準絶滅危惧
----------------------	--------------------	--------------

Angustassiminea castanea (Westerlund, 1883) 2001：準絶滅危惧，環境省：準絶滅危惧

選定理由	県内での健在産地は少なくないが，潮間帯上部の塩性湿地・葦原に生息するため，河川改修・護岸工事などによって，生息地・個体群の減少・消滅が起きている。
分布情報	陸奥湾以南～九州に分布。県内では周防灘・響灘・玄界灘・博多湾・有明海の河川河口域，潮間帯上部の塩性湿地・葦原に生息する。

新生腹足目カワザンショウ科	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	準絶滅危惧
<i>Assiminea</i> aff. <i>parasitologica</i> Kuroda, 1958		2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：準絶滅危惧
選定理由	ムシヤドリカワザンショウ <i>Assiminea parasitologica</i> Kuroda, 1958 は北海道～本州の日本海沿岸に分布する種で、その他の地域でムシヤドリカワザンショウと呼ばれてきたものは別種として上記の和名が提唱された(日本ベントス学会, 2012)。県内の生息地は多くなく、河川改修などによる個体群の減少が危惧される。	
分布情報	行橋市, 北九州市曾根干潟, 遠賀町西川, 宗像市釣川, 福岡市今津干潟, 糸島市泉川, 有明海塩塚川・矢部川河口	

新生腹足目カワザンショウ科	イヨカワザンショウ	準絶滅危惧
<i>Assiminea</i> sp.		2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内では、周防灘・有明海沿岸に分布。有明海ではヤミカワザンショウと呼ばれていたタイプが、筑後川・塩塚川河口などに分布し、個体数は少なくない。環境省カテゴリーに準じた。内湾中潮帯のカキ群集の間などに生息する。	
分布情報	瀬戸内海, 有明海, 朝鮮半島南部に分布(日本ベントス学会, 2012)。県内では、周防灘沿岸, 有明海筑後川河口・塩塚川河口などに分布する。	

新生腹足目カワザンショウ科	カハタレカワザンショウ	準絶滅危惧
“ <i>Nanivitrea</i> ” sp.		2001：－，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	県内では曾根干潟と津屋崎で確認されている。殻幅 1.2 mm と微小であるため、生息分布の把握が困難な種であるが、県内の生息地は少ないと考えられる。内湾の中潮帯上部の転石裏やカニ穴などに生息し、ウスコミミガイと同所的にみられることが多い。東京湾～九州に分布。未記載種。	
分布情報	北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999); 福津市津屋崎(和田太一, 未発表)	

新生腹足目ハナヅトガイ科	ハナヅトガイ	準絶滅危惧
<i>Velutina</i> (<i>Velutella</i>) <i>pusio</i> A. Adams, 1860		2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	全国的に産出例が減少している。県内での近年の記録は少なく、福津市恋の浦で殻が稀に採集されている。本州～九州, 朝鮮半島に分布。湾口部～外洋の低潮帯以深の岩礫地に生息し、群体ボヤを食べる。	
分布情報	小戸, 志賀島, 津屋崎, 神湊, 鐘崎(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998); 福津市恋の浦(2013年)	

新生腹足目タマガイ科	ネコガイ	準絶滅危惧
<i>Eunaticina papilla</i> (Gmelin, 1791)		2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	博多湾では各地で普通にみられたが、大きく減少したと考えられる。近年は、新宮・福岡海岸と有明海で確認されており、福岡では普通にみられる。	
分布情報	玄界灘, 響灘, 博多湾, 周防灘(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998), 糸島郡芥屋(泊, 1998); 糸島市福吉(1986年), 糸島市船越(1987年), 有明海三池沖(2007年), 福津市福岡(2012年), 新宮町(2012年)	

新生腹足目タマガイ科	オリレシラタマ	準絶滅危惧
<i>Sigatica bathyraphe</i> (Pilsbry, 1911)		2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	玄界灘と博多湾から記録されているが、近年の確認例は少なく、減少傾向にあると考えられる。博多湾の近年の調査では発見されていない。	
分布情報	小戸, 百道, 地行, 西公園, 志賀島, 津屋崎, 神湊(岡本, 1956), 玄界灘, 博多湾(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998); 福津市福岡海岸(2013年)	

新生腹足目タマガイ科		ツガイ	準絶滅危惧
		<i>Sinum (Ectosinum) incisum</i> (G. B. Sowerby I in Reeve, 1864)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	かつては各地の打ち上げで採集されているが、近年の記録はごく少ない。減少傾向にあると考えられる。有明海の潮下帯には比較的広く普通に分布しており、県内では大牟田市沖で生息が確認された。		
分布情報	小戸，志賀島，津屋崎，神湊，鐘崎，蓑島(岡本，1956)，玄界灘，響灘，周防灘，津屋崎(高橋・岡本，1969)，福岡市西公園(岡本，1977)，糸島郡芥屋(泊，1998)；大牟田市沖(2005年)，福津市福間海岸(2010年)		
新生腹足目イトカケガイ科		クレハガイ	準絶滅危惧
		<i>Papyriscala clementia</i> (Grateloup, 1940)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	近年は博多湾東部・中部の干潟域・潮下帯と、有明海矢部川河口沖で生息が確認されている。また、福間海岸の打ち上げでも確認されている。環境省カテゴリーに準じた。		
分布情報	小戸，地行，志賀島，津屋崎，中島(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾，有明海(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)，曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)，柳川市沖端川河口沖(福田，2003)，博多湾中部海域(福岡市環境局，2012)；2000年以降の記録：福間海岸，博多湾東部，矢部川沖		
新生腹足目イトカケガイ科		セキモリ	準絶滅危惧
		<i>Papyriscala yokoyamai</i> (Suzuki & Ichikawa, 1936)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	近年は博多湾東部の潮下帯において生息が確認されている。また、福間海岸の打ち上げで比較的多くみられる。環境省カテゴリーに準じた。房総半島・佐渡～九州，朝鮮半島，西太平洋に分布。		
分布情報	小戸，地行，西公園，名島，志賀島，津屋崎，神湊(岡本，1956)，玄界灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；2000年以降の記録：福間海岸，博多湾東部		
新生腹足目ハナゴウナ科		ヘソアキゴウナ	準絶滅危惧
		<i>Niso hizenensis</i> Kuroda & Habe, 1950	2001：一，環境省：一
選定理由	県内各地で記録があり，特に津屋崎・福間海岸には多産したが，著しく減少したことを岡本(1983)，魚住(1998)が報告している。その他の地域の調査は充分でないが，深刻な減少傾向にある可能性がある。		
分布情報	小戸，西公園，箱崎，津屋崎，神湊，波津，鐘崎，若松燈台付近，多々良(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾，有明海(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)		
新生腹足目エゾバイ科		ミクリガイ	準絶滅危惧
		<i>Siphonalia cassidariaeformis</i> (Reeve, 1846)	2001：一，環境省：一
選定理由	現在も県内各地で確認されているが，有明海以外では個体数が少なく，かつてのように普通にみられる状況ではない。福間では「1970年代半ばを境に激減」と報告された(魚住，1998)。		
分布情報	玄界灘，響灘(高橋・岡本，1969)，糸島郡福吉港(佐藤，1987)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)；2000年以降の記録：行橋市蓑島漁港，北九州市馬島，福津市福間海岸，糸島市二丈福井，柳川市，大牟田市三池沖		
新生腹足目テングニシ科		テングニシ	準絶滅危惧
		<i>Pugilina (Hemifusus) tuba</i> (Gmelin, 1791)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	福津市や糸島市の玄界灘沿岸では，現在も比較的普通にみられる。過去に多くの記録がある博多湾(岡本，1956)では，近年の記録は少ない。有明海ではオニニシ型がみられるが，過去に比して減少している。		
分布情報	玄界灘，響灘，博多湾(高橋・岡本，1969)，柳川市沖端(佐藤，1976)，糸島郡福吉港(佐藤，1987)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；2000年以降の記録：福津市福間海岸，新宮町，福岡市西区今津，糸島市加布里湾・二丈福井		

新生腹足目マクラガイ科		マクラガイ	準絶滅危惧
		<i>Oliva mustelina</i> Lamarck, 1811	2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	周防灘沿岸では、殻が多くみられるが、生貝は稀である。福岡～新宮海岸にかけては、普通にみられる。博多湾ではもともと稀とされるが、近年の記録はない。本種は普通種のイメージが強いが、かつてのように多産する場所は少なくなっている。		
分布情報	玄界灘、響灘、博多湾、周防灘(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998), 糸島郡芥屋(泊, 1998); 行橋市長井, 北九州市曾根干潟, 福津市福岡海岸, 新宮町, 福岡市海の中道, 糸島市二丈深江		

新生腹足目コシボソクチキレツブ科		チャイロフタナシジャジク	準絶滅危惧
		<i>Etrema (Etrempa) gainesii</i> (Pilsbry, 1895)	2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内各地から記録されているが、近年の記録は少ない。特に内湾域では全国的に生息地、個体数が減少していると考えられる。北海道南部～九州、朝鮮半島に分布。		
分布情報	玄界灘、響灘、博多湾、波津(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998), 糸島郡芥屋(泊, 1998); 糸島市二丈福井(2013年)		

新生腹足目フデシャジク科		クリイロマンジ	準絶滅危惧
		<i>Philbertia (Pseudodaphnella) leuckarti</i> (Dunker, 1860)	2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	玄界灘・博多湾から記録されているが、近年の記録は少ない。全国的に内湾域では減少していると考えられる。岩手県・男鹿半島～九州、朝鮮半島に分布。内湾～外洋の低潮帯～水深 20 m の砂底・砂礫底・岩礫底に生息し、転石の裏でみられることが多い。		
分布情報	地行, 西公園, 波津(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 博多湾, 波津(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998); 福津市津屋崎港(2011年)		

異鰓目ブドウガイ科		ホソタマゴガイ	準絶滅危惧
		<i>Limulatys ooformis</i> Habe, 1952	2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	玄界灘・響灘沿岸で記録されているが、近年の記録は少ない。外洋の潮下帯にも生息するため絶滅リスクはやや低いと考えられる。		
分布情報	大原, 西戸崎, 地行, 志賀島, 津屋崎, 神湊, 鐘崎, 岩屋(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 神湊(高橋・岡本, 1969), 糸島郡芥屋(泊, 1998)		

異鰓目ブドウガイ科		トックリタマゴガイ	準絶滅危惧
		<i>Limulatys okamotoi</i> Habe, 1952	2001：－，環境省：－
選定理由	本種は博多湾をタイプ産地として記載され、過去には博多湾の多くの場所で採集されているが、近年の記録は少なく、減少傾向にあると考えられる。ホソタマゴガイが主に砂底に生息するのに対し、本種は岩礫や海藻上でもみられる。外洋の潮下帯にも生息するため絶滅リスクはやや低いと考えられる。		
分布情報	船越, 大原, 小戸, 地行, 箱崎, 名島, 西戸崎, 志賀島, 津屋崎, 神湊, 西公園(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 博多湾, 小戸(高橋・岡本, 1969), 糸島郡芥屋(泊, 1998)		

異鰓目トウガタガイ科		イトカケゴウナ	準絶滅危惧
		<i>Bacteridium vittatum</i> (A. Adams, 1861)	2001：－，環境省：準絶滅危惧
選定理由	福岡市湊町産の個体が、高橋・岡本(1969)に図示されている。県内では近年の記録はない。全国的に生息確率が少ない種である。環境省の評価に準じた。		
分布情報	西公園, 湊町, 津屋崎(岡本, 1956), 博多湾, 福岡市湊町(<i>Aclis bitaeniata</i> Sowerby: 高橋・岡本, 1969)		

異鰓目トウガタガイ科		ヌノメホソクチキレ	準絶滅危惧
		<i>Iphiana tenuisculpta</i> (Lischke, 1872)	2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	県内では玄界灘・博多湾・有明海から記録があり，有明海では生息が確認されているが，博多湾では近年確認されていない。湾口部や外洋に面した砂浜でもみられるため，絶滅リスクをやや低く評価した。房総半島・但馬地方～九州に分布。		
分布情報	西公園，箱崎，名島(岡本，1956)，玄界灘，博多湾，津屋崎(高橋・岡本，1969)，糸島郡芥屋(泊，1998)；2000年以降の記録：矢部川沖，大牟田市三池沖		

異鰓目オカミミガイ科		ケシガイ	準絶滅危惧
		<i>Carychium pessimum</i> Pilsbry, 1902	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内各地で生息が確認されているが，産地は不連続で，個体数が少ない。林縁部は林道整備や草刈等で容易に環境が変わるために，本種の生息地では注意深い取り扱いが必要である。		
分布情報	添田町英彦山，篠栗町若杉山，宗像市沖ノ島，福岡市早良区脊振山・野河内・石釜，糸島市井原。山岳の森林，或いは社寺林の林縁部の下草や落ち葉の下に生息する。本州(関東以西)，四国，九州に分布。		

異鰓目オカミミガイ科		ウスコミミガイ	準絶滅危惧
		<i>Laemodonta exaratooides</i> Kawabe, 1992	2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内では記録が少ない。博多湾では今津で確認されているが，他に記録がないことから，もともと多くないものと思われる。周防灘や玄界灘沿岸河口域を精査すれば，さらに生息地が発見される可能性がある。環境省カテゴリーに準じた。		
分布情報	波津(マキシジコミミガイ：高橋・岡本，1969)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)，行橋市辰下今川中州，福岡市西区今津橋(福岡県環境部自然環境課，2001)，福津市津屋崎(和田太一，未発表)		

異鰓目オカミミガイ科		マキシジコミミガイ	準絶滅危惧
		<i>Laemodonta monilifera</i> (H. & A. Adams, 1854)	2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内では福津市恋の浦で記録されているのみ。本種は外洋～湾口部の高潮帯岩礫地や打ち上げ帯に生息するが，海岸の打ち上げでも記録がないことから，県内玄界灘・響灘沿岸にはもともと少ないのかもしれない。半島部や離島の磯の調査が必要である。環境省カテゴリーに準じた。		
分布情報	福津市恋の浦(1993年：魚住賢司)		

異鰓目オカミミガイ科		ハマシノミガイ	準絶滅危惧
		<i>Melampus nuxeastaneus</i> Kuroda, 1949	2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一
選定理由	玄界灘・響灘・博多湾で記録があるが，近年の確認例は糸島市福浦などごく少ない。県内では本種の生息分布調査は不十分であり，潜在的な生息地がある可能性が高い。自然海岸の減少によって，生息地は減少していると考えられる。		
分布情報	生松原，残島，志賀島，津屋崎，神湊，鐘崎，波津，岩屋(岡本，1956)，玄界灘，響灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，糸島市福吉・福浦・芥屋・野北(福岡県環境部自然環境課，2001)		

異鰓目オカミミガイ科		ナギサノシタタリ	準絶滅危惧
		<i>Microtralia acteocinoides</i> Kuroda & Habe in Habe, 1961	2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一
選定理由	本種についての調査は県内では充分ではないが，生息地は少ないと考えられる。北海道南部以南に分布し，高潮帯・中潮帯上部の岩礫や漂着物の下に生息する。		
分布情報	福津市恋の浦(1993年)・京泊(1994年)，北九州市江川(2006年)		

異鰓目ヒラマキガイ科		ヒラマキモドキ	準絶滅危惧
		<i>Polypylis hemisphaerula</i> (Benson, 1842)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内に広く分布する。水田や用水路，流れの緩やかな河川や池沼などに生息しており，河川改修，用水路のコンクリート化や圃場整備による乾田化などでの減少が危惧される。		
分布情報	本州，四国，九州に分布。県内では遠賀川水系，紫川水系，釣川水系，御笠川水系，室見川水系，筑後川水系，矢部川水系，福岡市中央区福岡城址，福津市，みやま市，大牟田市などに生息する。		

異鰓目モノアラガイ科		モノアラガイ	準絶滅危惧
		<i>Radix auricularia japonica</i> Jay, 1857	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内での分布記録は比較的多いが，河川改修や圃場整備などにより減少していると考えられる。また，近縁の外來種が侵入している可能性があり，生態的競合が危惧される。種の同定には注意が必要である。		
分布情報	日本各地に分布。県内では北九州市，行橋市，遠賀川水系，福岡市，御笠川，周船寺川，飯塚市山口川，筑後川水系（久留米市・朝倉市），矢部川水系（柳川市，みやま市など），大牟田市などに広く生息する。		

異鰓目サナギガイ科		ヒラマルナタネ	準絶滅危惧
		<i>Pupisoma (Salpingoma) harpula</i> (Reinhardt, 1886)	2001：一，環境省：一
選定理由	社寺林のカエデやマキ，ウメ，放置された果樹園のミカンの樹幹や枝にマルナタネガイに混じって生息する。平尾台では，自然度の高い石灰岩地の林内に生息。分布地は不連続，限定的で，個体数が少ない。		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台，篠栗町若杉山，福岡市中央区福岡城址，糸島市二丈。福岡城址の分布確認は1949年，糸島市および平尾台は2000年代。殻長が2 mm程度と微小なために，生息確認の情報が少ないが，県内各地に生息することが予想される。		

異鰓目キセルガイ科		キュウシュウナミコギセル	準絶滅危惧
		<i>Euphaedusa tau subaculus</i> Pilsbry, 1902	2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：一
選定理由	本県では遠賀郡以西の低地・低山帯に分布し，やや分布域が限定されている。2001年版では絶滅危惧Ⅱ類としたが，比較的多くの生息地が確認されたため，準絶滅危惧とする。		
分布情報	水巻町鯉口，宗像市神湊・光岡，福津市西福岡，宇美町，福岡市（東区箱崎，中央区荒戸・城内・谷，南区塩原），春日原ゴルフ場周辺，筑紫野市武蔵，糸島市二丈田中・満吉		

異鰓目キセルガイ科		ホンヒメギセル	準絶滅危惧
		<i>Tyrannophaedusa gracilispira</i> (Möllendorff, 1882)	2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	中国・近畿地方などでは普通種であるが，県内の分布確認の情報は少ない。隣接する大分県の状況から見て，山岳地帯の自然度の高い森林林床にやや普通に分布していると思われるが，近年の森林伐採により，生息地，個体数が減少していることが予想される。		
分布情報	豊前市犬ヶ岳，添田町英彦山。国内では本州（富山県，愛知県以西），四国，九州（大分県，宮崎県，熊本県，長崎県）に分布する。自然度の高い林や社寺林の樹洞，朽木や落ち葉の下に生息する。		

異鰓目キセルガイ科		オキギセル	準絶滅危惧
		<i>Vastina vasta vasta</i> (Böttger, 1877)	2001：準絶滅危惧，環境省：一
選定理由	県内各地で生息が確認されているが，生息密度は余り高くない。自然度の高い山地の森林から里山の林縁までみられるが，森林伐採で山地の生息地が減少している。		
分布情報	豊前市，北九州市小倉南区平尾台，みやこ町，香春岳，英彦山，嘉麻市，宮若市，篠栗町，新宮町，古賀市，福岡市早良区野河内・脊振山，朝倉市古処山・江川，八女市釈迦岳，糸島市二丈・水無・雷山など。地上性種であり，人家周りの林縁部の草地や山地の森林の林床に生息する。		

異鰓目ベッコウマイマイ科		テラマチベッコウ	準絶滅危惧
		<i>Bekkochlamys teramachii</i> Kuroda & Minato, 1976	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	本種は鹿児島県をタイプ産地として、九州(福岡県, 鹿児島県, 宮崎県, 熊本県, 大分県)に分布する。本県では、英彦山, 古処山といった自然度の高い山地の森林の落ち葉の下で、少数個体の生息が確認されている。森林伐採や樹木の枯死により林床が乾燥し、生息地が減少している。		
分布情報	添田町英彦山, 朝倉市古処山		

異鰓目ベッコウマイマイ科		ヒゼンキビ	準絶滅危惧
		<i>Parakaliella hizenensis</i> (A. Adams, 1868)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	本種は四国, 中国, 九州に分布する。本県では 1947 年から記録があり, 1970 年代, 1980 年代にも旧津屋崎町楯崎, 新宮町相島で採集されているが, 生息地, 個体数ともに少ない。森林伐採や海岸開発で生息地が減少している。		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台, 福津市楯崎, 新宮町相島, 太宰府市, 久留米市善導寺町。山地の森林や海岸林の落ち葉の下に生息する。		

異鰓目ベッコウマイマイ科		カサネシタラ	準絶滅危惧
		<i>Sitalina insignis</i> (Pilsbry & Hirase, 1904)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	本種は本州(関東以西), 四国, 九州(福岡県, 大分県, 熊本県, 宮崎県)に分布する。本県では 1940 年代に英彦山, 若杉山で記録されているが, 近年の森林伐採で生息地, 個体数ともに減少している。		
分布情報	添田町英彦山, 篠栗町若杉山。自然度の高い森林の落ち葉の下に生息する。同属のヒラシタラ <i>Sitalina latissima</i> (Pilsbry, 1902)が琉球列島から九州, 四国の沿岸域に分布し, 海流による拡散を暗示するのに対して, 本種は山地に分布し, 拡散方法が異なることが示唆される。		

異鰓目ベッコウマイマイ科		ウメムラシタラ	準絶滅危惧
		<i>Sitalina japonica</i> Habe, 1964	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	1940 年代に県内各地の森林や社寺林の落ち葉の下で生息が記録されているが, 森林伐採で生息地が減少している。1970 年代以降の本種の県内での記録は僅か 2 件である。福岡城址では, 樹木の伐採で林床が乾燥して生息地が消滅した。		
分布情報	北九州市小倉南区呼野・平尾台, 福津市楯崎, 篠栗町若杉山, 福岡市中央区福岡城址		

異鰓目ベッコウマイマイ科		ヒメカサキビ	準絶滅危惧
		<i>Trochochlamys suberenulata</i> (Pilsbry, 1901)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	1947 年以降, 県内での本種の確認は 4 例と極めて少なく, 産地も限定されている。本種は比較的標高の低い山の自然度が高い林の落ち葉や倒木の下に生息するために, 近年の森林伐採や近郊化によって産地および個体数が減少している。		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台, 福智町上野, 福津市宮司元町, 福岡市早良区野河内		

異鰓目ナンバンマイマイ科		シメクチマイマイ	準絶滅危惧
		<i>Satsuma ferruginea</i> (Pilsbry, 1900)	2001：一，環境省：一
選定理由	県内各地で採集されているが, 近年の森林伐採により, 生息地, 個体数とも減少している。		
分布情報	北九州市小倉南区平尾台・加用, みやこ町(口絵写真 29), 香春町, 添田町英彦山, 宗像市大島, 福津市, 古賀市, 宮若市, 久山町, 篠栗町, 新宮町立花口, 福岡市早良区脊振山・野河内, 福岡市西区灘山, 筑紫野市大根地山, 春日市, 那珂川町, 朝倉市古処山, 久留米市高良山, 八女市御前岳, 糸島市二丈福井・志摩野北・水無		

異鰓目オナジマイマイ科		ダコスタマイマイ	準絶滅危惧
<i>Trishoplita dacostae</i> Gude, 1900		2001：一，環境省：一	
選定理由	高橋・岡本(1969)，岡本(1980)が， <i>Trishoplita</i> sp.として報告した種は，色帯や殻形からダコスタマイマイに同定される。本種は県内では，福岡市～糸島市の低地帯を中心に分布し，里山や海岸林の伐採・開発で分布地・個体数ともに減少傾向にある。福岡城址・姪浜では再発見されていない。		
分布情報	福岡市(東区香椎，中央区西公園・福岡城址・谷，西区姪浜)，糸島市二丈福井福吉・串崎・雷山・油比・三坂。また英彦山，犬ヶ岳，若杉山，古処山などの山地には類似した種が分布するが，ここでは別種と考えた。		

ツノガイ目ゾウゲツノガイ科		ヤカドツノガイ	準絶滅危惧
<i>Dentalium octangulatum</i> Donovan, 1804		2001：一，環境省：一	
選定理由	県内では特に博多湾に多産していたが，近年は確認例が少なくなっている。海の中道の一部では，多くの打ち上げがみられる。大牟田市沖の潮下帯では生息が確認されている。本種は生息確認の難しい種であるが，過去に比して減少傾向にあると考えられる。		
分布情報	玄界灘，響灘，博多湾，周防灘，有明海(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)；2000年以降の記録：福津市福岡海岸(殻)，福岡市海の中道・地行(殻)，糸島市志摩船越(殻)，北九州市馬島(殻)，大牟田市沖(2005年)		

イガイ目イガイ科		ヤマホトギス	準絶滅危惧
<i>Arcuatula japonica</i> (Dunker, 1857)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	近年は，福津市と有明海沿岸で確認されており，有明海では産出例が多い。博多湾では小戸から記録されているが，再発見されていない。本種は有明海や各地の湾口部で確認例が増えており，絶滅のおそれのある種に該当するか再検討の必要がある。		
分布情報	小戸，津屋崎(岡本，1956)，玄界灘，響灘，小戸(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)；柳川沖(2005年)，大牟田市三池沖(2005～2010年)，福津市福岡海岸(2012年)		

イガイ目イガイ科		コケガラス	準絶滅危惧
<i>Modiolus (Modiolus) metcalfei</i> (Hanley, 1843)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内の有明海沿岸には多産する。周防灘では曾根干潟と行橋市蓑島で記録があるが，近年は確認されていない。糸島市寺山の記録は，移入の可能性を考慮する必要がある。環境省カテゴリーに準じた。		
分布情報	蓑島，沖端，矢部川河口沖(岡本，1956)，周防灘，有明海(高橋・岡本，1969)，糸島郡寺山(魚住・佐藤，1974)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；2000年以降の記録：筑後川河口，柳川市沖端，柳川市沖，大牟田市三池沖		

フネガイ目フネガイ科		アカガイ	準絶滅危惧
<i>Anadara (Scapharca) broughtonii</i> (Schrenck, 1867)		2001：一，環境省：一	
選定理由	かつて，博多湾・周防灘には多産し，重要な漁業資源であったが，著しく減少した。現在も県内各地で生息が確認されるが，個体数は少ない。周防灘では，中間育成などの養殖も行われてきた。本種は全国的に減少傾向にある。水質・底質汚濁や乱獲が，減少要因と考えられる。		
分布情報	箱崎，波津，岩屋(岡本，1956)，響灘，博多湾(高橋・岡本，1969)，二丈町(魚住・佐藤，1974)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；豊前市(2013年)，福岡市今津(2012年)		

カキ目イタボガキ科		シカメガキ	準絶滅危惧
<i>Crassostrea sikamea</i> (Amemiya, 1928)		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	伊藤・松本(2013)によれば，柳川市・大牟田市の水深 +1 m 以浅では，本種がマガキ・スミノエガキよりも卓越しており，筑後川・沖端川河口内の調査地点では 100 %がシカメガキで占められていた。すなわち，県内有明海沿岸では極めて多産する優占種であり，特に減少傾向は認められない。しかしながら，国内分布が有明海・八代海北部に限定されるため，準絶滅危惧に評価した。佐賀県鹿島市などでは，ナルトビエイによる食害が顕著である。		
分布情報	有明海，八代海，朝鮮半島，中国大陸沿岸に分布。		

カキ目ハボウキ科	ズベタイラギ	準絶滅危惧
<i>Atrina (Servatrina) japonica</i> (Reeve, 1858)		2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	殻表面に棘状突起の無いタイラギ類で、県内では周防灘・有明海の浅海の泥分の多い底質に生息する。有明海では水深 5 m 以深に生息地の中心がある。周防灘でも有明海でも、過去に比して大きく減少している。博多湾や唐津湾西部にも分布している可能性があるが、これまで確認できていない。	
分布情報	周防灘，有明海沿岸	

カキ目ハボウキ科	リシケタイラギ	準絶滅危惧
<i>Atrina (Servatrina) lischkeana</i> Clessin, 1891		2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	殻に棘状突起のあるタイプのタイラギ類で、干潟域から潮下帯にかけて生息する。有明海県内の沿岸では、大牟田市沖が主要な漁場であるが、しばしば大量斃死が発生しており、生息状況が悪化している(逸見ほか, 2013)。博多湾西部では近年多くの打ち上げがみられ、豊富に生息しているとみられる。周防灘でも干潟域で生息がみられる。和名「タイラギ」は本種にあてておくべきではなく、タイラギ類の総称として用いた方が良いと考えられる。	
分布情報	福岡町(魚住, 1998); 周防灘, 玄界灘(福岡), 博多湾, 加布里湾, 有明海	

カキ目ハボウキ科	ハボウキ	準絶滅危惧
<i>Pinna attenuata</i> Reeve, 1858		2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	近年は、福津市・博多湾・有明海で確認されている。福津市福岡海岸では、時に打ち上げが多くみられる。有明海沿岸では大牟田市沖の峰ノ州に多い(吉田ほか, 2009)。環境省の評価に準じた。	
分布情報	小戸, 西公園, 西戸崎, 津屋崎, 志賀島(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998); 加布里湾(1980年代), 福津市福岡海岸(2012年), 博多湾東部(2000年頃), 有明海(沖端川河口沖～大牟田市三池沖, 三池海水浴場, 2000～2004年:逸見泰久, 未発表)	

イタヤガイ目イタヤガイ科	イタヤガイ	準絶滅危惧
<i>Pecten albicans</i> (Schröter, 1802)		2001：一，環境省：一
選定理由	県内では玄界灘・響灘に広く分布し、1886年・1923年・1948年には大発生があった。1948年以降の大発生では宗像市大島, 玄界島～小呂島周辺で漁獲が行われたが、1956年頃には終息している(岡本, 1974)。近年は大発生がみられない。海岸の打ち上げでもごく普通にみられた種であるが、明らかに減少傾向が認められる。	
分布情報	玄界灘, 響灘, 博多湾(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998), 北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999); 2000年以降の記録: 福津市, 博多湾西部, 糸島市二丈福井	

イシガイ目イシガイ科	タガイ	準絶滅危惧
<i>Anodonta japonica</i> Clessin, 1874		2001：一，環境省：一
選定理由	県内に広く分布する。本種とヌマガイ <i>A. lauta</i> Martens, 1877 は、一時ドブガイ <i>A. woodiana</i> (Lea, 1834) に含まれていたが、その後ドブガイの2型(A型・B型)が認識され、近年になってそれぞれヌマガイ・タガイに分類された。県内では両者を区別した記録は少ないが、タガイの方が少ないと思われる。那珂川水系など福岡市周辺ではクリーク改修により激減、或いは絶滅したと考えられる産地もある(中島淳, 未発表)。	
分布情報	遠賀川水系, 那珂川水系, 筑後川水系, 矢部川水系など。	

ザルガイ目ニッコウガイ科	サビシラトリ	準絶滅危惧
<i>Macoma (Macoma) contabulata</i> (Deshayes, 1855)		2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	本種は北日本に多くみられ、九州では生息地が多くない。県内では、周防灘沿岸で比較的普通にみられるが、その他の地域ではあまり多くは確認されていない。河口汽水域の泥底に深く埋もれて生息する。	
分布情報	小戸(高橋・岡本, 1969), 糸島 西海岸(魚住・佐藤, 1974), 北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999); 苅田町(1999年), 糸島市二丈福井(2013年)	

ザルガイ目ニッコウガイ科		オオモノノハナ	準絶滅危惧
		<i>Macoma (Macoma) praetexta</i> (Martens, 1865)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	玄界灘や博多湾の砂浜で、普通にみられる種であったが、減少傾向にあると考えられる。近年は、津屋崎・福岡海岸でやや普通にみられるが、博多湾などでは産出が稀になっている。		
分布情報	生松原，小戸，地行，名島，津屋崎，神湊，波津(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾(高橋・岡本，1969)，糸島郡寺山(佐藤，1973)，糸島郡西海岸(魚住・佐藤，1974)，福岡町(魚住，1998)；福津市福岡海岸(2012年)，福岡市生松原(2012年)		

ザルガイ目ニッコウガイ科		サギガイ	準絶滅危惧
		<i>Macoma (Rexithaerus) sector</i> Oyama, 1950	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	博多湾では、近年は生の松原(長垂海岸など)・今津で確認され、長垂では2013年に大量の打ち上げがみられた(田中正信，未発表)。津屋崎・福岡海岸では、個体数は多くない。環境省カテゴリーに準じた。		
分布情報	今津，生松原，小戸，残島，百道，地行，西公園，志賀島，津屋崎，神湊，蓑島(岡本，1956)，玄界灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；福津市津屋崎(2011年)・福岡海岸(2012年)，福岡市西区生の松原(2013年)・今津(2013年)		

ザルガイ目ニッコウガイ科		モモノハナガイ	準絶滅危惧
		<i>Moerella jodoensis</i> (Lischke, 1872)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内各地から記録されているが、近年も生息が確認されているのは津屋崎・福岡海岸，博多湾などで、生息地・個体数は過去に比して減少していると考えられる。海洋環境の変化による，減少が危惧される。		
分布情報	深江，生松原，小戸，地行，津屋崎，神湊，波津，大原(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾(高橋・岡本，1969)，糸島郡寺山・福吉(佐藤，1973)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)；福津市津屋崎(2011年)，福岡海岸(2012年)，博多湾西部(2008年)		

ザルガイ目ニッコウガイ科		ユウシオガイ	準絶滅危惧
		<i>Moerella rutila</i> (Dunker, 1860)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	近年も県内各地で生息が確認されており，周防灘・加布里湾などでは多産する。博多湾には多くの生息地があったと考えられるが，近年は和白でしか確認されていない。本種は水質汚濁に弱い傾向がある。		
分布情報	船越，今津，小戸，地行，西公園，箱崎，名島，和白，西戸崎，津屋崎，松江(岡本，1956)，玄界灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)；苅田町(1999年)，2000年以降の記録：行橋市，北九州市曾根干潟，新宮町，福岡市和白干潟，糸島市加布里湾・引津湾		

ザルガイ目ニッコウガイ科		サクラガイ	準絶滅危惧
		<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i> (Habe, 1961)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	近年は周防灘や博多湾で確認されており，博多湾東部の潮下帯や行橋市では個体数が多い。本種はアマモ場周辺の砂泥底・泥底を生息地として好むため，近年は港湾内の潮下帯に生じたアマモ場・泥底で多くみられる例がある。一方で，内湾の自然のアマモ場の消失により個体群・個体数が減少している可能性がある。		
分布情報	小戸，蓑島(岡本，1956)，玄界灘，博多湾，周防灘，有明海(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)；2000年以降の記録：豊前市，行橋市，北九州市新門司港，福岡市(博多湾東部，生の松原)		

ザルガイ目ニッコウガイ科		ベニガイ	準絶滅危惧
		<i>Pharaonella sieboldii</i> (Deshayes, 1855)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	近年は福津市・新宮町・糸島市で確認されており，福岡海岸では多くみられる。県内の他の地域では過去に比して，生息地・生息量ともに，かなり減少していると考えられる。		
分布情報	深江，桜井，西浦，大原，生松原，小戸，志賀島，津屋崎，神湊，鐘崎，波津，新宮(岡本，1956)，玄界灘，響灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)；福津市津屋崎港(2011年)，福岡海岸(2012年)，新宮町(2012年)，糸島市志摩芥屋(2012年)		

ザルガイ目フジノハナガイ科		フジノハナガイ	準絶滅危惧
		<i>Donax (Chion) semigranosus</i> Dunker, 1877	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	<p>玄界灘・響灘沿岸の砂浜に生息するが、ほとんどの場所で個体数が少ない。糸島市二丈深江ではやや大きな個体群が確認された。本種はナミノコガイよりも粒径の小さな底質を好むが、近年の本県沿岸の砂浜の粒度はやや粗く、むしろナミノコガイの生息に適しており、本種の優占する砂浜は少なくなっているようである。</p>		
分布情報	<p>玄界灘，響灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)；2010年以降の記録：宗像市神湊，福津市福岡海岸，新宮町，福岡市海の中道・今津，糸島市二丈深江・二丈福井</p>		

ザルガイ目フジノハナガイ科		キュウシュウナミノコ	準絶滅危惧
		<i>Donax (Tentidonax) kiusiuensis</i> Pilsbry, 1900	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	<p>玄界灘・響灘沿岸の砂浜に生息するが、生息地はやや少ない。砂浜の環境変化によって、減少するおそれがある。環境省の評価に準じた。</p>		
分布情報	<p>玄界灘，響灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，福岡市三苦海岸(小林，2012)；2010年以降の記録：福津市福岡海岸，福岡市海の中道，糸島市二丈福井</p>		

ザルガイ目シオサザナミ科		アシガイ	準絶滅危惧
		<i>Gari (Gari) maculosa</i> (Lamarck, 1818)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	<p>県内での記録は少なく、潮下帯に主な生息地があることを考慮しても、生息地は限定されており、少産種であると考えられる。福岡海岸では近年、採集されていない。環境省カテゴリーに準じた。ほぼ同様な垂直分布を持つシオサザナミ <i>Gari (Gari) truncata</i> (Linnaeus, 1767)も県内では記録が少ない。</p>		
分布情報	<p>糸島郡福吉港(佐藤，1976，1987)，福岡町(魚住，1998)</p>		

ザルガイ目シオサザナミ科		ハザクラ	準絶滅危惧
		<i>Gari (Psammotaena) minor</i> (Deshayes, 1855)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	<p>周防灘・響灘・玄界灘の主に河口域に生息する。一時、消滅が危惧された釣川河口や福岡でも、近年確認されている。河川改修や水質汚濁によって、生息地が消失するおそれがある。</p>		
分布情報	<p>神湊(岡本，1956)，玄界灘，神湊釣川河口(高橋・岡本，1969)，野北(岡本，1977)，福岡町(魚住，1998)；2000年以降の記録：豊前市，北九州市小倉南区朽網川・若松区江川，芦屋町遠賀川河口，宗像市神湊釣川河口，福津市福岡海岸，新宮町，糸島市引津湾</p>		

ザルガイ目シオサザナミ科		オチバガイ	準絶滅危惧
		<i>Gari (Psammotaena) virescens</i> (Deshayes, 1855)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	<p>周防灘・響灘・玄界灘・博多湾の主に河口域や内湾に生息する。所によって著しく多産する。博多湾のいくつかの産地では減少した。河川改修や水質汚濁によって、生息地が消失するおそれがある。</p>		
分布情報	<p>玄界灘，博多湾，周防灘(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク，1999)；2000年以降の記録：吉富町，芦屋町遠賀川河口，宗像市神湊釣川河口，福津市福岡海岸，新宮町，福岡市地行浜，糸島市寺山・浜窪</p>		

ザルガイ目キヌタアゲマキ科		キヌタアゲマキ	準絶滅危惧
		<i>Solecortus divaricatus</i> (Lischke, 1869)	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	<p>福岡海岸では、打ち上げが多くみられる。博多湾では過去の記録が多いが、近年は記録がなく、減少していると考えられる。潮下帯に生息地の中心があり、生息状況の把握が難しい。環境省カテゴリーに準じた。</p>		
分布情報	<p>深江，今津，生松原，小戸，残島，地行，西公園，志賀島，新宮，津屋崎，神湊，鐘崎，波津(岡本，1956)，玄界灘，響灘，博多湾(高橋・岡本，1969)，糸島郡福吉港(佐藤，1987)，福岡町(魚住，1998)，糸島郡芥屋(泊，1998)；福津市福岡海岸(2012年)</p>		

ザルガイ目シジミ科	ヤマトシジミ	準絶滅危惧
-----------	--------	-------

Corbicula japonica Prime, 1864

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	本種の生息域である河川感潮域は改修工事や開発によって生息環境が改変されやすい状況にある。食卓には身近な貝であるが、全国的な減少傾向が続いている種でもある。本県の主要産地である筑後川では、1980年代後半は年間800トンを超える漁獲量があった(内藤・中本, 2006)が、環境の悪化(底質の泥化や貧酸素の発生)などにより、2000年代半ば以降は200トンを下回るようになった。
分布情報	遠賀川水系, 山国川水系, 筑後川水系, 矢部川水系など, 県内の河川感潮域および干拓汽水域に広く生息。

ザルガイ目バカガイ科	カモジガイ	準絶滅危惧
------------	-------	-------

Lutraria arcuata Reeve, 1854

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	福岡海岸では「普通」とされていた(魚住, 1998)が、近年は福津市から海の中道にかけての海岸で、ごく稀にしか採集されておらず、減少したと考えられる。その他の地域では近年の記録がない。潮下帯に生息の中心があり、生息状況の把握が難しい。環境省の評価に準じた。
分布情報	津屋崎, 神湊, 鐘崎(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998), 糸島郡芥屋(泊, 1998); 福津市福岡海岸・恋の浦(2012年), 海の中道(2010年)

ザルガイ目バカガイ科	オオトリガイ	準絶滅危惧
------------	--------	-------

Lutraria maxima Jonas, 1844

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	福岡海岸では普通にみられ、時に多く打ち上がる。その他の地域では近年の記録がない。環境省カテゴリに準じた。
分布情報	大原, 生松原, 小戸, 西公園, 志賀島, 津屋崎, 神湊(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 周防灘(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998); 福津市福岡海岸(2012年)

ザルガイ目バカガイ科	ワカミルガイ	準絶滅危惧
------------	--------	-------

Micromactra angulifera (Deshayes, 1854)

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	福岡海岸では時に多く打ち上がり、潮下帯に多産すると考えられる。糸島市船越では低潮帯で確認された。博多湾では近年は確認されておらず、減少したと考えられる。
分布情報	大原, 小戸, 地行, 西公園, 志賀島, 津屋崎(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 博多湾, 生松原(高橋・岡本, 1969), 糸島郡福吉(佐藤, 1973), 福吉, 津屋崎(佐藤・岡本, 1978), 福岡町(魚住, 1998); 福津市福岡海岸(2013年), 糸島市船越(2013年)

ザルガイ目マルスダレガイ科	ガンギハマグリ	準絶滅危惧
---------------	---------	-------

Pitar lineolatus (G. B. Sowerby II, 1854)

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	近年は北九州市馬島, 福津市福岡海岸で確認されているが、個体数は少ない。本種は湾口部～やや外洋の潮下帯に生息することが多く、生息状況の把握は難しい。環境省カテゴリに準じた。
分布情報	小戸, 西戸崎, 志賀島, 津屋崎(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘(高橋・岡本, 1969), 糸島郡寺山(佐藤, 1973), 福岡町(魚住, 1998); 福津市福岡海岸(2012年), 北九州市馬島(2013年)

ザルガイ目ウロコガイ科	ニッポンマメアゲマキ	準絶滅危惧
-------------	------------	-------

Galeomma sp.

2001：一，環境省：準絶滅危惧

選定理由	県内では周防灘沿岸と博多湾今津周辺で、生息が確認されている。今津では少なくない。本種は西日本の内湾域の潮間帯転石下でかなり普遍的に発見されるが、汚染の進んだ場所ではみられない。
分布情報	博多湾(鶴来島)(高橋・岡本, 1969); 豊前市(2013年), 北九州市曾根干潟(2012年), 福岡市今津干潟(2005年), 福岡市今津(2013年)

ニオガイ目オオノガイ科		オオノガイ	準絶滅危惧
		<i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i> Makiyama, 1935	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内各地から記録されているが、近年は和白でしか生息記録がない。本種は九州では殻はよく確認されるが、生貝は稀な場所が多く、安定した大きな個体群は少ない。県内では他にも生息地があると考えられ、さらに調査が必要である。		
分布情報	玄界灘、博多湾、周防灘、有明海(高橋・岡本, 1969)、北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999); 糸島市寺山(1982年)、2000年以降の記録:福岡市和白干潟		

ニオガイ目クチベニガイ科		クチベニガイ	準絶滅危惧
		<i>Solidicorbula erythrodon</i> (Lamarck, 1818)	2001：一，環境省：一
選定理由	博多湾には普通に生息していたようであるが、近年は少なくなっている。福岡海岸、糸島市浜窪などでは近年も合弁の打ち上げが確認されているが、個体数は多くない。周防灘では近年の生息情報はない。本種は比較的の生息環境が限定されており、海洋環境の変化による減少が危惧される。		
分布情報	玄界灘、響灘、博多湾、周防灘(高橋・岡本, 1969)、福岡町(魚住, 1998); 糸島市二丈深江(1985年)、2000年以降の記録:福津市福岡海岸、福岡市生の松原・今津、糸島市二丈浜窪		

ネリガイ目サザナミガイ科		オビクイ	準絶滅危惧
		<i>Agriodesma navicula</i> (Adams & Reeve, 1850)	2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	県内での分布記録は少ないが、福津市から新宮町の海岸では、近年も豊富な生息が確認されている。日本ベントス学会(2012)で記述されているように、瀬戸内海など大きく減少している地域もあり、県内でも個体群動態に注意する必要がある。		
分布情報	小戸、津屋崎、神湊、鐘崎(岡本, 1956)、玄界灘、響灘(高橋・岡本, 1969)、福岡町(魚住, 1998)、糸島郡芥屋(泊, 1998); 2010年以降の記録:宗像市、福津市福岡海岸・恋の浦(口絵写真46)、新宮町		

スエモノガイ目スエモノガイ科		シナヤカスエモノガイ	準絶滅危惧
		<i>Thracia (Eximiothracia) concinna</i> Gould, 1861	2001：一，環境省：絶滅危惧Ⅱ類
選定理由	近年は福津市・福岡市で確認されており、福岡海岸では時に多くみられる。福岡市今津では潮間帯で生息が確認された。本種は佐賀県唐津市鎮西町松島沖のような外洋的な海域にも生息しており、玄界灘沿岸の清浄な浅海域砂底には広く分布している可能性がある。		
分布情報	生松原、小戸、志賀島、津屋崎、神湊(岡本, 1956)、玄界灘、津屋崎(高橋・岡本, 1969)、福岡町(魚住, 1998)、糸島郡芥屋(泊, 1998); 福津市福岡海岸(2011年)、福岡市今津(2013年:口絵写真45)		

スエモノガイ目ミツカドカタピラガイ科		コカタピラガイ	準絶滅危惧
		<i>Myadora (Myadora) reeveana</i> (E. A. Smith, 1880)	2001：一，環境省：一
選定理由	かつて、津屋崎・福岡海岸に多産した種であるが、「著しく少なくなっている」(岡本, 1983)、「最近では激減していて、打ち上げも見られない」(魚住, 1998)と報告され、近年もほとんど確認されていない。著しく減少したのが明らかであるが、潮下帯や他の地域の調査が充分ではないので、準絶滅危惧とした。		
分布情報	津屋崎、神湊、鐘崎、波津(岡本, 1956)、玄界灘、響灘、津屋崎(高橋・岡本, 1969)、福岡町(魚住, 1998); 福津市福岡海岸(2006年)		

マテガイ目マテガイ科		ハラフマテ	準絶滅危惧
		<i>Solen roseomaculatus</i> Pilsbry, 1901	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	県内では、玄界灘・響灘・博多湾から記録があり、近年は福津市や北九州市で確認され、福岡海岸では合弁の打ち上げがみられる。博多湾では近年の記録がない。潮下帯に主生息域があり、生息状況の把握が難しい。環境省カテゴリーに準じた。		
分布情報	生松原、小戸、西公園、志賀島、津屋崎、波津(岡本, 1956)、玄界灘、響灘(高橋・岡本, 1969)、糸島郡福吉港(佐藤, 1973)、福岡町(魚住, 1998); 福津市津屋崎港(2011年)・福岡海岸(2014年)、北九州市馬島(2013年)		

古腹足目ニシキウズ科	キサゴ	情報不足
------------	-----	------

Umbonium (Suchium) costatum (Valenciennes in Kiener, 1838)

2001：－，環境省：－

選定理由 かつては玄界灘・響灘の砂浜海岸に多産していたが、生息量が減少していると考えられる。近年も玄界灘沿岸の砂浜の一部では普通にみられるが、かつてのように多産していない。長期的変動も考慮されるため、さらに継続的な観察、情報の集積が必要である。

分布情報 玄界灘，響灘(高橋・岡本，1969)，福津市福間(魚住，1998)；2010年以降の記録：行橋市蓑島，北九州市小倉北区馬島，宗像市神湊，福津市恋の浦・福間，福岡市東区西戸崎シオヤ鼻，糸島市二丈福井大入

アマオブネ目ユキスズメ科	カゴメミヤコドリ	情報不足
--------------	----------	------

Phenacolepas newtoni (G. B. Sowerby III, 1894)

2001：－，環境省：－

選定理由 過去に県内で記録されているが、近年の記録がなく、減少している可能性がある。相模湾以南に分布するが、全国的に生息記録の少ない種である。別名サガミュキスズメ。

分布情報 玄界灘，響灘(高橋・岡本，1969)

新生腹足目ゴマガイ科	ゲンカイゴマガイ	情報不足
------------	----------	------

Diplommatina (Sinica) gennkaiensis Yamamoto & Uozumi, 1977

2001：－，環境省：－

選定理由 産地が局限されているために環境の変化により絶滅するおそれがある。近縁種との分類学的再検討が必要である。

分布情報 宗像市沖ノ島，長崎県壱岐市白砂神社

新生腹足目オニツノガイ科	カヤノミカニモリ	情報不足
--------------	----------	------

Clypeomorus bifasciata (G. B. Sowerby II, 1855)

2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由 糸島市船越，福岡市志賀島，福津市津屋崎では，1950年代頃生息が確認されていたが，近年県内での生息情報は無い。本種は琉球列島以南に多産するが，日本本土の個体群は1980年代以降，大きく衰退した。本県でも個体群が失われている可能性がある。

分布情報 船越，志賀島，津屋崎(岡本，1956)，玄界灘(高橋・岡本，1969)

新生腹足目タマキビ科	モロハタマキビ	情報不足
------------	---------	------

Lacuna (Lacuna) carinifera (A. Adams 1851)

2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由 福岡市西戸崎と岡垣町波津から記録されている(高橋・岡本，1969)が，近年は確認されていない。アマモなどの海藻上に生息する種で，環境変化の影響を受けて，減少している可能性がある。別名セトウチヘソカドタマキビ。

分布情報 西戸崎，波津(高橋・岡本，1969)

新生腹足目カワザンショウ科	ツブカワザンショウ	情報不足
---------------	-----------	------

Assiminea estuarina Habe, 1946

2001：絶滅危惧Ⅱ類，環境省：準絶滅危惧

選定理由 県内では周防灘・有明海沿岸から記録がある。イヨカワザンショウとの記録の混同が考えられるため，標本や生息状況の再検討が必要とされる。博多湾・響灘・玄界灘沿岸からは，これまでのところ記録がない。

分布情報 蓑島，沖端，黒崎(高橋・岡本，1969)；2000年以降の記録：行橋市，北九州市曾根干潟

新生腹足目カワザンショウ科		ヘソカドガイ	情報不足
		<i>Paludinellassiminea japonica</i> (Pilsbry, 1901)	2001：一，環境省：一
選定理由	県内では沖ノ島から記録があるのみ。本種は自然海岸の海岸林縁から高潮帯にかけての落葉や堆積物下に生息するが、自然海岸の減少に伴って全国的に減少している。本県での生息分布状況は精査されておらず、情報不足とする。		
分布情報	宗像市沖ノ島(山本ほか, 1977)		

新生腹足目タマガイ科		サキグロタマツメタ	情報不足
		<i>Laguncula pulchella</i> Benson, 1842	2001：一，環境省：絶滅危惧I類
選定理由	本種は 1951 年に福岡市西区今津洲崎で、1955 年に有明海矢部川河口で、ともに岡本正豊氏によって発見されたのが国内で最も古い記録である。それら以前の記録・標本がなく、大陸からの移入種である可能性が指摘されている(山下ほか, 2013)ため、情報不足とする。今津では 1957 年を最後に採集されていない。		
分布情報	今津湾, 有明海(高橋・岡本, 1969), 糸島加布里(魚住・佐藤, 1974), 北九州市曾根干潟(九州・琉球湿地ネットワーク, 1999); 2000 年以降の記録: 有明海沿岸筑後川河口, 柳川沖(口絵写真 12)など		

新生腹足目アッキガイ科		オニサザエ	情報不足
		<i>Chicoreus asianus</i> Kuroda, 1942	2001：一，環境省：準絶滅危惧
選定理由	かつては玄界灘・響灘の多くの地点で記録されており、1987 年には福吉港での漁屑から 50 個体が確認されている(佐藤, 1987)。過去には普通種であったことが明らかであるが、近年はほとんど記録がない。漁港や外洋潮下帯での調査データが不足しているため、情報不足とする。		
分布情報	玄界灘, 深江, 大原, 玄界島, 今津, 西公園, 志賀島, 津屋崎, 神湊, 大島, 波津, 岩屋, 脇田(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘(高橋・岡本, 1969), 糸島郡福吉港(佐藤, 1987), 福岡町のろ瀬(魚住, 1998)		

新生腹足目オリレヨフバイ科		ヨフバイ	情報不足
		<i>Telasco sufflatus</i> (Gould, 1860)	2001：一，環境省：一
選定理由	県内各地から記録されているが、近年の記録がほとんどなく、福津市恋の浦でわずかに確認されているのみである。少なくとも、過去に記録のあった深江, 博多湾西部での近年の調査では確認されていない。各地で個体群の消滅が起きている可能性があるが、調査が充分といえないため、情報不足とする。		
分布情報	深江, 今津, 生松原, 残島, 西公園, 神湊, 鐘崎, 波津, 岩屋(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 博多湾(高橋・岡本, 1969), 柳川市沖端(佐藤, 1976); 福津市恋の浦(2012 年)		

新生腹足目オリレヨフバイ科		ウネハナムシロ	情報不足
		<i>Varicinassa varicifera</i> (A. Adams, 1852)	2001：一，環境省：絶滅危惧I類
選定理由	福岡市箱崎から 1 個体が確認されているが、博多湾では他に記録がない。有明海では 1994 年に柳川市沖端川河口で初めて生息が確認され、その後、筑後川沖～塩塚川沖, 矢部川河口などで確認されている。日本ベントス学会(2012)が指摘しているように、柳川市沖の個体群は国外からの移入である可能性が高い。		
分布情報	福岡箱崎海岸(河本, 1934), 柳川市沖端川河口(小菅ほか, 1998), 筑後川沖～塩塚川沖(金澤, 2006); 柳川市矢部川河口(2006 年: 殻)		

新生腹足目ツクシガイ科		ヒゼンツクシ	情報不足
		<i>Vexillum (Pusia) inerme</i> (Reeve, 1845)	2001：一，環境省：一
選定理由	岡本(1956), 高橋・岡本(1969)では、博多湾産はクラウスオトメフデ <i>V. (P.) inerme kraussi</i> (Dunker, 1861)として報告されている。ヒゼンツクシもクラウスオトメフデも、近年は県内からの記録がほとんどなく、減少している可能性がある。		
分布情報	地行, 西公園, 鶴来島, 残島, 津屋崎, 波津, 岩屋, 脇田(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 博多湾(高橋・岡本, 1969), 糸島郡芥屋(泊, 1998); 北九州市小倉北区馬島(2013 年)		

新生腹足目フデシャジク科		トウキョウコウシツブ	情報不足
<i>Kermia tokyoensis</i> (Pilsbry, 1895)		2001：－，環境省：－	
選定理由	県内各地から記録されているが、近年の記録は少ない。本種の生息環境はよく把握されていないが、海藻上からの報告例がある(向井, 1976)。全国的にも減少傾向にあると考えられる。		
分布情報	玄界灘, 響灘, 博多湾, 波津(高橋・岡本, 1969), 福岡町(魚住, 1998), 糸島郡芥屋(泊, 1998)		

異鰓目オオシノミガイ科		オオシノミガイ	情報不足
<i>Acteon sieboldi</i> (Reeve, 1842)		2001：－，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内では博多湾でのみ記録されており、「少ない」とされている(高橋・岡本, 1969)。近年の記録はなく、博多湾からは絶滅している可能性もあるが、個体群の変動の大きい種で、さらに調査が必要と考えられるため、情報不足とした。		
分布情報	小戸, 地行, 西公園(岡本, 1956), 博多湾(高橋・岡本, 1969)		

異鰓目トウガタガイ科		シゲヤスイカケギリ	情報不足
<i>Dunkeria shigeyasui</i> (Yokoyama, 1927)		2001：－，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内から記録があるが、近似種カゴメイトカケギリ <i>Dunkeria casta</i> (A. Adams, 1861)との記録の混同があると考えられる。魚住(1998)は福岡産をカゴメイトカケギリとした。近年、県内からは確認されていない。		
分布情報	玄界灘, 響灘, 博多湾, 津屋崎(<i>Turbonilla</i> (<i>Dunkeria</i>) <i>shigeyasui</i> Yokoyama カゴメイトカケギリ:高橋・岡本, 1969)		

異鰓目トウガタガイ科		アラボリホソマキギヌ	情報不足
<i>Monotygmata pareximia</i> (Nomura, 1936)		2001：－，環境省：－	
選定理由	博多湾で近年も確認されているが、全国的に生息地が限定的で、減少傾向にある可能性がある。他に同属のホソマキギヌ <i>M. lauta</i> (A. Adams, 1853)が玄界灘(高橋・岡本, 1969)・博多湾(福岡市環境局, 2012)から、ミヤビマキギヌ <i>M. amoena</i> (A. Adams, 1853)が響灘(奥谷, 2000)から記録されている。本種およびこれらの種は、生息状況や分類学的情報が不足しており、さらなる情報の蓄積が必要とされる。		
分布情報	小戸(岡本, 1956), 博多湾, 小戸(高橋・岡本, 1969);博多湾東部		

異鰓目トウガタガイ科		エバラクチキレ	情報不足
<i>Orinella ebarana</i> (Yokoyama, 1927)		2001：－，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内では玄界灘という記録があるのみで、評価する情報が不足している。		
分布情報	玄界灘(高橋・岡本, 1969)		

異鰓目トウガタガイ科		ウネイトカケギリ	情報不足
<i>Paramormula scrobiculata</i> (Yokoyama, 1922)		2001：－，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内での記録は少なく、評価する情報が不足している。		
分布情報	西公園, 若松燈台付近(岡本, 1956), 響灘, 博多湾(高橋・岡本, 1969)		

異鰓目トウガタガイ科		エドイトカケギリ	情報不足
<i>Turbonilla edoensis</i> Yokoyama, 1927		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内での記録は少なく，評価する情報が不足している。		
分布情報	玄界灘(船越)(高橋・岡本, 1969)		

異鰓目トウガタガイ科		クラエノハマイルカケギリ	情報不足
<i>Turbonilla kuraenohamana</i> Hori & Fukuda, 1999		2001：一，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	県内での記録は少なく，評価する情報が不足している。		
分布情報	福津市津屋崎(2011年)		

異鰓目ヒラマキガイ科		ヒラマキミズマイマイ	情報不足
<i>Gyraulus spirillus</i> (Gould, 1859)		2001：絶滅危惧I類，環境省：情報不足	
選定理由	2001年版では分布情報が乏しく，絶滅危惧I類とされていたが，県内に広く分布する。本種は水田や小川などでは，農薬使用や水質汚濁によって，減少していると考えられる。しかし，近縁種との分類学的問題や，隠蔽種や起源不明のものが混在している可能性があり，生息状況の評価は注意を要する。		
分布情報	遠賀川水系，那珂川水系，室見川水系，周船寺川，筑後川水系，矢部川水系などに生息。北九州市小倉南区，みやこ町，朝倉市秋月，柳川市，大牟田市などの記録がある。		

異鰓目モノアラガイ科		コシダカヒメモノアラガイ	情報不足
<i>Fossaria truncatula</i> (Müller, 1774)		2001：一，環境省：情報不足	
選定理由	県内に広く分布するが，記録はやや散見的で他のモノアラガイ類に比べると生息密度も低い。外来種との見方もあることから分布情報の蓄積や今後の研究が待たれる。		
分布情報	日本各地に分布。水田の畦や用水路，河川などの止水的環境に生息する。県内では北九州市小倉南区，遠賀川水系，山口川(飯塚市)，福岡市，糸島市二丈，朝倉市秋月，大根川(みやま市)，大牟田市など。		

異鰓目ナンバンマイマイ科		ピロウドマイマイ属の一種	情報不足
<i>Nipponochloritis</i> sp.		2001：一，環境省：一	
選定理由	高橋・岡本(1969)はケハダピロウドマイマイ <i>Nipponochloritis fragilis</i> (Gude, 1900)を，東(1982)はサイコクピロウドマイマイ <i>N. occidentalis</i> Azuma, 1982を，ともに英彦山から記録しているが，分類学的再検討が必要と考えられる。英彦山では1999年の調査でも，同様なピロウドマイマイ類1個体が確認された。非常に希少な種であり，種名の確認と保全が望まれる。		
分布情報	本県は近接県の中でも，ピロウドマイマイ類の記録が著しく少なく，英彦山でしか確認されていない。		

異鰓目オナジマイマイ科		ツシマケマイマイ	情報不足
<i>Aegista (Neoagista) trochula</i> (A. Adams, 1868)		2001：絶滅危惧I類，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	本種は対馬および長崎市・諫早市周辺での分布が知られていたが，1993～95年に福岡市城南区・中央区での分布が確認された(湊ほか, 1996)。湊ほか(1996)は福岡市での生息を自然分布と位置付けたが，中央区では福岡城址のような過去の陸貝相が保持された場所から記録されておらず，近年の移入である可能性を否定できない。今後分布が変動する可能性もあり，更に情報の蓄積が必要である。		
分布情報	福岡市城南区油山山麓，中央区谷・桜坂・輝国。中央区では市街地の小灌木などに生息する。		

異鰓目オナジマイマイ科		マメマイマイ	情報不足
<i>Trishoplita commoda</i> (A. Adams, 1868)		2001：－，環境省：－	
選定理由	本種のタイプ産地“Mososeki”は門司(北九州市)であるが、再発見されていない。本種は山口県瀬戸内海沿岸まで分布しているが、九州ではまだ発見されていない。門司地区での、詳細な調査が必要とされる。		
分布情報	北海道南西部から本州、四国に分布する。		

異鰓目オナジマイマイ科		ヒゼンオトメマイマイ	情報不足
<i>Trishoplita collinsoni hizenensis</i> Pilsbry & Hirase, 1903		2001：絶滅危惧Ⅰ類，環境省：－	
選定理由	本県では久山町と朝倉市から記録されている。しかし、ヒゼンオトメマイマイの特徴とされる殻周縁の細い色帯は、各地のオトメマイマイ類にしばしば出現する表現型で、この色帯の存在をもってヒゼンオトメマイマイに同定すべきではない。分類学的再検討が必要なため、情報不足とした。		
分布情報	ヒゼンオトメマイマイは、長崎県五島列島北端の宇久島をタイプ産地とし、五島列島一円に分布する。色帯の出現は非常に安定しており、無帯の個体は極めて稀にしかみられない。		

キヌタレガイ目キヌタレガイ科		アサヒキヌタレガイ	情報不足
<i>Acharax japonica</i> (Dunker, 1882)		2001：－，環境省：絶滅危惧Ⅱ類	
選定理由	過去に県内で記録があるが、近年はほとんど確認されていない。近年、 <i>Petrasma pusillum</i> (Gould, 1861) キヌタレガイ(環境省・準絶滅危惧)が曾根干潟周辺と博多湾湾口部から記録されているが、著者らは標本を未確認である。本種が分布する潮下帯砂泥底は全体に調査不足であり、キヌタレガイとの混同も考慮されるため、情報不足とする。		
分布情報	大原，今津，小戸，西戸崎，志賀島，津屋崎，神湊(岡本, 1956)，玄界灘，西戸崎，今津(高橋・岡本, 1969)，福岡町(魚住, 1998)		

フネガイ目フネガイ科		ヒメエガイ	情報不足
<i>Mesocibota bistrigata</i> (Dunker, 1866)		2001：－，環境省：絶滅危惧Ⅰ類	
選定理由	博多湾・加布里湾・有明海で、殻が記録されている。博多湾産の殻はごく古いものである。生存年代を特定できないため、情報不足として評価する。本種は国内では瀬戸内海・有明海などに生息していたが、現在は絶滅寸前の状態にある。		
分布情報	大牟田市三池沖(波部・田中, 1959)，桜井，西公園，湊町，西戸崎(岡本, 1956)，博多湾(高橋・岡本, 1969)，加布里湾(佐藤勝義採集:岡本, 1977)		

イシガイ目イシガイ科		ドブガイモドキ	情報不足
<i>Cristaria tenuis</i> (Gray in Griffith & Pidgeon, 1833)		2001：－，環境省：－	
選定理由	本種は宗像市内の河川において、沖縄県石垣島に続く本邦2例目の産地として報告された(今井, 2008;北野・今井, 2012)。殻の内側には弱く短い擬主歯と後側歯が認められる点でドブガイ類とは異なる。県内外の分布状況は不明で、在来種か人為的な移入種であるかは未だ明らかになっていない。ドブガイ類と類似していることから混同されてきた可能性も否定できず、今後の研究と情報の集積が待たれる。		
分布情報	宗像市(本種の北限記録)。県外では沖縄県石垣島。国外では中国大陸，台湾，東南アジアに分布。		

ザルガイ目ニッコウガイ科		ヒラセザクラ	情報不足
<i>Clathrotellina carnicolor</i> (Hanley, 1846)		2001：－，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	かつて津屋崎で稀に産出したことが報告されているが、近年の記録はない。本種は琉球列島以南に分布の中心があり、津屋崎のものは偶存的分散だった可能性もあるため、情報不足とする。		
分布情報	津屋崎(岡本, 1956;高橋・岡本, 1969)		

ザルガイ目ニッコウガイ科		ウズザクラ	情報不足
<i>Nitidotellina minuta</i> (Lischke, 1872)		2001：－，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	本種は内湾のコアマモ場の生息地が減少している一方で、港湾の泥底にも生息し、九州では生息地が少なくな い。隠蔽種が含まれている可能性も示唆されているため情報不足とする。		
分布情報	大原，小戸，地行，西公園(岡本，1956)，玄界灘，博多湾，地行(高橋・岡本，1969)，福岡町(魚住，1998)，糸島 郡芥屋(泊，1998)；2000年以降の記録：吉富町山国川河口，北九州市(新門司港，曾根干潟)，福津市津屋崎 港，福岡市(博多湾東部，今津，今津沖)，糸島市引津湾		

ザルガイ目ニッコウガイ科		アオサギガイ	情報不足
<i>Psammotreta praeupta</i> (Salisbury, 1934)		2001：－，環境省：－	
選定理由	博多湾・玄界灘・有明海から記録があるが，近年は確認されていない。柳川市沖端(佐藤，1978b)では合弁が採 集されている。本種は内湾～湾口部の潮下帯泥底・砂泥底に分布するが，生息記録の少ない種である。県内でも 減少していると考えられるが，さらに調査が必要とされる。		
分布情報	博多湾，玄界灘(西ノ浦)(高橋・岡本，1969)，柳川市沖端(佐藤，1978b)		

ザルガイ目フナガタガイ科		タガンデモドキ	情報不足
<i>Trapezium (Neotrapezium) sublaevigatum</i> (Lamarck, 1819)		2001：－，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	過去に博多湾周辺から多く記録されており，その一部は黒田徳米博士同定である(岡本正豊，未発表)。また1946 ～47年の福岡市地行産の標本(岡本正豊採集)も確認された。一方，近年，博多湾で生息が確認されているもの はウネサントマヤガイ <i>T. (N.) liratum</i> (Reeve, 1843)で，本種の記録はなく，大きく減少している可能性がある。		
分布情報	今津，今宿，地行，西公園，鶴来島，箱崎，志賀島(岡本，1956)，玄界灘，博多湾(高橋・岡本，1969)；北九州市 馬島(2013年：殻)		

ザルガイ目バカガイ科		ナガヒナミルクイ	情報不足
<i>Macrotoma</i> sp.		2001：－，環境省：－	
選定理由	佐藤・岡本(1978)が報告したヒナミルクイに類似した未詳種で，宗像市鐘崎と糸島市寺山から記録されている。近 年，福津市津屋崎港の潮下帯からも採集された。個体数の少ない希少種であるとともに，分類学的検討が必要と される。		
分布情報	鐘崎，寺山(佐藤・岡本，1978)；福津市津屋崎港(2011年)		

ザルガイ目バカガイ科		ユキガイ	情報不足
<i>Meropesta nicobarica</i> (Gmelin, 1791)		2001：－，環境省：準絶滅危惧	
選定理由	本種は九州北岸では，佐賀県東松浦半島以西に個体群がみられる。県内では，今津・津屋崎の古い記録があり， 福岡海岸では2014年に合弁の打ち上げが確認されている。産出例がごく少なく，偶存分布の可能性もあるため， 情報不足とする。県内の干潟域では，近年は確認されていない。		
分布情報	今津，津屋崎(岡本，1956)，玄界灘(津屋崎)，今津(高橋・岡本，1969)，福津市福岡海岸(2014年：田中正信， 未発表)		

ザルガイ目チドリマスオ科		チドリマスオ	情報不足
<i>Donacilla picta</i> Dunker, 1877		2001：－，環境省：－	
選定理由	県内では福岡市能古島で確認されているが，近年の記録はない。本種は外洋に面した清浄な砂浜や砂礫海岸に 生息するが，生息地は局所的である。県内での生息分布について，再調査が必要とされる。		
分布情報	残島(岡本，1956)，玄界灘(高橋・岡本，1969)		

ザルガイ目フタバシラガイ科	ヒメシオガマ近似種	情報不足
----------------------	------------------	-------------

Cycladicama sp. 2001：－，環境省：－

選定理由	シオガマ属の未詳種で、日本ベントス学会(2012), p. 145 に図示されている佐賀県唐津湾産と同種。博多湾の1940年代の標本に含まれ、近年は今宿で多くの打ち上げがみられる。瀬戸内海・九州の内湾干潟・潮下帯の泥底・砂泥底に生息するが、生息地は局所的で少ない。未記載種の可能性がある。
分布情報	福岡市東区西戸崎(1947年)・中央区地行(1946～47年)・西区小戸(1948～49年)：以上、岡本正豊採集標本、福岡市西区今宿(2011年)

ザルガイ目マルスダレガイ科	シオヤガイ	情報不足
----------------------	--------------	-------------

Anomalodiscus squamosus (Linnaeus, 1758) 2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由	県内での記録はいずれも殻であり(岡本, 1956), 近年も糸島市船越では古い殻がみられるが、生貝は採集されていない。本種は現在の九州北部では、唐津市松浦川河口に少産し、同・名護屋浦以西で本格的に個体群が出現する。過去には本県まで分布が達していたことが殻の産出から示されるが、生息年代が不明であるため情報不足とする。
分布情報	船越, 今津, 新宮, 津屋崎(岡本, 1956), 船越, 今津湾(高橋・岡本, 1969)

ザルガイ目マルスダレガイ科	サザメガイ	情報不足
----------------------	--------------	-------------

Dosinia (Bonartemis) histrio iwakawai (Oyama & Habe in Habe, 1961) 2001：－，環境省：－

選定理由	玄界灘・響灘沿岸で記録されており、かつては新鮮な合弁の殻が採集されていた。近年は海の中道において、著しく古い殻が多くみられ、過去に生息していた個体群の遺骸と考えられる。オイノカガミ <i>D. (B.) histrio histrio</i> (Gmelin, 1791)(環境省：準絶滅危惧)と本種が同種であれば、北上分散した個体群が、衰退したと考えることもできる。オイノカガミとの関係と、日本本土、本県での生息分布について、さらに情報が必要である。
分布情報	玄界灘, 宮浦, 志賀島, 津屋崎, 鐘崎(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘(高橋・岡本, 1969)

ザルガイ目マルスダレガイ科	ケマンガイ	情報不足
----------------------	--------------	-------------

Gafrarium divaricatum (Gmelin, 1791) 2001：－，環境省：準絶滅危惧

選定理由	県内では記録が比較的少なく、佐藤(1986c)は産出が多くないと評価している。山口県や九州西岸では、多産地が知られているが、本県では記録が乏しい。近年の確認情報もほとんどないが、調査が充分ではないため情報不足とする。本種は岩礫地に生息するため、半島部や離島の磯での調査が必要である。
分布情報	桜井, 大原, 今津, 波津, 岩屋(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘(高橋・岡本, 1969), 糸島郡寺山(佐藤, 1973); 福岡市西区生の松原(2012年:古い殻)

ザルガイ目マルスダレガイ科	スリガハマ	情報不足
----------------------	--------------	-------------

Tapes platyptycha Pilsbry, 1901 2001：－，環境省：－

選定理由	本種は日本・中国大陸南部に分布し、湾口部～外洋の低潮帯～水深 25 m の砂礫底などに生息する。日本では相模湾～沖縄島に分布するが、いずれの産地でも少産である。本県でも確認例は少なく、近年は記録がない。日本本土では潮下帯に主生息域があり生息確認の難しい種であるが、減少傾向にないか注意する必要がある。沖縄県では絶滅危惧 II 類に評価されている(沖縄県文化環境部自然保護課, 2005)。
分布情報	大原, 神湊(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘(高橋・岡本, 1969)

ザルガイ目ヤドリシジミ科	イソカゼガイ	情報不足
---------------------	---------------	-------------

Basterotia gouldi (A. Adams, 1864) 2001：－，環境省：絶滅危惧 I 類

選定理由	県内では記録が少ない。潮下帯に生息地の中心があり、生息分布の情報が不足している。本種のタイプ産地は門司であるが、近年、門司に近い北九州市馬島の蛸壺から新鮮な殻が採集された。
分布情報	Mososeki (A. Adams, 1864), 神湊(岡本, 1956), 玄界灘, 響灘, 神湊(高橋・岡本, 1969); 北九州市馬島(2013年)

ニオガイ目ニオガイ科	カキゴロモ	情報不足
-------------------	--------------	-------------

Aspidopholas sp.

2001：－，環境省：－

選定理由	スミノエガキやマガキの殻に穿孔する種で、有明海・八代海・朝鮮半島・中国大陸沿岸に分布する。県内では柳川市沖の干潟で生息が確認されている。スミノエガキの大型の殻に穿孔することが多く、国内での生息分布は限定的である。
分布情報	柳川市沖(2008年)

ネリガイ目オキナガイ科	オキナガイ属の一種	情報不足
--------------------	------------------	-------------

Laterunula sp.

2001：－，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	日本ベントス学会(2012)で報告された「オキナガイ属の一種」(絶滅危惧Ⅱ類)と同種と思われる種が、曽根干潟と今津干潟において生息が確認されている。分布の局限された希少種と考えられる。
分布情報	北九州市曽根干潟，福岡市今津干潟

マテガイ目マテガイ科	チゴマテ	情報不足
-------------------	-------------	-------------

Solen kikuchii Cosel, 2002

2001：－，環境省：絶滅危惧Ⅱ類

選定理由	県内では有明海沿岸の低潮帯～潮下帯泥底に生息し、個体数は少ない。本種は大牟田市沖で初めて発見された(菊池, 1985)が、それは1970年代とみなされる。1957年調査の有明海の貝類遺骸の報告に記録がない(波部・田中, 1959)ことから、1970年代頃に移入されたか、急激に増加した種である可能性があり、遺骸群集や化石の再検討が必要である。
分布情報	県内有明海沿岸。県外では、有明海、八代海、瀬戸内海、中国大陸沿岸に分布。